

日曜学校教案誌

創刊号 (第1号)
2001年4・5・6月号



日本キリスト改革派教会
中部中会教育委員会

もくじ

まえがき	相馬伸郎	1
巻頭説教		
「子どもたちを主イエスのもとへ」	相馬伸郎	2
論文		
「響かせていくこととしての信仰教育」	三川栄二	5
描いてみましょう! やさしい絵	岡野美佳	8
『子どもカテキズム』オリエンテーション	相馬伸郎	12
2001年4・5・6月分カリキュラム		13
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		14
4月1日		14
4月8日		22
4月15日		30
4月22日		38
4月29日		47
5月6日		55
5月13日		63
5月20日		70
5月27日		78
6月3日		85
6月10日		93
6月17日		101
6月24日		109
コラム		
教会暦について		17
受難週		25
イースター		33
母の日		65
ペンテコステ		88
花の日		96
父の日		104
日曜学校フェスティバル		117
2001年7・8・9月分カリキュラム		118
編集後記		119

まえがき

相馬伸郎（名古屋岩の上伝道所宣教師）

一昨年そして昨年（2000年）と、「教会学校研修会」の折り、「日本キリスト改革派教会としての『教案誌』があればどれほど良いであろうか」との声を多数伺いました。さらにさかのぼれば、「中部中会40周年記念信徒大会」の分科会、「教会学校の教育と伝道」においても同様の声が聞かれたとの事であり

ます。このような日曜学校教師の方々からの真剣な「声」を受けながら、しかし、もともと、大会教育委員会によってこそ、このような企てがなされるべきであろうと考えておりました。しかし、現在のところ、委員会の方ではその動きはないとの情報を得ました。ここに至って遂に、非力を顧みず、どれほど貧しいものであっても、自らの手で教案誌を作成しなければと、思い定めたのでありました。

牧師として、説教準備の際にいつも自己検証することの一つに、伝えようとしている「事柄」と語る「言葉」の間に「裏切り」が起こっていないか、ということがあります。どう言うことかと申しますと、心を注いで「恵みの勝利の福音、生けるキリスト」を描きだそうとしながら、実際に語られた言葉においては、「律法主義的な、死せるキリスト」を語っているという現実であります。

しかしこれは、おそらく牧師だけの問題、課題ではないと思います。およそ、御言葉を語る者であれば、誰でも、いつでもこの危険がつかまとうものなのではないでしょうか。日曜学校においても例外ではないと思います。個人的な経験をもとにしてのことではありますが（日本キリスト改革派教会のことではありません）、大人の礼拝式では、正しく聖書に則して御言葉が語られ聴かれながら、自分自身が教師、語り手になるそのところで、聴いた答の教えを「変質」させてしまう言葉を語ることが少なからず起こっていると思います。例えて申しますなら、カ

ルヴィニズム（神の主権）を聞いている大人が、子どもにはアルミニウム（人間の協力）を語っている、福音を聞いていながら、子どもらには律法を語るということでもあります。

このような問題意識から、私共の日曜学校の健全な成長の為に、日本キリスト改革派教会の将来のために、どれほど稚拙であったとしても、「どうしても」「一日も早く」「自分たち」の『教案誌』が欲しいと思いついたのであります。

そしてこの問題を克服する最善の筋道は、「教理の体得」にある。これも私共の確信であります。このようなことから、私共はまず最初に、別冊の『子どもカテキズム』をテキストにした、2年に渡るカテキズム教案作成に着手致しました。子どもらに（未信者・求道者に置き換えても同じことでもあります）キリストの福音の証人、語り手として召され、正しく・力強く語るために召されている以上、教理を「身につける」努力に終わりはありませんし、それは、自らの信仰の歩み、成熟そのものにも他なりません。

カテキズム教育という点、「言葉」の理解に終始する過ちに誘われやすいかと思えます。この教案誌は、それを克服すること、「事柄＝生けるキリスト」に導かれることをこそ目標として、編まれることになっております。実際どれほど「裏切り」を克服できているのか・・・取ずかしばかりであります。皆様からのご批判、ご感想をお寄せいただければ心から幸いに存じます。

携わって下さった有志の奉仕者は、いわゆる教会教育の専門家ではありませんし、未だ委員会としても、経済的にもならん基盤も整っていません。「志」だけで立ち上げたのであります。どうぞ、この業をお育てください。お祈りください。そしてご利用ください。御教会の日曜学校の全てのお働きの上に神の励まし、御導きをお祈り申し上げます。

「子どもたちを主イエスのもとへ」

—マルコによる福音書 10 章 13 - 45 節による説教—

相馬伸郎（名古屋岩の上伝道所宣教師）

「子どもたちを私のところに来させなさい。」この主イエスの言葉の中には、憤りが込められております。なぜなら、主イエスの弟子たちは、その時、子どもたち、ルカによる福音書では乳飲み子たちとなっておりますが、彼らを連れてきた親たちを追い返そうとしたからであります。弟子たちは、親たちを叱り飛ばしたのです。「いい加減にしないで。イエスさまはお忙しいのだ、あなたがたは、イエスさまを何と考えているのだ。いくら優しいお方であるからと言っても、甘えるのにも程がある。確かに主イエスは、病を癒し、神の祝福をお与えくださる。しかし、だからと言って、そのような物も分からぬ子どもたちにまで御利益を受けさせようとして、これ以上イエスさまを身勝手な思いで煩わせることは、我々が許さない。」これは、弟子たちにしてみれば、主イエスをお守りしたい気持ちからの発言であったはずであります。決して、単に意地悪い気持ちで親たちをたしなめたとはいえられません。彼ら親たちの、自分勝手な、御利益を求める心をいさめたのだと思います。

ところが、主イエス・キリストは弟子たちのそのような気持ちを知った上で、認めた上で、しかし、彼らを憤られるのであります。主が弟子たちに憤っておられる。弟子たちにしてみれば、それはどんなにびっくりしたことでしょう。

私共はこの時の主の憤りのお姿をしつかり目に焼き付けたいと思います。何故、主はそれほどまでに、激しく憤られるまでに、心動かされたのでしょうか。なぜ、それほどまで、子どもたちに手を置きたい、神の祝福に与らせたいと願われたのでしょうか。それは、彼ら幼子たちが、親に連れてきてもらう以外に、主のみもとに来る術がないからであります。乳飲み子、つまり彼らは自分の力で歩くこともできません。母の腕に抱かれて、連れられてやって来る以外にないのです。それが、乳飲み子、幼子に他ならないのであります。

マタイによる福音書もルカによる福音書もそしてこのマルコによる福音書も、この物語の直後に金持

ちの男、立派な男性と主イエスとの出会いの物語を配置しています。金持ちの男性は、永遠の生命を求めて、子どものときから律法を守ることを心掛けて、真面目に生きてきました。それによって神の祝福を受けているとも考えてまいりました。そして、今、その祝福を揺るぎないものとするために、自分の信仰を揺るぎないものとするために、主イエスのもとを訪ねたのであります。

この男性は、我々からすれば立派な人と見られると思います。見事な生き方をしてきたのです。しかし、彼は神の国から遠ざかってしまいました。離れて行ったのであります。その引き金になったのは、主イエス・キリストからのこの命令を受けたからであります。「持っているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい。」

常識的に考えてみますと、あまりにも金持ちの男性がかわいそうではないかと同情したくもなります。何故、何もしない、何も出来ないそのまま、あるがままの乳飲み子が神の国の祝福にあずかって、何故、あれほどの立派な男性があずかれないのだろうか。弟子たちの、幼子の親にした振る舞いが問題視されるくらいなら、主イエスのこの人への発言はもっと問題なのではないでしょうか。

主イエス・キリストはそのような彼を愛しておられます。だからこそ、彼の自己流の信仰、神理解を覆そうと試みられるのであります。つまり、神の国の福音は、彼が目指したようなあり方、即ち自分で獲得することは出来ない、不可能である事を明らかにさせたのであります。言うまでもなく、全財産を捨てることが永遠の生命を受け継ぐ条件となるではありません。神の国、永遠の生命、救いはただ神の恵みによって与えられるものなのであります。神の国はただ感謝して受ける以外にない、獲得することは不可能なのであります。

福音書記者は、いずれもこの物語の前に、主イエスは乳飲み子を祝福する主イエスの物語を置きます。それは、福音の真理を読者に悟って貰いたいからであります。主イエス・キリストは「持っているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい。」と命

じることによって、彼を「わたしにはできません。こんな私をお救いください。」と、主イエスによりすがらせようと導かれたのであります。

ところが、この時は、彼は主イエスにすがらずに、元の自分自身の姿、自分自身の生き方へ戻って行きます。悲しみながら。余談ですがその意味で、この時の主イエス・キリストの個人伝道は失敗に終わりました。主イエスも、この真剣な求道者を救いから逃しておられる。しかし、私はこの男性が主イエスの復活の後、弟子たちの交わりに加えられたと信じております。十字架と復活のメッセージを聞いてこの人は、本当に主イエスによりすがって永遠の生命を受けた、だからこそ、この物語が福音書記者によって語り継がれたと信じるのであります。

主から離れて行ったこの男性と弟子たちの信仰の理解は深いところで通じ合っております。弟子たちは、この時点でも、自分たちが立派な大人として見られることが大切である、それこそが救いへの道であると勘違いしておりました。弟子たちは、あの金持ちの男性に勝っている、自分たちは何もかも捨てて従っているという強烈な自負をもっているのです。それが、ヤコブとヨハネが、他の弟子の抜け駆けをして、主イエスが王として即位なさった時に、右大臣、左大臣にしてくださいと頼んだ事件に明らかです。しかもそこで彼らは、主イエスが「このわたしが受ける洗礼を受ける事ができるか。」と仰った時、なんと「できます。」と即答したのでした。彼らもまだ、幼子を祝福する主イエスの教えが分からないままであったのであります。

しかし、私共は今、しっかりと悟りたいのであります。つまり、主イエスの前では、誰でも幼子であるということをしてあります。幼子であれば、できることは受けることだけです。よりすがることだけあります。実は、主イエスはあの金持ちの男性も、先程の幼子として、幼子のように見ておられるのであります。勿論、それは弟子たちも例外ではありません。ペトロやヨハネも主イエスから子どもと見られているのであります。24節では、ハッキリと主は、「子たちよ」と弟子に呼びかけておられます。

ところが、彼ら弟子たちも、あの男性と同じ考えを捨ててはいませんでした。

私共は弁えたいのであります。私共は全員、救いを受けると言う意味から言えば乳飲み子であること

をであります。つまり、乳飲み子以外に神に救われることはできないのであります。

さて、私共は教会学校の教師、奉仕者としてこのメッセージを聞きたいと思えます。乳飲み子、幼子こそが救われる、主イエスに手を置かれると言うメッセージを受け入れるなら、私共教師は、ここで「子どもたちを私のところに來させなさい。」と仰る主の命令をどのように聴くのでしょうか。私共は、この主イエスの子どもと言う言葉を自分が受け持っている幼稚科の子ども、小学生、中学生として受け止めて構わないと思えます。特に、私はこの「子ども」とは、先程申した御言葉に照らして考えるなら、教会に來る術を知らない子どもたち、つまり、地域の未信者の子どもたちの事を念頭において聞くことこそ求められていると思っております。

大会の教勢統計を見ますと、教会学校の生徒の減少傾向は、昨年、やっど横ばいになったように思えます。しかし、それは喜ばしいと言うよりは、ほとんど落ちるところまで落ちたと言うことではないかと考えています。一体、今、中部中会の教会学校は契約の子以外に、地域の子たちがどれほど來ているのでしょうか。もしかすると大部分が、契約の子なのではないでしょうか。勿論、教会学校の最も大切な務めは、教会の信仰を契約の子らに継承することであり、私はそれが教会の伝道と教育の最優先の事項、最も大切な務めであると信じております。それなしにはこの地上に歴史を担う揺るぎない教会の形成は実現しません。しかし、もう一方で、かつての日本の教会、しかもまだ十数年前の教会を思えます。それは、未信者の子供たちで溢れかえっていました。私の神学生の時の奉仕教会の一つは、小さな教会でありましたが、100名あまりの教会学校の生徒が通っていました。

教会学校から地域の子どもの姿が消えて久しいこの日本であります。その間に、我々の国はどうなったのでしょうか。改めて申すまでもないでしょう。人の生命の重みを畏れる感覚が麻痺してしまっている子どもたちが育ったのです。教育が機能しなくなったのです。私共はこれを、政治家、教育行政、学校関係者の責任を問うことはできないのではないのでしょうか。むしろ問われているのは日本の教会であります。世の中の人は誰も教会学校の責任を問

ません。なぜなら、重要視していないからであります。それにあぐらをかいて、自らの責任を思わなければ、他の誰でもない、私共自身が、教会学校の重さ、大切さを弁えていないということになるのではないのでしょうか。私共は、この日本にどれほど、教会が、教会学校が大切であるかを、今日あらためて皆さんと弁えたいのであります。

何よりも、主イエスは、私共一人びとりにここで命じておられます。その厳かなる招きの声を聴きましょう。「子どもたちを私のところに來させなさい。」主は、日本の子どもたちを憐れんでおられるに違いないのであります。子どもたちの心の荒廃を痛んでおられるに違いありません。この主イエスが日本の、日本人の心の、とりわけ子ども、思春期の子どもらの現実を嘆き悲しんでおられます。私共はその嘆きに、その御心にもっと寄り添ってよいのではないのでしょうか。主の嘆きを共に嘆くところから、私共の教会、教会学校の新しい取り組みが始まるのではないのでしょうか。

しかし私はそこで、すぐに教会学校の教師たちは小学校の校門に行つて教会学校の案内を配りましようとは申しません。昔の状況とは違つて來ています。ただそこでこそ、この事はきちんと確認したいと思ひます。子どもに伝道するのは、あるいは子どもの伝道を担うのは、実に子どもたち自身であるということでもあります。教会學校に來ている子どもたち、契約の子こそが伝道の担い手なのであります。これは、ちょうど伝道が信徒の務めであり、牧師が、地域の人びとを教会に連れてくるのではなく、信徒、教会員がそれを担うということと同じ原理であります。教会學校の主役は、子どもたちであります。子どもは子どもとして神に用いられるのであります。間違つてはならない、子どもたちの方がよっぽど伝道に関して、神のお役に立てるときへ思ひます。子どもが子どもを呼ぶのです。誘うのです。子どもの世界に入つてゆけるのは子どもだからです。教会學校の先生は、子どもたちに、主イエス・キリストの素晴らしさ、神の愛のすばらしさ、教会學校の楽し

さを味わわせるのです。何よりも、神のお手伝い、神の喜ばれる伝道の奉仕を担うことの光榮を、喜びを、教へ励ますのです。それが、教師の務めの大きな一つなのであります。

最初に、神の國に入るのは幼子のみであると確認致しました。その上で、私共は皆、キリストにある幼子であることも確認致しました。神の壮大な救いの御業は、他ならないその幼子によつてこそ担われるのであります。私共も神の幼子として、教師として奉仕を担うのであります。教会學校の子どもらもまた同じように、そのまま神の救いの歴史を担う奉仕者とされているのであります。

この日本の闇を払うのは、光なるイエス・キリストのみです。この闇は、最も弱い子どもたちに刃を向けています。子どもたちが本当に聴きたい心の深いところで求めているのは、眞の神がおられると言うメッセージであります。御子イエス・キリストの愛の福音であります。先に救われたキリストにある幼子である私共は、主イエスからこの厳かな命令を受けています。「子どもたちを私のところに來させなさい。」

祈禱

子どもを愛しておられる、主イエス・キリストよ。私共に志を与へ、教師としての奉仕を託してください。契約の子らが信仰を繼承し、福音の喜びにあずかり、これを伝えることが出來ますように。神なく望みなさまに放つておかれている、日本の子どもたちを憐れんでください。彼らを、教会へ取り戻すために、私共教師の祈りを、その叫びを熱くしてください。その奉仕の業を祝福して下さい。アーメン。

※ 2000年11月23日に名古屋教会で行われた「中部中会教会學校教師研修会」の開会礼拝の説教を掲載しました。教案誌の作成は、このときの話し合いを発端としています。

響かせていくこととしての信仰教育

三川栄二（稲毛海岸教会牧師）

親から子への信仰継承教育を、教会は古くから「カテキズム教育」として考えてきました。しかし、カテキズム教育と称することによる誤解が、一般によく見られます。それはカテキズム教育とは、カテキズム（具体的にはいわゆる教理問答書）を用いてなされる、いわば「教理教育」であり、それはもっぱら幼児洗礼を受けた未陪餐会員たる青少年を信仰告白と陪餐に至らせるときに、またそのためになされる教育であり、それは教会でなされるものとする誤解です。カテキズム教育というのは、本来どのようなものであるかを明らかにするために、まずカテキズムの意味について考えてみましょう。

1. 「カテキズム」という言葉の由来と意味

「カテキズム」という言葉は、ギリシャ語のカテケーシスに由来します。これはエケーオー（鳴らす、響く、響かせる、反響させる；エコー [響き、こだま] の動詞形）に、前置詞カタ（下に）がついた言葉で、「耳に響かせる」「肉声をもって教え込む」「口で教える」との意味を持っていました。このカテケーシスという言葉は、新約聖書においては、「信仰上のことについて教える」こととして用いられます（ロマ 2:18、1 コリ 14:19、ルカ 1:4、使徒 18:15、ガラ 6:6）。使徒教父時代になると、それは「信仰生活に入ることを志している者への教育」をさす言葉として用いられました（クレメンズ第二書簡 17:1）。古代教会以降は、それは「信仰の道に入る者への一定期間の教育」、「口頭教授」を意味するものとなりました。そこから今日カテキズムを「教理問答」と理解したり、訳したりするようになっていきますが、この言葉には本来「問答」といった意味はありません。口伝えにして教えるとか、響かせるということは、単に教理をオウム返しにさせて覚えさせるといったことではまったくなく、むしろそのような機械的、非人格的な教育を排した、「人格から人格へと伝えられていく教育」として考えられてきたのでした。教育する側の中にもっている、キリストにある生命と信仰の喜びとが、教育される側に「響かせられて」いき、それが今度は相手の中で「反

響し続ける」ものとなっていく、また互いの中でキリストにある信仰とその喜びとが反響しあっていく、そしてその生命がその人の生活全体にわたって「響き渡り、反響していく」ようになる、そのような教育がカテキズム教育の意味することです。ですからそれは人格から人格へと、しかも生活の中で、生活を通してなされていく全人的教育なのです。「系統的に信仰を教え、それも理論を旨とするよりも、じかに教理を生活に滲み込ませる実践の教授、口から口へと伝えられる信仰生活の実践の手引、教理を踏まえた全人教育」であるということが出来ます。それが最も有効な場所は、いわずもがな家庭でありましょう。

2. カテキズム教育の「問い」と「答え」のダイナミズム

カテキズム教育が「信仰問答」教育と短絡化される原因の一つは、そこで用いられた書物が問答形態が多かったことにも由来します。しかし、この問答形態で意図されたことは、ある一定の教理内容を「教え込む」とか「覚え込ませる」といった教条的なものであったのではなく、そこには「生きた会話」がありました。しかもそれは親と子どもの生きた交わりの中での会話なのです。子供の素朴な質問に答える、しかもそれを親自身の信仰の告白として答えていくという親の姿が、そこには反映されているのです。ここでの問答というのは、子の質問に答える親の信仰告白なのです。しかもそれは親としての慈愛に満ちた、また子を理解した中でなされる応答、会話の中での教育です。子の理解力に合わせてなされる、生活体験の中での信仰教育なのです。そこで問いと答えには、生きたダイナミズムがあるのです。

この問答形態というのは、古来より洋の東西を問わず、教育の基本的な方法でした。ソクラテスの産婆術やプラトン、アリストテレスと弟子たちとの会話の中での教育、また論語にみられる孔子と弟子たちとの会話の中での教育、さらには中世におけるスコラ学教育形態が、まさに問答によるものでした。

例えばアンセルムスの「プロスロギオン」はガウニコとの対論として展開されていますし、「クール・デウス・ホモ」は弟子ボソーとの会話です。またトマス・アキナスの「神学大全」は初学者のための神学入門、手引きとして執筆された、問答形態の教科書、いわば巨大な信仰問答なのです。問答形式による教育は、教育の基本、原点のようなものであるわけです。そこでは相手の認識能力に合わせて行われ、学習者自身の真理認識に至る過程を重要視します。相手に考えさせること無しに、初めから満点の答えを提示するのではなく、「答えに至る過程」を大事にします。学習者自身が考える、考えさせられる、その苦闘の中で自ら真理に到達していくことを求めたのです。真理認識に至る過程があってこそ、その真理を自らのものとして体得しうるからです。それが「学習」ということなのです。信仰教育、即ち聖書真理の体系的理解とそれに対する主体的告白と応答のための教育も同じです。そこではその真理を、自らのものとして告白し、応答していくことが求められる、そのためにはその真理を認識していくための過程が大切なのです。そのために「問答」形態が取られ、用いられました。そこで信仰教育を考えていくとき、もう一度この問答形態による教育の意義を再考する必要があります。

問答形態による信仰教育は、既に聖書にみられるものです。申命記6章では「今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい」(6/7節)と求められています。これは即ち信仰教育が、ある一定の時間内だけのものではなく、寝食や仕事、休息といった生活の全てにおいてなされることを求めている言葉です。神に向かって生きる生活の全体が、即ち信仰教育であるのです。しかもその教育方法は、「将来、あなたの子が、「我々の神、主が命じられたこれらの定めと掟と法は何のためですか」と尋ねるときには、あなたの子にこう答えなさい。「我々は、云々」」(6章20節以下)というように、子が親に問い、その問いに親が答えていくことによるのです。この教育形態はイスラエルの伝統でした(出エジプト記13章14節以下、ヨシュア記4章6節以下)。またこれは主イエスがなされた弟子教育の方法でもありました。弟子が主に問い、主が

それに答えられる、そうして主は弟子たちを教えられたのです。こうして子が親に問い、弟子が師に問い、それに親また師が答えていくことで、彼らが信仰の真理に至らせられる、この生きた問答の中で信仰は教育されていったのです。しかもそれは寝食を共にする生活のただ中で、生活全体をもってなされたのでした。そこには親と子との、また弟子と師との血の通った愛と生きた信頼の関わりが前提されています。

カテキズム教育でなされる問答形態の教育は、このような血の通った、生きた、生活実践の中で、人格的関わりにおけるダイナミックな教育なのです。教理条項をオウム返しに伝達させていくための問答なのではなく、むしろ教える側の中にある生きた「信仰の響き」を、教えられる側に「響かせていく」こと、さらにはその人の中においても「響き続けていくように響かせていく」ことこそ、問答形態でカテキズム教育がなされていくことの意義なのです。こちらの内にある信仰の生命と喜びとが、相手に反響させられていく、それが人格から人格へと伝えられていくための問答なのです。ですから信仰問答書の問答は、それを正しく伝えていくための骨子、概要なのであって、それをそのまま教えこめば良いものではなく、それを教え語る者が生きた自分の信仰と生活の内に、それを肉付けしていくことがそもそも求められているものなのです。問答書を手引きとして、親が子に、教師が生徒に、自分の信仰とその喜びとを告白し、証していくこと、それがカテキズム教育なのです。そしてこのカテキズム教育の本来の場は、親と子との共同生活と神奉仕の場である「家庭」という小さな教会であり、またその小さな教会が集められる「教会」なのです。いわゆる堅信礼教育は、家庭における信仰継承のカテキズム教育を統合し完成させて、教会における生涯教育へと橋渡ししていくものであって、そこでは家庭での信仰教育が既に前提されているのです。しかしどちらも別々のものではなく、カテキストである親や教師が、自らの信仰の告白として、問答書に肉付けしながら、それを子に生徒に響かせていくことが求められているのです。

その一例をルターの小教理問答に見ていきましょう。徳善義和氏はルターの問答を、「子供がお父さんにした質問」として特徴づけます。「あなたは主

なる私の他になものも神としてはならない」。それに対して、「父さん、これなあに」と子供が聞く、すると「父さんはね、おまえと一緒にだよ、何ものにもまして神様を畏れて、愛して、信頼するんだよ、神様がいちばんだ」と父さんが話をし、子供に向かって自分の信仰を証し、告白している答えであるとしています。「私は天地の造り主、父なる神を信じます。「父さん、これなあに」。「父さんは信じているよ、神様がこの父さんを造ってくださったことをね、全てのものと一緒にだよ」(『障害者神学の確立をめざして』、p91、92)。この問答は、子が親に信仰を問い、親がそれに答える形で、自分の信仰を告白するものであるとするのです。それは親としてのルターと、当時二才前後であった長男ハンスとのやり取りを彷彿とさせるものがあります。執務している部屋にハンスが遊びに入ってくる、そこでルターは仕事の手を休めてハンスを膝の上に乗せるのです。するとハンスが尋ねる、「父さん、神さまって何」。その質問に目を細めながら答えていくルターの姿が浮かんでくるようです。カテキズム教育の原点は、この親と子との愛と信頼に満ちた、神への信

仰を中心にした交わりの中にあります。その教育とは、生活の中で証しされていく親自身の信仰告白なのです。そしてそのようにしていれば「口移し」で教えられていく教育の中で、信仰の言葉、それも恣意的なものではない教会の信仰の言葉を、自分の信仰の言葉として身につけさせていくことなのです。信仰教育が問答形態でなされることの意義はそこにあります。口移しで教えられる、それは単なるオウム返しではなく、自分の信仰を答える練習をするのです。「もともとは他者の言葉であるはずなのに、それを暗唱するうちにその人の中に内在する言葉、外からの言葉であったのに内からの言葉となってしまうような言葉」(加藤常昭、「雪ノ下カテキズム」、p364)。そのような信仰の言葉をもって、しかも教え語る者による生きた信仰の証しと告白をもって教えられる言葉によって、「自分の責任で、自分の言葉として信仰を言い表す練習をさせるのです」。こうして教会の信仰の言葉が内在化されていくことによって、信仰と生活が恣意的ではないものとして成長せられ、責任ある主体的応答としての信仰と生活が確立されていくのです。

※承諾を得て、日本キリスト改革派教会東部中会教育委員会〔1996年教会学校教師ノート第20号〕から転載いたしました。



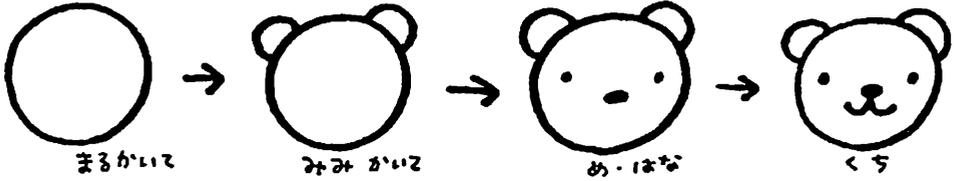
描いて
みましょう!
やさしい絵



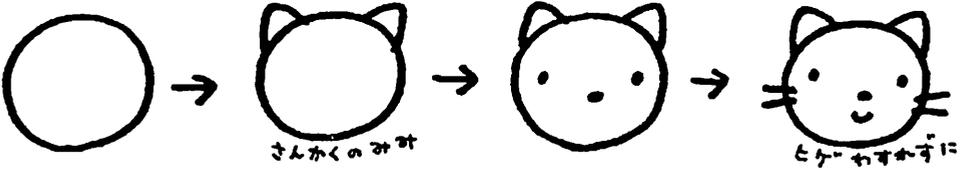
描いてみましょう!

《 どうぶつ 》

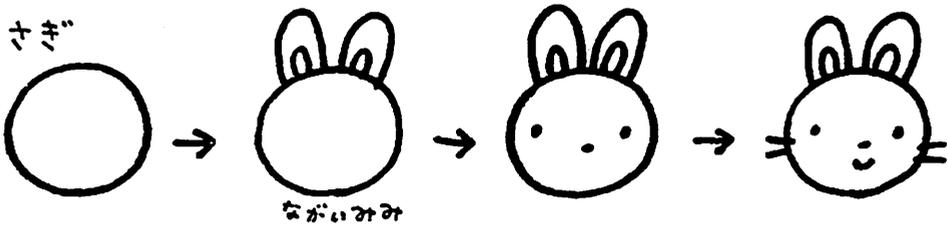
くま



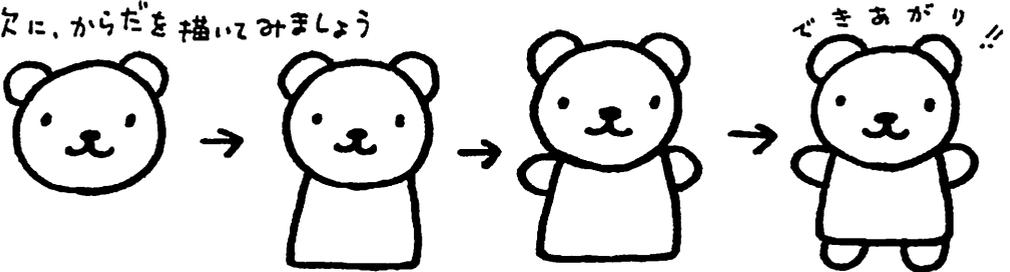
ねこ



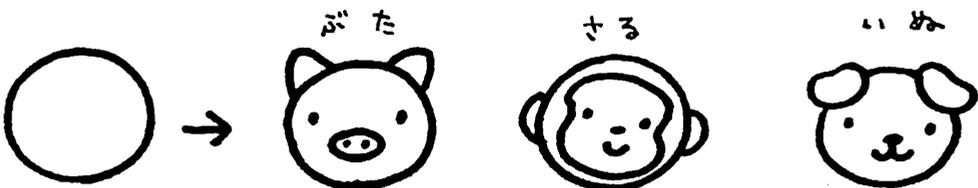
うさぎ



次に、からだを描いてみましょう



まるを描いて、いろいろなどうぶつのはらにしてみましょう



描いてみましょう!

《子供の顔・顔の表情》

男の子



まるかいて

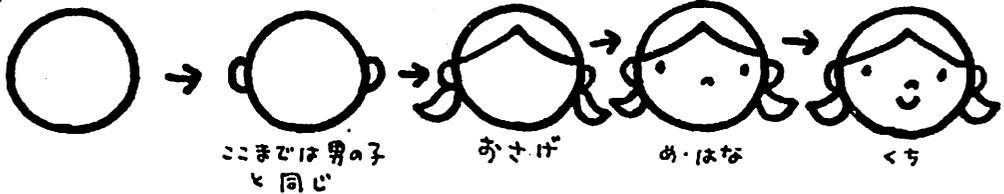
みみかいて

かみかけ

め・はな

くち

女の子



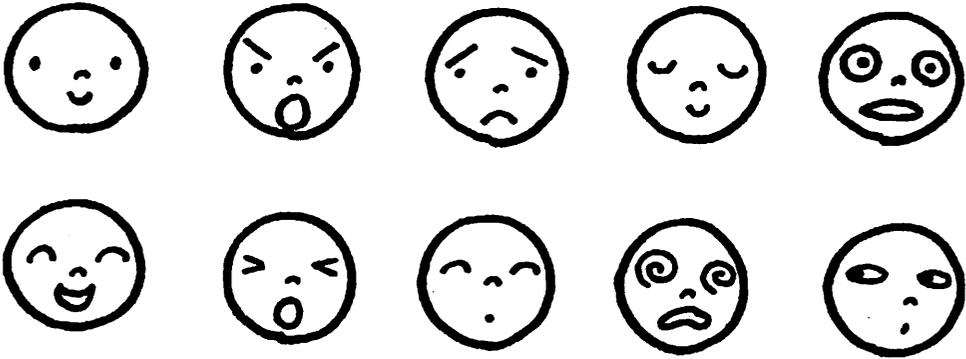
こまでは男の子
と同じ

おさげ

め・はな

くち

まるを描いて、その中にいろいろな表情を描いてみましょう



男の子・女の子をいろいろな表情にしてみよう



えへへ

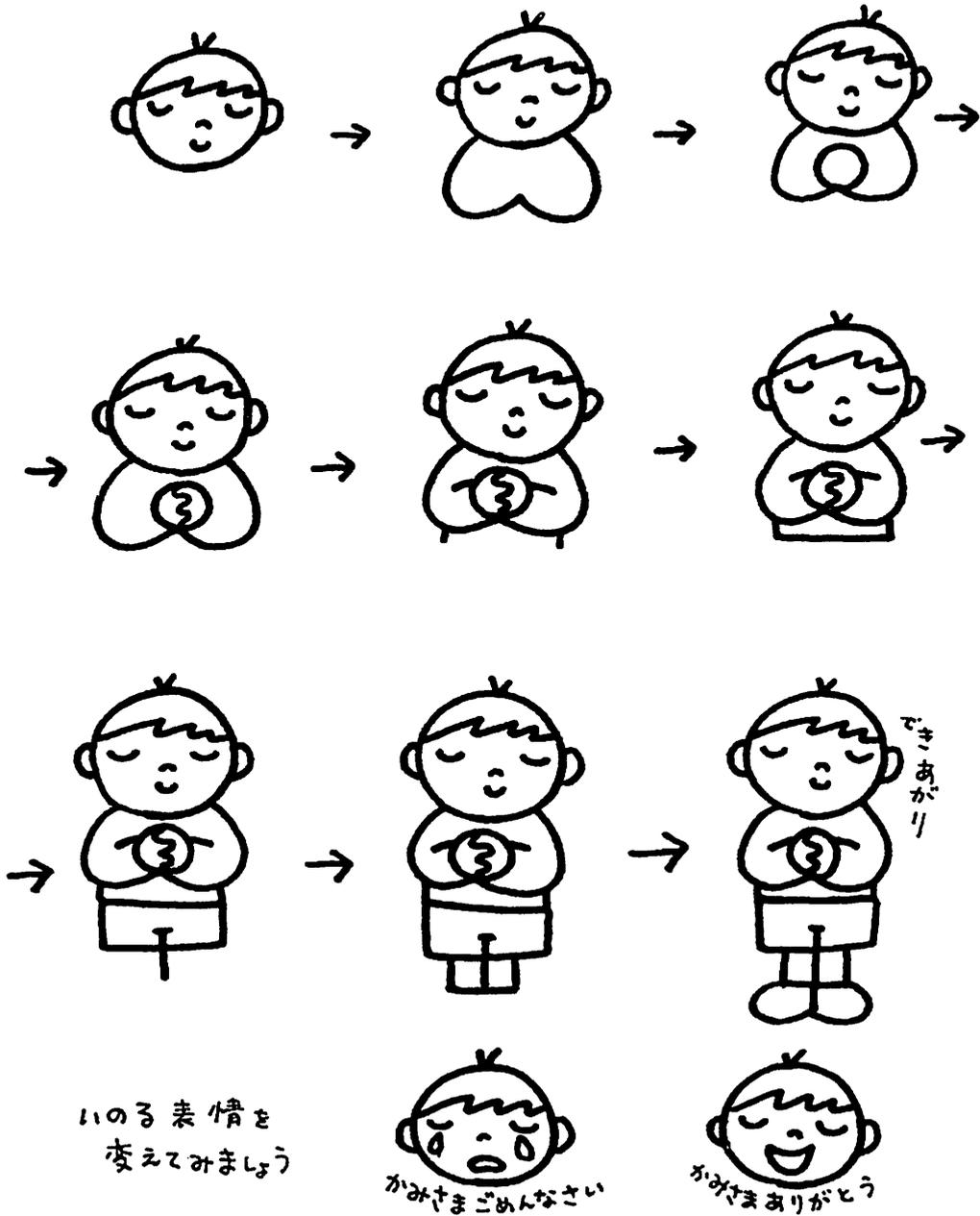
おやすみなさい

がっかり

えーん えーん

描いてみましょう！

《いのる子供》



いのる表情を
変えてみましょう

かみさまごめんなさい

かみさまありがとう

※岡野美佳（青葉台教会）「描いてみよう！やさしい絵」を、承諾を得て、日本キリスト改革派教会
東部中会教育委員会『1996年教会学校教師ノート第20号』から転載いたしました。

『子どもカテキズム』オリエンテーション

相馬伸郎（名古屋岩の上伝道所宣教教師）

いよいよ別冊『子どもカテキズム』を用いた教会学校のカリキュラムを進めてまいります。この欄をお借りして、本教案のオリエンテーションを記させていただきます。

- 「子どもカテキズム」の成り立ち -

『子どもカテキズム』は、もともと筆者の仕える名古屋岩の上伝道所がまだ単立教会として開拓伝道をしながら、日本キリスト改革派教会加入を目指す教会形成の歩みのなかで作成したものがその土台となりました。作成のひとつのきっかけは、当時、まだ「日曜学校」として整わない状況の中で、主日礼拝式と平行して子どもの教会学校分級を教師が毎週交代で担っておりました。これといった教案誌を定めることもない状況の中で、何かきちんと教えるものが欲しいという要望がだされました。チャンスとばかりに、1・2週間ほどで『岩の上子どもカテキズム』を書き上げました。1997年5月の事であり、チャンスと言うことで、既にご想像下さる方もおられるかもしれません。これは単に、子どもらのためだけの教理教育を意図したものではありませんでした。むしろ、このカテキズムは、名古屋岩の上キリスト教会の会員全員が祈禱会他で学んだのであります。その前に『雷ノ下カテキズム』を学び、すこしずつ教理アレルギーを取り除く努力を重ねました。しかし、一気にウエストミンスター小教理問答、ウエストミンスター大教理問答を学ぶことにはなお抵抗があると感じておりましたから、この『岩の上子どもカテキズム』によってその橋渡しを目指したのであります。事実、加入の準備、土台作りには有益となりました。内容は直ぐにお気づきのことかと思いますが、ウエストミンスター小教理問答がベースになっております。

このように、実情は純粋な「子ども向け」ということを目論だものではありません。その意味で、『子どもカテキズム』と銘打てるのか、まことに心もと

ないものです。ただ、岩の上伝道所の子どもらのための説教に用い、後に、我が娘たちの小児洗礼入会式の準備としても用いました。また、これをお子様への信仰告白の準備にお使い下さっておられる他教会員の方もおられることも直接伺いました。

本来、カテキズムとして、新しく書き下ろしたものを採用することが願わしいはずであります。しかし、諸般の事情により、教案誌編集部は、『岩の上子どもカテキズム』をもとに、『子どもカテキズム』を作成することと致しました。カテキズム研究の執筆、望月信牧師に手を加えていただき、教案誌編集部で最終的に確定いたしました。通常、カテキズムでは触れないようなところまで踏み込んだ点もいくつかあります。皆様のご意見、ご批判をいただければ幸いです。

- 全てのキリスト者の教育と伝道のための「教案誌」 -

「まえがき」にも記させていただきましたように、「教理の体得」の道は、大人が子らに信仰の道、救いの道を指し示すためにも求められると信じます。そうであれば、この教案誌は教会学校教師のみならず、契約の子の親にとっても決して不要なものとはならないのではないのでしょうか。もともと「教理」は勿論、大人用・子ども用という区別はありません。この『子どもカテキズム』・『日曜学校教案誌』がキリスト者の「伝道のことば」を紡ぎだす一助となることも、私共の深い祈りの内にあることであります。

- カリキュラムの予定 -

第1年目のカリキュラムは、『子どもカテキズム』の前半、第一部「人生の目的」及び第二部「信仰の道」までを扱います。第2年目は、後半第三部、「生活の道」を扱います。なお神がお許しくだされば、第3年目以降は、聖書の教済史に即したカリキュラムの編成を考えております。

日曜学校 2001年度カリキュラム (4～6月分)

2年サイクル第1年 (子どもカテキズム問1～36)

月日 教会暦	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
単 元 の 目 標			
4月1日	キリストの生涯		ウ小教理 問23～26
		マタイ 4:1-11	ヘブライ 4:15
物語に教理がある。福音書こそ教理が立ち上がるように語りたい。			
8日 受難週	十字架のキリスト		ウ小教理 問27、20
		マタイ 27:15-26	マタイ 1:21
カテキズムの中核。十字架の主、神、人間の罪、救いを語りたい。			
15日 イースター	復活のキリスト		ウ小教理 問28
		ヨハネ 20:24-29	ヨハネ 20:27
カテキズムの中核。復活の勝利によって救いが成就。生けるキリストを語る。			
22日	人生の目的=礼拝	問1	ウ小教理 問1
		マルコ 5:1-20	ローマ 11:36
人生に目的、目標があることを伝える。カテキズム全体がこの問1と響き合う。			
29日	神の栄光をあらわす	問1	ウ小教理 問1
		コリントー 10:31	コリントー 10:31
生きる喜びは、神を知り、神を喜び、神の栄光をあらわすことにある。			
5月6日	救われたザアカイ	問2	ハイデルベルク 問1
		ルカ 19:1-10	ルカ 19:10
子どもたちの救いこそ、神の願い。律法主義の克服。			
13日 母の日	帰ってきた放蕩息子	問2	ハイデルベルク 問1
		ルカ 15:11-24	ルカ 15:24
救われることに基づく喜びの人生。神の子どもとしての喜びの内に生きる。			
20日	御言葉を聴くマリア	問3	ウ大教理 問62～65
		ルカ 10:38-42	ヨハネ 4:23
教会、日曜学校の重要性。教会なくして救いなし・キリストとの交わりなし。			
27日	キリストの体、教会	問3	ウ大教理 問62～65
		コリントー 12:12-31	コリントー 12:27
共同体意識を持ち、大人も子どもも神の民として共に育つ。			
6月3日 ペンテコステ	神と人を愛する	問4	ハイデルベルク 問4
		ルカ 10:25-36	マルコ 12:29-31
第一部が教理教育の根幹。神と隣人を愛することへと導く。人格教育の基礎。			
10日 花の日	神の御言葉	問5	ウ小教理 問2
		ペトロニ 1:16-21	ペトロニ 1:21
聖書の權威。神の御言葉であること。聖書を通して、神が今語っておられる。			
17日 父の日	愛の手紙	問6	ウ小教理 問3
		ルカ 24:13-27	テモテニ 3:15b
聖書の目的。聖書を福音として読む。			
24日	霊なる神	問7	ウ小教理 問4
		ヨハネ 4:23-24	ヨハネ 4:24
目には見えない神。霊であり、人格である神。永遠、不変なる神。			

テキスト

マタイによる福音書 4章 1～11節

マタイ3章には主イエスがバプテスマのヨハネから洗礼を受けられた際、聖霊が降り、み父のメシアとしての任職のみ声があったことが記されています。続く4:1以下は、そのメシアとしての公的な承認と任職を受けられた主イエスを、聖霊がただちに荒れ野に導き、そこで主が悪魔の誘惑をお受けになる経緯を記します。「悪魔」とは「訴える者」(ゼカリヤ 3:1)を意味し、人を誘惑して造り主なる神から引き離す者です。

この悪魔の(三つの)誘惑によって主イエスのメシア性が実質的に試されることとなり、これらを斥けられることで、主イエスはまさにご自分がメシアであることを証明なさいました。その上で宣教の働きをお始めになることとなります。

主イエスがあえて悪魔の試みをお受けになったのは、私たち人間が受ける試みをご自身も受けて下さることによって、真に私たちを助ける救い主となられるためでした(ヘブライ 2:17-18、4:14-16)。

〈第一の誘惑〉

悪魔は主イエスがみ父と等しい全能の力を持つ神の子であることを知った上で、その力を自力で用いるように誘惑しますが、主イエスはたとえ石をパンに変えるような大きな力を持っていたとしても、人の命の養い手であるみ父のみ言葉への信頼を欠いていたなら無意味であるとお答えになって、この誘惑を斥けられます。

この背景には、おそらくモーセに率いられたイスラエルの民が、荒れ野でマナを与えられたこと(出エジプト 16章)があります。イスラエルは空腹のきわみにあって、み言葉への信頼を貫くことができませんでした。主イエスは新しいイスラエルすなわち新約の教会のかしらとして、私たちに先立って誘惑にうちかかって下さったのです。

なお、悪魔の三つの誘惑に対して、主イエスはいずれも申命記のみ言葉を引いて悪魔を斥けておられます(第一の誘惑には 8:3、第二の誘惑には 6:16、第三の誘惑には 6:13)。これは注目すべきことです。いずれの場合であれ、私たちへの試みを斥けて下さるのは、神のみ言葉なのです。

〈第二の誘惑〉

悪魔は「しるし」によって信じることへと主イエスを誘惑しますが、主は、神を試みてはならないとお答えになって、この誘惑を斥けられます。しるしを求めることは、人が神の上に立って、神を試験することです(やはり旧約のイスラエルの民は、神を試みる過ちをおかしています。出エジプト 17:7)。

この自己神化への誘惑は被造物としての人間にとって、まさに根本的な誘惑と言えます。悪魔はエデンで、人をこの誘惑によって陥れました(創世記 3:1-5)。またマタイ 27章では、人々は十字架から降りてくるなら信じてやろうと主イエスを嘲っています(40-43)。

神を試みる時、神への信頼と服従は失われています。十字架の死に至るまでみ父のみ心への従順を貫き通された(フィリピ 2:8)主は、私たちの信仰をも、この根深い誘惑から守って下さいます。

なお、ルカ福音書にも「荒れ野の誘惑」の箇所があります(4:1-13)が、ルカでは第二の誘惑と第三の誘惑とが、マタイとは逆になっています。

〈第三の誘惑〉

悪魔はここでは、富と権力という「見えるもの」と引きかえに自分を礼拝せよとの露骨な誘惑に出ます。前の二つの誘惑にもまして、十戒の第一戒への信仰を根本的に問うものです。この世の主権はただ神にのみあります。悪魔ですら、神の許しなしには何も行うことはできなかつたはず(ヨブ 1章)。従って神をのみ礼拝し、仕えねばなりません。これが人の本分です。

三つの誘惑を斥けられた悪魔は、なすすべもなく主イエスのもとを離れ去りますが、それは「時が来るまで」(ルカ 4:13)のことでした。ゲッセマネから十字架に至る道筋において悪魔の誘惑は頂点に達します。「退け、サタン」(10)とのみ言葉を、主イエスは 16:23 でも再び繰り返されます。それはご自身の十字架への道を否むベトロに向けてのものでした。十字架はみ父のみ心でした。これを妨げる者とのたたかいは主は担い続けられたのです。

ウェストミンスター小教理問答

問23 キリストは、わたしたちの贖い主として、どのような職務を果たされますか。

答 キリストは、わたしたちの贖い主として、
預言者、祭司、王の職務を、
へりくだりと高举のいずれの状態においても果たされます。

〈キリストの御業を理解するための枠組み〉

キリスト教の教理の中心は、救い主イエス・キリストがどのようなお方であるのか、ということです。ウ小教理は、救い主キリストについて、大きく二つに区分して告白しています。一つはキリストの人格について(問21、22)、すなわち二性一人格論です。もう一つはキリストの御業について(問23～28)です。問23は、キリストの御業を理解するための大きな枠組みを示しています。救い主の御業についての私たちの理解が偏らないためです。聖書全体からキリストの御業について理解する助けとなるのです。その枠組みは「二状態三職論」です。

〈職務について〉

二状態三職論を理解する前提として、「職務」について。キリスト教会は、キリストの御業を「職務」という言葉で理解してきました。職務という言葉のキリスト教的な意味は、「遣わされて働きに就く」ということです。自らその働きに就き、自らの力でその働きを遂行するというではありません。遣わされてその働きに就き、その働きを遂行する力が賜物として与えられて、それを成し遂げることです。ですから、教会の職務の場合、キリストによって遣わされ、聖霊の賜物を与えられて、委ねられた働きを遂行するのです。キリストは、父なる神によって遣わされて、聖霊が主イエスの上にとどまり、聖霊の導きと御力に支えられて、贖い主としての御業を成し遂げてくださいました。私たちは、救い主キリストの御業を「職務」として理解するのです。

〈へりくだりと高举の状態〉

「職務」は、「遣わされて働きに就く」のですから、当然、ある方向性を持つものとしてイメージすることができます。方向性を持つことが、「職務」として理解する利点です。主イエス・キリストは、

神がおられるいと高きところから、地上に運わされました。高きところから低きところへ、上から下へ、これが「へりくだり」の状態です。それは、神の御子であり神と等しいお方が、御自分を無にしてしもへの身分となり、人間と同じ者になられた(フィリピ2:6)へりくだりです。神であられるのに律法の下に生まれてくださった(ガラテヤ4:4)へりくだりです。十字架の御業にキリストのへりくだりのクライマックスがあります。そして、キリストは罪と死に打ち勝ち、復活してくださいました。天に上げられて神の右に座しておられます。これが「高举」の状態です。低きところから高きところへ、下から上へです。キリストの御業は、へりくだりの十字架によって成し遂げられ、復活と昇天によって高く挙げられ、神の右において今も続けられています。

〈預言者と祭司と王〉

この二状態のどちらにおいても、キリストは、私たちの預言者であり、祭司であり、王であります。預言者とは私たちに対して神の御心を明らかにする働き、祭司とは私たちの罪を償う働き、王とは私たちを治め、守り導く働きです。ですから、キリストの御業は、「私たちのため」という方向性で貫かれています。へりくだりによって成し遂げられた御業も、高举によって今も続けてくださっている働きも、すべて「私たちのため」の働きです。

〈説教展開例との関わり〉

キリストは、へりくだることによって、私たちが味わうのと等しい弱さや欠け、苦しみ、試みを味わってくださいました。キリストは罪を除いて私たちと等しくなり、私たちの友となってくださいました。このお方が勝利なさったということ、その恵みに私たちが招かれているということ、これが私たちの喜びであり、慰めなのです(ヘブライ4:15)。

聖書箇所

マタイによる福音書4章1～11節

カテキズム

ウェストミンスター小教理問答 問23～26

「私たちとお友達になってくださるイエスさま」

おはようございます。今日もみなさんと教会学校に集まって、神さまを礼拝することができることをとても嬉しく思います。神さまに心から感謝します。教会学校は今日から、新しい年度を迎えました。気持ちを新しくして、進級しましょう。

イエスさまは、いよいよ、ご自分が人々の前に出て、神さまのすばらしい教え、「福音」を伝えようとしておられました。イエスさまはまず最初に親戚の洗礼者ヨハネという人のところに、行かれます。洗礼者ヨハネと言う人は、イエスさまが生まれる半年前に生まれた人です。ヨハネさんは、ヨルダン川のほとりに住んでいて、洗礼を施していました。ヨハネさんが施していた洗礼というのは、川のなかに入って頭からお水をかけるのです。何故、お水をかけるのでしょうか。それは、神さまの前に悪いことをしてしまった人が、「神さまごめんなさい、わたしの罪をゆるしてください」と言う気持ちをあらわすためでした。ヨハネさんはヨルダン川の辺で大きな声を挙げて、「あなたの罪を、神さまの前でごめんなさいと素直に言い表しなさい！」と叫んでいたのです。

ある日のことです。ヨハネさんはいつものように、「洗礼を施して下さい」と川に入って来る人に「ザブン！」とお水をかけています。一人の人が終わると、もう次の人が並んで待っています。ヨハネさんは、一人一人にたずねるのです。「あなたは、神さまを一番に考えずに、自分の事ばかりを大切にしよう罪をお詫びしたいのですか。心から神さまにごめんなさいと言いますか。」みんなは言いました。「そうです。神さまに罪を赦してもらいたいのです。」するとヨハネは「ザブン」と水をかけます。そして次に待っている人に「はい、こんどはあなたの番です」と言います。

ある日の事です。「はい。こんどはあなたの番です。」見るとそこには、イエスさまが立っておられました。ヨハネはびっくりしてしまいました。「エー！イエスさまではありませんか。何のために、

このような所においでになられるのですか。イエスさまには、神さまにごめんなさいと言う必要など一つもないはず。あなたさまは罪を取り除く人です。むしろ、イエスさま、ここでわたしに洗礼を施してください。」

イエスさまは仰いました。「わたしも、ユダヤ人です。わたしはみんなの友達です。良いことをみんなと一緒にしたいのです。わたしはみんなと一緒に生きてゆくのです。」ヨハネは、おそるおそるイエスさまの頭の上にお水を流しました。

さてその後、イエスさまは悪魔から誘惑を受けるために荒れ野の砂漠に行かれました。そこで、毎日毎日40日も何もお食べになられませんでした。お水を飲むだけです。40日以上食べ物を食べないと人間は誰でも死んでしまうそうです。イエスさまは、自分でぎりぎりまで、食事をとらなかったのです。いったい何のためにお食事をとらなかったのでしょうか。

それは、悪魔の誘惑を受けるためでした。皆は、おかしいと思いませんか。オリンピックで金メダルを取った女子マラソンの選手は、小さな体ですが、大きなステーキを一度に何枚も「ベロツ」と食べるそうです。皆だって、遊んだり、運動したり、お勉強したりした後は、お腹が「グーグー」なるでしょう。お腹がすいてくるとどうなりますか。イエスさまだって、悪魔と戦うためなら、まず、焼肉を食べたり、ハンバーグを食べたりして、お腹を一杯にするべきだと思いませんか。けれどもイエスさまは、自分で、お腹がすいてもう歩くことも出来ないと言うくらいに40日も何も食べられなかったのです。

なぜ、悪魔の誘惑を受けるために、わざわざそんなに苦しんでくださったのでしょうか。実はそれは、私たちのためです。私たちのお友達になってくださるためです。イエスさまは、私たちがどれほど悪魔の誘惑に弱い者であるかをご存じです。そんな弱い私たちと一緒に、もうこれ以上弱くなれないというくらいのぎりぎりの状態になるためにわざわざ

ざ、40日間も何もお食べにならなかったのです。

さて、悪魔とイエスさまとの戦いはどちらが勝ったのでしょうか。もちろん、イエスさまです。悪魔は言いました。「イエスさまお腹がすいたでしょう。あなたは神さまの子どもですから、石ころをパンに変えてみてはどうですか。」イエスさまは、神さまの言葉を悪魔に向かって言いました。「人はご飯やパンなど食べるものが一番大切なのではない。神さまの御言葉が一番大切なのだ。」こうして、悪魔はイエスさまから一時期離れて行きました。

イエスさまは、弱い弱い私たちのお友達になってくださったのです。罪を犯したことは一度もありませんが、わたしたちと一緒にあって、誘惑を受けてくださいました。私たちは、悪魔の誘惑をいつも受けています。もしも、「教会学校に行くより、テレビを観ていよう」と誘われたらどうしますか。もしも、「いっしょに悪いことをして遊ぼう。おもしろいぞ」と言われたらどうしますか。イエスさまを

思い出してください。イエスさまは悪魔を追い払うことができます。イエスさまをみならって、「ぼくは嫌だ。わたしは嫌だ」とハッキリ言ってください。

でももしも、負けてしまっても、がっかりして、イエスさまから離れたら決してしないでください。なぜなら、イエスさまは、私たちのお友達になってくださったのですから。思い出してください。イエスさまが洗礼者ヨハネの洗礼を受けたのは、心が弱くて負けてしまう私たちのお友達になるためだったのです。罪を犯さない正しいイエスさま、悪魔を打ち負かす世界中で一番強いイエスさまは、たとえ僕たちわたしたちが負けてしまっても、いつまでもずっとずーっとお友達でい続けてくださいます。だから、わたしたちは何度でも、「イエスさまごめんなさい」と言って、イエスさまを信じるのです。イエスさまと一緒にたたかってもらうのです。そうすれば、私たちもイエスさまによって悪魔の誘惑に負けない、強い子どもになれるのです。

今週の暗唱聖句

この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、
罪を犯されなかったが、あらゆる点において、
わたしたちと同様に試練に遭われたのです。

ヘブライ人への手紙 4章 15節

「教会暦」について

キリスト教会には、主イエスのご生涯とみわざに従った特有の暦があります。これを教会暦と呼びます。一般の暦では一年が元旦から始まりますが、教会暦では持降節第一主日（11月30日に最も近い日曜日）から始まります。

教会暦では一年が「有祭期」「無祭期」の二つの期間に分けられます。「有祭期」は主イエスのご生涯のおもな出来事を覚える期間で、降誕日、顕現日、受苦日、復活日、昇天日と続きます。「無祭期」にはとくに主要な祝日はありませんが、主イエスの教いのみわざと教えを生活に生かすことを主眼とします。

教会暦はローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会でその覚え方や守り方は異なります。日本のプロテスタント教会の多くは教会暦をさほど重んじていないようですが、持降節（アドベント）、降誕日（クリスマス）、受難節（レント）、復活日（イースター）、聖霊降臨日（ペンテコステ）等は礼拝に取り入れて祝っています。

〈目標〉

イエス様が私たちとお友達になって下さったことから、さらに展開し、私たちの苦しみを知ってくださり、イエス様の方から私たちに近付いて下さった事実を見る。

〈指導上の心得〉

私たちは主イエス・キリストを信じるように教える。しかし、私たちの力によって信じるのではなく、主イエスの方から私たちに近付いてくださり、主イエスが私たちを招き、私たちに信じる信仰をお与え下さるのであることを意識しつつ教える。

〈展開例〉

みんなは、友達が何人ぐらいいるかな（時間的余裕があればそれぞれに聞いてみる）。そうだね、それぞれに友達がいるよね。先生にも友達が沢山います。そのお友達の中に親友って言える人はいるかな？先生には親友って呼べるお友達が何人かいます。そういう友達は、辛いこと悲しいことも嬉しいことも何でも話すことのできる友達です。そんな親友は私たちにとってとても大事な存在です。

でも、どんなに親友と呼べる人でも、いつも一緒にいてくれるわけではないし、いつかは別れるときも来ます。でも、私たちには、絶対に離れることのない親友がいます。それは、イエス様です。イエス様は神様ですから、洗礼も誘惑も受ける必要はないはずなのに私たち人間と同じように洗礼を受けて下さっただけでなく、沢山の誘惑にもあって下さったのです。それは、私たちの痛みや苦しみをよく知ってくださるためだったのです。イエス様は私たちの負う苦しみを良く知って下さって私たちのそばに来て下さり友達になって下さったのです。私たちががイエス様にお友達になりましようと言ったのではなく、イエス様が私たちを選んで、お友達になって下さったのです。そして、いつも、何をしている時も、どんな時も私たちのそばにいて下さって、私たちの喜びも、苦しみや悲しみも一緒に負って下さって、一緒に喜んだり、泣いたりして下さるのです。私たちはそんなイエス様が私たちといつも一緒にいて下さることを覚えて、本当にイエス様を信じることができるように、神様にお祈りしましょう。

〈目標〉 真実の友、主イエス～私たちのために弱く、かつこ悪くなられた主～に出会う。

〈指導上の心得〉 主イエスが「私のお友だち」ということを、私たちは、意外と理解していないのではないか。しかし、友だちというテーマは、子どもたちにとって身近で、入りやすいと思われる。説教を受けて、もっと掘り下げて考えてみたい。そして真実の友なるイエスを通して、自己を省み、神と隣人への愛に導かれたい。

〈展開例〉【招き】まことの神さまであるイエスさまは、私たちのお友達になるために、今からおよそ2000年前に、人間として生まれてくださいました。神様がお友達と言われても、なんだかピンと来ないと思うかもしれません。まったく見ず知らずの人から、「あなたは、私のお友達です。今日から仲良くしましょう。」と言われてもピンときませんね。かえって警戒してしまいますね。でも大好きなタレントさんが突然家に来て、同じ事を言われたら、きつと嬉しいですね。そのタレントのことが大好きだからです。イエスさまも同じです。イエスさまについ

て知れば知るほど、イエスさまの魅力に心奪われるのです。だからイエスさまから「あなたを友と呼ぶ」と言われることは、とっても嬉しく、すばらしいことなんです。【考える】（神殿からかつこよく飛び降りるイエスさまと、荒れ野でじっと耐えているイエスさまの絵を用意）。(Q)どっちがかつこいいか。(Q)あなたならどうするか。(Q)なぜ飛び降りたらいけなかったのか（神さまの御心でないから）。(Q)この時イエスさまの体はどれくらい疲れていたか（極限状態）。(Q)イエスさまは誰のために耐えたのか（主の栄光を現すため。ひいては私たちの代わりに神の正義を満足させるため。ウ小問25）。【メッセージ】主イエスは、誰よりも、私のことを心配し、思いやってく下さる真実の友。ヘブライ4:15を暗唱。【作る】色画用紙とリボンで、しおり作り。「私はあなたがたを友と呼ぶ」(ヨハネ15:15)を書き、3週目まで、自分の聖書に使うようにする。

〈祈り〉目には見えませんが、いつも私たちと共におられ、私たちが失敗し、落ち込んでも、私たちをなぐさめて下さる友なる主に感謝します。

〈目標〉子なる神キリストのへりくだりは、私たち一人一人のためのものであることの確認。

〈展開例〉礼拝で、イエス様は私たちの友となってくださるために、苦しんで悪魔の誘惑をうけられたことを聞きました。分級では、イエス様がどんな方であったか、どうして、この地上に来られたのかを、聖書の御言葉を通して考えていきましょう。

○イエス様はどんな方だったか

まず、イエス様がどんな方であったか。ヨハネ1:1-14を開いて読んでみましょう。ここで「言」と言われているのが、イエス様のことです。イエス様は、普通の人だったのが修行したり勉強したりして神様の御言葉を教えるようになったのではなく、この世のはじまる前から「子なる神様」として御国においでになりました。そして、神様の定められた時に、この地上においでになったのです。

では、子なる神様が地上に来られた時のありさまはどうだったでしょうか。ファンファーレが鳴り響く中、天から階段を下りてこられたでしょうか。それとも、ヨセフさんの家の玄関先にゆりかごに入れて置かれていたのでしょうか（マタイ 1:23）。ちがいますよね。桃太郎のように桃の中から生まれたのでも、かぐや姫のように竹の中に入っていたわけでもありません。君たちと同じように、お母さんのお腹の中で大きくなって生まれてこられたのです。それによって、イエス様は完全な人としての身体をもって地上に来られたのです（フィリピ 2:6-7）。

○イエス様はどうしてこの地上にこられたのか

イエス様は神様なのに、わざわざ神様に創られたものにすぎない人間として地上に来られました。イエス様は神様ですから、その気になれば、ずっと天にいてもできたのです。しかし、イエス様は「私は神様だからずっと天にいるよ」とはおっしゃいませんでした。イエス様は、神様に仕える為に造られた人間と同じ身分になることを選ばれたのです。神様でありながら、仕える者の立場をおとりになったのです。イエス様は最も高い身分にありながら、みずからへりくだって、仕える者となられたのです。しかも、イエス様は、どんな所でお生まれになりましたか？ イエス様はどんな家の子どもとしてお生まれになりましたか？ イエス様は、私たちの手の届かないような高い身分ではなく、私たちみんなの

友となるために、私たちに近い庶民としてお生まれになったのです。なぜ、イエス様は、天の高い所から、私たちの友として、私たちのすぐそばの低い所へ降りてこられたのでしょうか。

イエス様が、へりくだって人間となられたのは、私たちの罪を取り除くためです（ローマ 8:3）。私たちの身代わりになって私たちを罪からすくって天国に導くために、イエス様は神様であるにもかかわらず、人間として地上に来られたのです。

○イエス様のへりくだりは誰のためか

罪にとらえられている人間には、自分たちの罪をつぐなう力はありません。罪の責任を負うことに、神様の罰を受けることに、罪ある人間は耐えることができないのです。イエス様は、聖霊の力でアダムの罪を受け継ぐことなくマリヤのお腹にやどり、罪が無いこと以外は私たちと同じ肉体を持った人間としてお生まれになりました。そのために、人間としての苦しみや痛みも味わわなければなりません。それは、天にいたら味わわなくてもよいものだったのですが、イエス様はあえて、それを味わう道を選ばれたのです。それは、だれのためでしょうか？

それはほかならない、私を、君を、罪から救ってくださるためなのです。神様の目からみたら、ほんのちっぽけで罪ある私ですが、その私を神様は「貴い」と言ってくださるのです（イザヤ 43:4）。そのために、身代わりに人＝イエス様をくださったのです。もちろん、イエス様は、たくさんのイエス様を信じる人々の救いのためにこの世に来られました。しかし、そのたくさんのイエス様を信じる人々の中で、私は、あなたは、けっして一番小さいとるにたらない者ではない。私も、アブラハムやペトロやパウロと同じように価値ある一人として、イエス様は認めてくださるのです。イエス様は、私の、あなたのために、この世に肉の体を持ってこられたのです。

〈祈り〉天の父なる神様、今日は、イエス様が私たちの罪のために、私たちの身代わりになって罰を受けるために、神様なのにマリヤのお腹を通して人としてこの世に来られたことを学びました。イエス様は、私たち一人一人のことを大切に思っていてくださって、私のために、私の友だちのために、苦しみを受けてくださいました。そのことを、いつも感謝しておぼえていることができますように。

27:11-26 は、総督ポンテオ・ピラトの裁判を受けられる主イエスの姿を描きます。ピラトと、彼を取り巻く人々の罪の姿を通して、十字架の主イエスによる救いの計画のくすしさが浮かび上がってきます。

〈不当な判決〉

ポンテオ・ピラトは使徒信条の中に登場する唯一の固有名詞です。主イエスを裁き、十字架に引き渡した人として、彼はその名を教会の歴史にくっきりとどめるとなりました。

ただ、ピラトは主イエスに積極的に死刑判決を下したわけではなかったようです。彼は主イエスに罪を認めることができませんでした(23)。また彼が裁判の席についているときに、彼の妻が彼に伝言をし、主イエスとの関係を持たないようにと願います。これは彼女もまた主イエスの正しさを訴えているわけで、ピラトを相当動揺させるものとなったに違いありません。ともかくこの箇所から、彼が主イエスを何とかして釈放しようと努めていることが読み取れます。

にもかかわらずピラトは、結局は裁判を放棄するかたちで(24)、主イエスを十字架に引き渡すのです。そこには彼の政治的な判断と、自己保身の思いとが働いたようです。

祭司長たちが群衆をあおりたてた(20)のは、ピラトが真理よりも世論を恐れる政治家であったことをよく見抜いていたためでしょうし、またピラトは主イエスへの裁判のしかたによってローマ皇帝から不評を買うことになりかねないことをも恐れていた

に違いありません。

このように、この世的な打算に屈して罪なき神の子に死刑を宣告したピラトもまた、主イエスを十字架に追いやった罪人のひとりであり、このピラトの姿の中に、私たちは自分自身の姿をも見出すのです。「ナザレのイエスを／十字架にかけよと／要求した人／許可した人／執行した人／それらの人の中に／私がいる」(水野源三)。

〈買かれる救いの計画〉

ピラトの罪は明白で、覆い隠すことはできません。にもかかわらず、彼は神の救いのご計画を決定的に押し進めたとも言えるのです。なぜなら、正しきお方である主イエスが、不義なる人間のかわりに十字架に死なれることこそ、私たち罪人を救うためにみ父が計画なさったことであるからです。この点で、「評判の囚人」(16) パラバ・イエス(ローマ政府は、被占領国であるユダヤの民の心をなだめるために、祭り等特別の場合に囚人をひとり特赦する慣例をもうけていました)が主イエスのかわりに釈放されたことには深い意味があるものと考えます。

このように、不当な裁判によって人間の罪の力が勝利したと思われたそのところでもイエスはまさに主であられ、このお方が罪人たちの手の中に引き渡されているかに見えるその時に、神の恵みのみ心が成就しつつあったのです。主イエスが十字架に引き渡されて死なれたからこそ、私たちは救われました。人の思いをはるかにこえて、神の恵みは大きいのです。

ウェストミンスター小教理問答

問27 キリストのへりくだりは、どの点にありましたか。

答 キリストのへりくだりは、次の点にありました。

すなわち、彼が生まれたこと、しかも貧しい状態であったこと、律法の下におかれたこと、

この世の悲慘と神の怒りと十字架の呪いの死を忍ばれたこと、葬られたこと、

そして、しばらくの間、死の力のもとにおられたことです。

問20 神は全人類を、罪と悲慘の状態のうちに、滅びるままにしておかれたか。

答 神は、ひたすらその厚意により、永遠の昔から、ある人々を永遠の命に選び、

恵みの契約を結ばれました。

それは、ただひとりの贖い主によって、彼らを罪と悲慘の状態から解放し、

救いの状態に入れるためです。

〈義なる神〉

キリストの十字架を、神の贖いの御業として理解するために、前提として確認しておくべきは、「神は義なるお方である」ということです。また、「神は義を求める」ということです。それ故に、神は、私たち罪人の罪に対して、代価をお求めになります。罪は償われなければなりません。神は、人間の命の代価として人間の命をお求めになります（創世9:5）。また、罪の支払う報酬は死です（ローマ6:23）。神は、決して罪を見逃すお方ではなく、罪を罪として裁くお方、代価をお求めになるお方なのです。

〈キリストの代理者性〉

神が、私たち罪人の罪に対して代価を求める場合、その第一として、私たち自身の命によって償うことが考えられます。私たち自身の肉において、罪を罪として処罰する道です。それは永遠の滅びの道です。

しかし、神は、その道をお選びになりませんでした。神は、ただひたすらご厚意によって、御自身の恵みとして、罪人に救いをお与えくださいました。私たちに贖い主を与え、その贖い主によって私たちが罪と悲慘の状態から解放し、救う道を、御自身の御心としてくださったのです。

すなわち、神の御子の命が私たちの罪の代価です。神は、御自身の愛する独り子イエス・キリストを罪の世に遣わし、その肉において罪を罪として処罰されました（ローマ8:3）。ここに、罪人に対する神の愛が表されています。キリストが私たちの罪のた

めに身代わりとなってくださった。これがキリストの十字架の出来事です。こうして、キリストの命によって、私たち罪人の命が買い取られました。十字架の出来事は贖いの御業なのです。私たちの命は、キリストを代価とする、高価な命なのです。

〈キリストのへりくだり〉

この贖いの御業の成就のために、キリストのへりくだりがあります。三位一体の神であられる神の御子が、罪の世に遣わされました。へりくだって、罪を除いて罪人と等しい肉を受け、まことの人として、律法の下におられました（ガラテヤ4:4）。このへりくだりにおいて、御子キリストは、御父なる神に従順であることを賞されました（フィリピ2:8）。これが大切です。キリストは神の義にかなうお方なのです。キリストはまったき小羊なのです。このお方が、罪人の罪を償い、また永遠の命をもたらす犠牲のいけにえとなってくださった故に、キリストに結ばれている私たちにも、神の義が与えられます。神の義に完全にかなうキリストが代価となってくださった故に、私たちに救いが与えられたのです。

〈説教展開例との関わり〉

キリストに結ばれている私たちには、神から罪の赦しが与えられています。私たちは、罪深い存在なのですが、キリストに結ばれて神の義にかなう者とされているのです。あるがままで神に受け入れられ、神の子とされ、神の宝の民とされています。キリストの十字架に、私たちの価値が表れているのです。

聖書箇所 マタイによる福音書 27章 15 - 26節
カテキズム ウェストミンスター小教理問答 問 27、20

「私たちの身代わりに十字架で死なれたイエスさま」

今日から始まる一週間を教会では「受難週」と言います。イエスさまが十字架にはりつけられてお苦しみになられたことを覚えて歩む一週間です。世界中の教会学校のお友達も、今、受難週の礼拝を捧げていることでしょう。

先週のお話で、イエスさまは、私たちのお友達になってくださったことを学びましたね。お友達になってくださったイエスさまは、大勢の人々から「イエスさまはすばらしい」、「イエスさまは救い主になれるお方だ」と慕われ、大勢の人達がイエスさまについて行ってしまいました。それを見ていた祭司、律法学者、パリサイ人たちは、おもしろくありません。その人達は、それまで、皆からこう言われていました。「あの人は聖書の事をよく知っている頭の良い先生だ」、「あの人は、神さまの教えをきちんと守ることの出来る立派な人達だ。」皆からほめられていた人達です。だんだん、心のなかに、イエスさまをねたむ思いが湧いてきます。それがどんどんどんどん大きくなって、どうどうイエスさまを憎むようになったのです。その人たちは、遂に、決めてしまいました。「そうだ、あのイエスを殺してしまおう、それが神さまにとって良いことなのだ。イエスさえいなければ、自分たちも昔のように皆から尊敬されるし、楽しく暮らしていける。そうだ、あの男を裁判にかけて殺してしまおう。」

あるお祭りの夜の出来事です。彼らは、イエスさまをローマの兵隊に頼んで捕まえてもらったのです。そして、イエスさまはローマの国から来ている裁判長ピラトによって、裁判にかけられます。祭司長や律法学者たちは、何とかイエスさまを殺そうとします。けれども、ピラトはイエスさまが本当に悪い人間だとは考えていませんでした。ピラトは言いました。「今日は、あなたがたのお祭りだ。このお祭りには特別に一人だけ、牢屋から出してあげることになっている。ユダヤのみなさん、ここにバラバ・イエスと言う男がいる。この男は、強盗だ。しか

しここにもう一人男がいる。この男は救い主と呼ばれているイエスだ。さあ、どちらを牢屋から出してほしいのか、言ってみるが良い。」

そうすると、祭司長や律法学者は何とかしてイエスを殺そうとして、人々に、「バラバ・イエスの方をゆるしてください」と言わせるように企みました。まんまと群衆は、呼び始めました。「バラバのイエスを赦して、ナザレのイエスを十字架に付けろ。」何度も何度も人々は大声で呼びます。「イエスを十字架につけろ!」。どうどうピラトは仕方がなく、言うとおりにしたのです。

それを、聞いていたバラバはびっくりしてしまいました。バラバさんは心のなかで思いました。「なぜ人殺しをして牢屋にいれられた俺様が、助かるのか。どうして、この清らかなイエスと言う人が殺されなければならないのか。そんなばかなことがあるものか。」その時、イエスさまと目が合いました。バラバさんは、イエスさまの目がバラバさんにこのようなことを断えておられるように思いました。「あなたの名前はバラバ・イエスだね。わたしの名前はあなたと同じイエスだよ。私とあなたの名前の『イエス』とは、罪を赦し、罪から救うという意味がある事を知っているね。私は神さまから遣わされた神の独り子です。救い主です。わたしは、バラバ・イエスさん、あなたの身代わりになって、十字架にかかります。そのために、わたしはこの地上に来ました。あなたもわたしを信じなさい。」

皆さんは、「親分はイエスさま」と言う映画を知っていますか。昔、やくざ、つまり、人をだましてお金をもうけたり悪いことをして、人を傷つけたりしていた人が、イエスさまを信じて、イエスさまのために良いお仕事をすることになった人達の本当のお話です。その昔、やくざをしていた人達が「ミッション・バラバ」と言うチームを作ってイエスさまのことを、いろいろなところでお話してまわっています。何故、バラバという名前を付けたか分かりますか。そうです。自分が昔バラバであったことを知ってい

るからです。そして 2000 年前のバラバだけのためではなく、自分にもイエスさまがどんなに素晴らしい事をしてくださったかを信じたからです。この人たちは、その時から、「これからは、イエスさまのために生きてゆこう、イエスさまに喜ばれるように生きよう」と決心したのです。

イエスさまがバラバさんにしてくださったことは、たとえば言えばこういうことです。イエスさまは、バラバが入っていた牢屋に入って来てくださいました。そしてバラバに「さあ、あなたの囚人服を脱ぎなさい。そして、私が着ている神さまのきれいな綺麗な服を着なさい。これを来ていれば、神さまの子どもとして、神さまに近づくことができる素晴らしい服です。そして外に出てゆきなさい。」バラバは今、そのイエスさまの服を着て、牢屋から出してもらったのです。バラバはどれほど、嬉しい気持ちになったのでしょうか。そして、どれほど、「ごめんなさい！」と罪を悔いたことでしょうか。

さて、自分より、お友達のほうがほめられていると、一緒になって喜ぶより、「あー、つまらないや。僕の方が上手なのに。」そうやって思ったことはありませんか。その人は律法学者と同じです。もしも、人の物を盗んでしまったことがあれば、もしも喧嘩をして誰かを叩いてしまったことがあればその人はバラバさんと同じです。このバラバさんとは一体誰のことですか。それは、先生のことです。そして、皆さんのことではありませんか。でも、イエスさまはその私たちの罪を赦すために、十字架にかかって神さまの審きを受けてくださいました。私たちの身代わりになって死んでくださったのです。今、心から、イエスさまに感謝しましょう。イエスさまを信じて、イエスさまの綺麗な服を着せてもらって、神さまの子どもとしていただきましょう。そして、僕たち私たちも、イエスさまのためにできることを見つけてみましょう。

今週の暗唱聖句

マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。

この子は自分の民を罪から救うからである。

マタイによる福音書 1 章 21 節

「受難週」について

棕櫚（しゅろ）の主日から復活日の前日の土曜日までの一週間。各曜日の聖書箇所は以下のとおりです。

日・・・「エルサレム入城」

月・・・「宮きよめ」

火・・・「論争、譬話、終末の預言」

水・・・「ベタニヤでの塗油、ユダの裏切り」

木・・・「最後の晩餐、ゲッセマネ、捕縛、審問」

金・・・「ピラトの審問、ユダの死、十字架、埋葬」

受難週の各曜日における出来事を福音書の記事に従って覚える習慣は、すでに 2～3 世紀頃から生まれていたとされています。

主イエスが十字架につけられた金曜日については、とくに「聖金曜日」「受苦日」とも呼びます。

〈こどもへの質問〉

Q1. 裁判長ピラトのところにイエス様と強盗が連れてこられた時、人々はどちらを十字架につけるように言ったのかな？

そうです。

強盗のバラバではなく、何も悪い事をしていないイエス様を十字架につけて殺すように言ったんだよね。

Q2. じゃあ、バラバというのは一体誰のことだったかな？

そう、私たちのことなんだよね。

罪が多い私たちのかわりにイエス様は十字架にかかって死んでくださったんだよね。

これは、とっても大切な事です。

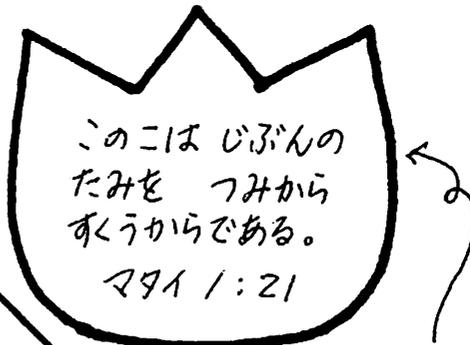
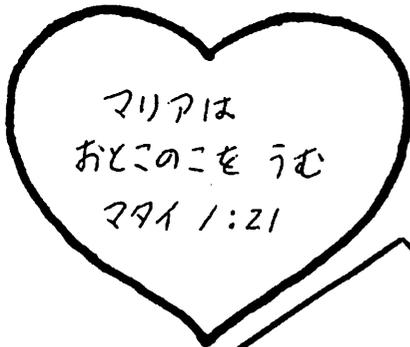
私たちがイエス様を救い主と信じる事ができるようにお祈りしましょう。

〈お祈り〉

天の父なる神様、イエス様は何も悪い事をしていないのに、私たちの罪の身代わりになって十字架にかかって死んでくださいました。どうか、私たちがこの事を信じて救われますように導いてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

工作

宝さがし



色画用紙などを使ってこのようなカードを何組か用意し、お天気なら庭、雨天なら室内の適当な所にこれらのカードを隠して宝さがしを楽しもう！

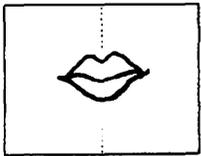
了っ そろりかな？

〈目標〉

私たちの罪を知り、その罪がイエス様の十字架によってゆるされていることを感謝する。私たちの中にあるいろいろな罪に気づかせる。その罪をイエスが担ってくださったことを知る。

〈展開例〉

1. 「私たちの罪」の本を作る。私たちの中にある罪を覚える。厚紙を貼り合わせて本を作り、そこに絵と文を書く。表紙には「わたしたちのつみ」と書く。それぞれの部分で犯す罪を具体的に書く。

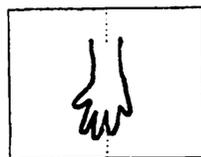
	⇒	<table border="1"> <tr> <td>わるぐち</td> <td>ぬすみぐち</td> </tr> <tr> <td>かげぐち</td> <td>うそ</td> </tr> <tr> <td>つげぐち</td> <td>あやまらない</td> </tr> </table>	わるぐち	ぬすみぐち	かげぐち	うそ	つげぐち	あやまらない
わるぐち	ぬすみぐち							
かげぐち	うそ							
つげぐち	あやまらない							

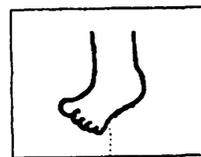
(p. 1~2)

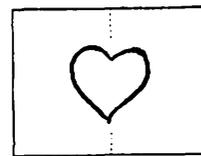
⇒(p. 3~4) (以下同様)

	⇒	<table border="1"> <tr> <td>ひとをさばくつめたいめ</td> </tr> <tr> <td>わるいものを見る</td> </tr> <tr> <td>むしする</td> </tr> </table>	ひとをさばくつめたいめ	わるいものを見る	むしする
ひとをさばくつめたいめ					
わるいものを見る					
むしする					

	⇒	<table border="1"> <tr> <td>つごうのいいことだけをきく</td> </tr> <tr> <td>かみさまのことばをきかない</td> </tr> <tr> <td>ひとのはなしをきかない</td> </tr> </table>	つごうのいいことだけをきく	かみさまのことばをきかない	ひとのはなしをきかない
つごうのいいことだけをきく					
かみさまのことばをきかない					
ひとのはなしをきかない					

	⇒	<table border="1"> <tr> <td>まんびき</td> <td>なぐる</td> </tr> <tr> <td>ひとのものをかくす</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ひとをころす</td> <td>きずつける</td> </tr> </table>	まんびき	なぐる	ひとのものをかくす		ひとをころす	きずつける
まんびき	なぐる							
ひとのものをかくす								
ひとをころす	きずつける							

	⇒	<table border="1"> <tr> <td>けとばす</td> </tr> <tr> <td>わるいところへいく</td> </tr> <tr> <td>わるいことをしてにげる</td> </tr> </table>	けとばす	わるいところへいく	わるいことをしてにげる
けとばす					
わるいところへいく					
わるいことをしてにげる					

	⇒	<table border="1"> <tr> <td>にくむ</td> <td>うらむ</td> <td>ばかにする</td> </tr> <tr> <td>ねたむ</td> <td>かみさまをしんじない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ゆるさない</td> <td>かんしやしない</td> <td></td> </tr> </table>	にくむ	うらむ	ばかにする	ねたむ	かみさまをしんじない		ゆるさない	かんしやしない	
にくむ	うらむ	ばかにする									
ねたむ	かみさまをしんじない										
ゆるさない	かんしやしない										

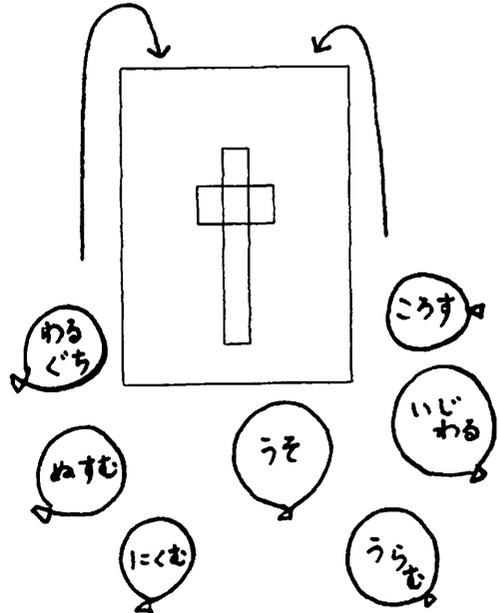
子供たちにどんな罪があるかを考えさせる。

2. 風船入れゲーム

- ・風船をふくらませて、そこにマジックでいろいろな罪を書く。
- ・大きな箱を用意する。箱の前面に十字架を書いて貼っておく。
- ・足でジャンケンをして勝ったら1個、風船をカゴの中に入れる。(少し離れた所から入れる方がおもしろい。風船がなくなるまで続ける)。

・足ジャンケン

- (グー) 足をそろえる
- (チョキ) 右足と左足を前後にずらす
- (パー) 足を左右に広げる



私たちの罪のすべてをイエス様が十字架で担ってくださったこと、私たちの一つ一つの罪はすでに十字架のもとにおいてゆるされていることを感謝する。

〈祈り〉

天のお父さま、どうぞ私たちの中にある罪に気づかせてください。イエス様が身代わりとなって、私たちの罪を引き受けてくださったことを感謝いたします。

〈目標〉

自分たちは神様の目から見たとき、罪人であることを意識付けて、その自分のためにイエス様が身代わりになって十字架で死んでくださった事実を覚える。

〈指導上の心得〉

神様が自分の代理で死んで下さった事実を自分の中で再確認しつつ、喜びをもって語る。

〈展開例〉

みんなは何か悪いことをしたことあるかな。何か一つぐらいはあるよね。(口答えなど身近な例を挙げみる) そんなに悪いことのように感じない事もあるかも知れないけれど、これは、神様の嫌われることで、そういった心の黒い部分を罪といいます。

じゃあ、罪を犯したら、つまり悪いことをしたらどうなるのかな。ほめられる?…。そんなはずはないよね。悪いことをしたら怒られます。それは、神様の嫌われる、悪いことをしても同じです。神様は黒い心を持っている私たちを怒られるのです。

でもね、神様はそんな黒い心のために罰を受けな

ければいけない私たちのために、イエス様を送って下さったのです。イエス様は神様のたった1人の子どもです。そのイエス様は私たちの身代わりに、私たちが受けなければいけない十字架の罰を受けて下さったのです。手首と足に大きな釘を打たれて、十字架に付けられる。苦しい苦しい刑罰です。そして、その十字架で、イエス様は私たちのために沢山の血を流され、私たちの代わりに神様の刑罰を受けて死んで下さったのです。

私たちがイエス様を私たちの身代わりとなって、死んで下さった私たちの救い主と信じるとき、イエス様の真っ赤な血が私たちの黒い心に白い服を着せて下さるのです。そのためにイエス様は沢山血を流して下さったのです。そして、神様はそのイエス様が与えて下さった白い服を着ている私たちと、その心を見て下さって、私たちには罪はないとおっしゃって下さるのです。

私たちは、そのようにイエス様を信じて、イエス様の服を着せていただけるよう、神様にお祈りしましょう。

〈目標〉 真実の友、主イエス～私たちのために命を捨てられた主～に出会う。

〈指導上の心得〉 前週に引き続き、私の友としての主イエスに導かれたい。また今回は、人間の罪が顕わにされる箇所である。主のゆるしと愛の光に照らされた人間の醜さをうきぼりにしたい。

〈展開例〉【招き】「友のために自分の命を捨てること。これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ 15:13)とイエスさまはおっしゃいました。あなたは友ために命を捨てることができますか。それほどまでに愛している友がいますか。私たちはひよつとしたら、とつても愛している友達や家族のためなら、命を捨てることもできるかもしれません。でも嫌いな人や敵のために命を捨てることは、おそらく誰もできないでしょう。【演じる】ピラト「いったいこの人にどんな罪があるというのか」。群衆「十字架につけろ!十字架につけろ!」。ピラトの妻「あなた、あの正しい人を死刑にしないでください」。ピラト「しかしこの者たちの言うことを聞いてやらないと、暴動になるかもしれん」。群衆「十字架につけろ!十

字架につけろ!」。ピラト「よしわかった。このイエスをムチ打ちにした上、十字架の刑に処す」。【考える】(Q)ここに現れている罪は?(怒り、ねたみ、自己保身、不正な裁判、無責任、体罰等々)。(Q)あなたがその場にいたら、人々を説得しようとしたか(できなかった→あなたも同罪。主イエスの敵)。【メッセージ】イエスさまは、このすべての人のために命を捨てられた。イエスさまこそ、これ以上ない大きな愛で、私たちを包んでくださる、真実の友。何のためか→マタイ 1:21 暗唱。(補:友だちは求めるものではなく、自らなるもの。私たちも周りの友人に対して、真実の友となるべく、キリストの愛が自分の内に現れることを祈っていこう)【さんび】「今こそキリストの愛にこたえて」(『新しい歌を主に』、75番1節のみ、いのちのこば社)。

〈祈り〉 慈しみ深き、父なる神。あなたのひとりり子を通して、あなたの計り知れない深い愛が示されました。あなたはご自分の命を捨てることによって、私たちの罪をゆるし、私たちの友となってくださいました。あなたこそ私たちの生きる喜びです。

〈目標〉キリストの苦しみと自分自身が無関係ではない「私の罪のためだ」ということの確認。

〈展開例〉私たちが礼拝の時に読む「使徒信条」には、イエス様がお生まれになったことのすぐ後に、「ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け」という文章が続いています。受難週ですから、イエス様がこの世で受けた苦しみについて考えましょう。

○イエス様の味わわれた「人としての苦しみ」

「イエス様の苦しみ」といえば、私たちはつい十字架のことだけを考えてしまいますが、実はその地上の生涯すべてが「苦しみ」だったのです。イエス様は罪が無いこと以外は私たちと同じ肉体を持った人間としてお生まれになりました。そして、そのために、人間としての苦しみや痛みも味わわねばなりませんでした。私たち人間は、この世で生きていく上で、いろいろなやな事や苦しい事に出会います。君たちも、まだ生まれて十数年だけれど、楽しいことばかりではなかったでしょう。苦しい、悲しい事も、一人一人あったことでしょう。なぜ、こんなことになってしまったのでしょうか。

人間の苦しみについて創世記 3:16-19 に書かれています。これは、私たちが神様に造られた時のもとのままの姿、自然な姿からはずれてしまったからです。人間はもともと神様に従って生きるように造られました。しかし、アダムたちは神様に従うよりは自分が神様みたいになりたくて、神様の命令を破ってしまいました。その罪のせいで、私たちは苦しみを受けねばならなくなったのです。イエス様は、罪のない神の子なのですから、本来はそんな苦しみを受けなくてもよかつたはずなのです。しかし、イエス様は、私たちを罪から救うために、あえて、その苦しみを味わう道を選ばれたのです。

○イエス様の十字架上での苦しみ

イエス様の苦しみは、十字架上でピークを迎えます。十字架の上でイエス様がどんなに苦しまれたか、私たちはイエス様が十字架の上で語られた言葉から知ることができます。マタイ 27:46。イエス様は、なぜこんな弱音をはいたのでしょうか？ 神様がイエス様を見捨てるといふことがあるのでしょうか。

イエス様は、十字架の上で、本当に神様に見捨てられたのだと思います。それが、イエス様の最大の苦しみでした。手足に釘を打たれ、衰弱死するまで

放って置かれる十字架の刑というのは大変苦しいものだそうですが、十字架にかけられたのはイエス様だけではありません。しかし、神様に見捨てられることはどうでしょう。どんな罪人であっても、独り子＝イエス様を信じる者は一人も滅びない＝神様に見捨てられることはありません（ヨハネ 3:16、10:28）。どんなにこの世で大きな苦しみに会おうとも、私たちは神様が共にいてくださって、必ず最後に天国で永遠の命がいただけるのです。それに対して、この世でどんなにおもしろおかしく暮らすことができても、それを死後の世界に持っていく事はできません。最後に神様に見捨てられて、地獄で永遠に炎で焼かれるほどおそろしいことはないのです。何一つ善いことのできない私でさえ、神様はけっして見捨てないと約束しておられるのに、イエス様は神様に見捨てられたのです。

○イエス様の十字架上での苦しみはだれのせい

イエス様は「どうして私をお見捨てになったのですか」と叫ばれました。「どうして」「だれのせい」それは他の誰でもない、私の、君の、せいなのです。それは、本来、私が、君が、受けなければならない恐怖と絶望でした。それをイエス様は代わって受けてくださったのです。イエス様が受けられた苦しみとは、本来、この私のための苦しみだったのです。

そして、使徒信条に「ポンテオ・ピラト」というイエス様の裁判をしたローマの総督の名前が書かれているのは、ピラトという総督がいたことが歴史的な事実であることと同様に、イエス様が苦しみを受けられた事も事実であることを示し、私の身代わりになってくださったことが事実であることを確信するためです。もちろん、イエス様は神様に見捨てられたままではありません。イエス様はよみがえり、天に上って神様とともににおられます。それは、私たちも同じようによみがえって天の神様のもとに行けるということを確認な事にしてくれます。

〈祈り〉天の父なる神様。きょうは、イエス様が十字架の上では神様にみすてられるという大きな苦しみを受けられたことを学びました。それは、罪の中にある私の受けるべき苦しみだったのですが、イエス様は私にかわって受けてくださいました。イエス様の苦しみは、私のためであったということを感じることができるようになってください。

テキスト ヨハネによる福音書 20章 24 - 29節

この聖書箇所は、主イエスの復活を告げる箇所中のクライマックスであり、またヨハネ福音書全体のクライマックスであるとも言えます。

主の復活を疑っていたトマスに、復活の主ご自身が出会って下さり、そのことによって福音書が冒頭で語っていた「言は神であった」(1:1)との信仰の告白へと、彼もまた導き入れられていることは印象的です。

〈トマスの疑い〉

トマスは、先に主イエスとその復活のみ姿を弟子たちに示して下さったおり(19以下)には、その場に居合わせませんでした。ほかの弟子たちの証言にも復活を信じることができず、イエスの手に釘跡を見、指をそこに入れ、またイエスの脇腹に手を入れてみなければ決して信じないと言い切ります(25)。

注解者たちの中には、彼を「実証主義的懐疑論者」と呼ぶ人もありますが、彼がひたすらに懐疑論者であったと考えるよりも、信仰と疑いの間を揺れながら生きていた人であったとするほうが適切であると思います。そうであればトマスは、特別に疑い深い人ではなかったということになります。

ただ、11章で主イエスがラザロの死について語られた時、彼は「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか」(16)と言っています。このことから、彼は人間は死ねば終わりであり、誰かのために死ぬことこそ人間の最高の行為であると考えていたとも推測されます。

〈わたしの主、わたしの神よ〉

八日の後、おそらくは次にめぐってきた安息日に、復活の主はトマスにも出会って下さり、み言葉を下

さいます。トマスは「わたしの主、わたしの神よ」と明確に信仰を言い表します。

信仰は実証的な次元をこえて、主との出会いのいとなみです。トマスは科学的に説得されたのではなく、復活の主との出会いを通して、主の十字架の死と甦りとがまさに「わたしの」ためであり、「わたし」への愛のみわざであったことを理解したからこそ信じたのです。

主イエスとともに死のうと決意したにもかかわらず、トマスもまたほかの弟子たちとともに十字架の主イエスを裏切り、見捨てて、主のみ前から逃げてしまいました。その時に彼は自分の罪の深さと無力とを痛切に思い知らされ、絶望を感じたに違いありません。

しかし、そのような彼を赦し、死をこえる命を与えることのために、また真の「平和」(26)を与えて下さることのために、主は死んで甦って下さいました。そしてこのお方とともに生きる命こそ、まことの命であることを示して下さいました。そのことがわかった時に、彼は主イエスのみ前にひれ伏すほか、なすすべがなかったのです。そして彼自身も、新しい命に甦ったのです。

復活は人間の理性をこえた、ただ信仰によってのみ受け入れることを許される事柄です。人間理性をこえたみわざであるからこそ、私たちは復活のイエス・キリストを主、神として礼拝するのです。

復活の主は「見ないのに信じる人は、幸いである」(29)と仰せになりました。地上の、また復活の主イエスをその目で見ると幸いに気づかぬ弟子たちの時代は去って、新約の教会は主イエスのみ言葉と聖霊によって主を信じます。聖書と聖霊を通して、私たちも「見ないのに信じる」「幸い」な者とされているのです。

ウェストミンスター小教理問答

問28 キリストの高挙は、どの点にありますか。

答 キリストの高挙は、次の点にあります。

すなわち、彼が三日目に復活されたこと、天に昇られたこと、

父なる神の右に座しておられること、終わりの日に世を裁くために来られることです。

ハイデルベルク信仰問答

問45 キリストの「よみがえり」は、わたしたちに、どのような益を、もたらしますか。

答 第一に、この方がそのよみがえりによって死に打ち勝たれ、そうして、御自身の死によってわたしたちのために獲得された義にわたしたちをあずからせてくださる、ということ。

第二に、その御力によってわたしたちも今や新しい命に生き返らされている、ということ。

第三に、わたしたちにとって、キリストのよみがえりは、わたしたちの祝福に満ちたよみがえりの確かな保証である、ということです。

〈贖いの御業としての高挙〉

私たちは、主イエス・キリストの御業を職務として理解しています。主イエス・キリストは、贖い主としての職務を委ねられて、この世へと遣わされました。その職務は、キリストの「へりくだり」と「高挙」によって担われました。

〈罪と死に打ち勝ったキリスト〉

「へりくだり」は、神の御子がへりくだって私たちと等しくなり、まことの人として律法の下に立つてくださったということです。そして、まことの人として律法に服従された神の御子キリストは、律法を満し、罪と死に打ち勝ってくださいました。キリストは、律法を成就し、罪と死に対して勝利してくださいました。この勝利の故に、御父なる神から栄光が与えられたということ、これが「高挙」です。「神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました」(フィリピ 2:9)。その第一がよみがえりであり、復活です。それに引き続いて、キリストは天に昇り、神の右に座しておられます。そして、審き主として再び来てくださって、神の御国を完成してくださいませ。

〈キリストの勝利がもたらす恵み〉

このキリストの勝利は、「天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公けに宣べて、父である神をたたえる」(フィリ

ピ 2:10-11) ことをもたらします。すなわち、キリストの勝利の目的、目指すところは、私たちを含めた被造物すべてが神をたたえることであり、神礼拝にあります。キリストの高挙は、神を礼拝する存在へと私たちを造り変えるのです。

ハイデルベルク信仰問答は、復活のもたらす恵みとして三つを挙げています。その第二点で、私たちが今や霊において新しい命に生き返らされていると語ります。これが、信仰を与えられて、神を礼拝する者として新たにされたということです。

〈説教展開例との関わり〉

私たちは「復活」ということを聞くと、「そんなことが本当にあるのだろうか」と疑問を抱いてしまいます。しかし、教理問答はそのようなことにまるで関心を示していません。それは、聖書がそういうことを語ってはいないからです。福音書は、復活の事実性を疑ってキリストの復活を信じるができなかった者が、キリストと出会うことを通して神を礼拝する者へと造り変えられたことを物語っています(ヨハネ 20:24-29)。信仰とは、実証的な次元を越えて、主イエス・キリストと出会うことです。今も、私たちは、聖書を通して聖霊によって生ける神の子主イエス・キリストと出会わせられます。私たち人間の業としてではなく、神の贖いの御業として、信じる恵みが与えられ、神を礼拝する恵みが与えられるのです。ここに幸いがあるのです。

聖書箇所 ヨハネによる福音書 20章 24～29節
カテキズム ウェストミンスター小教理問答 問 28

「私たちを救うために復活されたイエスさま」

おはようございます。今日は復活祭、イースターです。イエスさまがお墓の中から復活なさった事をお祝いする日です。世界中で、「イースターおめでようございます」という挨拶がかわされます。みなさんと一緒に、言いましょ。「イースターおめでようございます。」

イエスさまが十字架につけられたのは、金曜日、その午後3時に十字架で息をひきとられました。イエスさまの死なれたお姿を悲しみながら見ていたわずかの人が、大急ぎで、イエスさまのお体を、洞穴のお墓のなかに運び込みました。それは、太陽が沈んでしまったら、その瞬間から、ユダヤ人の礼拝の日となって、もうお墓の中に入ってはいけないという掟があったからなのです。イエスさまのお墓の洞穴の入口には、誰にも中に入って荒らされないように、大きなおおきな石が、ふたをするように置かれていました。

さて、金曜日から教えて三日目、日曜日になりました。その日の夕方です。お弟子さん達は、家の中にとじこもってただ「じつ」としていました。イエスさまを十字架につけた人達に見つかってしまうのを怖がっていたからです。するとどうでしょうか。イエスさまが現れたのです。イエスさまはこう仰いました。「あなたがたに平和がありますように。」皆さん、不思議に思いませんか。イエスさまは、ちっとも弟子たちを怒っていません。弟子たちはついさっきまで、「イエスさま、わたしは絶対に裏切りません。逃げ去ったりしません。」と言っていたのです。けれども、イエスさまがローマの兵隊に捕まえられるとみんなワーッと逃げ去ったのです。皆がイエスさまだったらどうしますか。「ここにいたのか、どうして、僕一人を残して、逃げたりしたんだ。君達のことは許さないぞ。」もしかしたらそう言うかもしれませんね。ところがどうですか。イエスさまはちっとも怒っていません。反対です。神さまの平和、祝福、救いがあるようにと仰って

くださったのです。そして、びっくりしているだけのお弟子さんたちに、手と脇腹をお見せになりました。その手には十字架で打たれたクギの跡があります。脇腹には、槍で突き刺された傷痕があります。イエスさまは、仰っています。「あなたたちの罪はわたしが十字架で死んだことによって、償われました。もう、あなた方が神さまのお怒りを受ける必要はありません。私を信じるなら、あなたたちの罪も過ちもみんな赦されるのです。わたしは十字架で死んだだけでなく復活しました。私を信じれば、あなたたちは救われるのです。」

お弟子さん達の心は、復活のイエスさまに出会って、優しいお言葉をかけてもらうまでは苦しくて苦しくてたまりませんでした。自分が、どんなにひどい人間であるのか、どんなにイエスさまに悪い事をしたのか、自分でも分かっていたので、心が傷ついてしまっていたのです。しかし、今はもう違います。イエスさまが復活されたことを知って大喜びです。嬉しくてうれしくて仕方がありません。弟子たちは皆で言いました。「イエスさま、ごめんなさい。信じます。わたしたちの罪を赦してください感謝します。」

ところが、そこに、お弟子さんの中でトマスさん一人が一緒にいなかったのです。お友達のお弟子さんたちは、トマスさんに一生懸命言いました。「トマス、喜んでください。イエスさまは復活されました。私たちはイエスさまを見ました。」すると、トマスさんはとても暗い顔つきで、けれども強い口調できっぱりと言いました。「そんなこと信じるものか。死んだ人がよみがえるわけないでしょう。僕は、イエスさまの手のクギ跡を見、いや、見るだけではだめだ、僕の指で実際にクギ跡に入れてみないと決して信じやしない！」みなさんはトマスさんの気持ち、言葉をどう思いますか。

一週間が過ぎました。すると、どうでしょう。もう一度、イエスさまが皆が集まっている所に現れてくださったのです。この日も同じように、「あなた

がたに平和がありますように。」と仰います。そしてイエスさまは、真っ直ぐにトマスさんの方に近づいて行かれました。そして優しい眼差しで、トマスさんを見ながら、しかし、はっきりとこう仰いました。「トマス、あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。あなたの手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

イエスさまは、トマスが他のお弟子さんにいったあの言葉を聞いておられたのです。そして、トマスに何としても、信じさせたかったのです。イエスさまはここでも怒っておられるではありません。「トマス、なんてひどいことを言ったのだ。知っているぞ。お前が、なんて言ったのか。」イエスさまはそんなことを仰らないのです。どこまでもどこまでも優しく、そして誰よりも真剣に仰るのです。「トマス、信じなさい。信じなければ、あなたの罪は残ってしまうのです。赦されずに残ってしまうのです。神さまの子どもとなれません。信じなさい。そのためなら、あなたが望むとおりにしても良いのですよ。

トマス、信じなさい。」トマスさんの目にはもう涙が一杯です。もう、触る必要などありません。トマスさんは嬉し涙で言いました。「イエスさま、私の主、わたしの神さま！」

トマスさんは何故、最初信じるのが出来なかったのでしょうか。それは最初の日曜日に、皆と一緒にいなかったからです。でも次の日曜日には、皆と一緒に集まっていました。わたしたちは、毎週日曜日に教会学校に集まります。そして、復活されたイエスさまから、「あなたがたに平和がありますように。」と言って頂くのです。イエスさまは今日こう仰っておられます「信じない人にならないで、信じる人になりなさい。そして、神さまの子どもとして育ちなさい。わたしはそのためにお墓を破って、十字架で死んだけれどもよみがえったのですよ。」イエスさまは復活されました。目には見えませんが今も僕たち私たちと一緒にいて、見守って下さいます。イエスさまは生きておられます。皆でもう一度嬉しいうれしいご挨拶をしましょう。「イースター、おめでとうございます。」

今週の暗唱聖句

それから、トマスに言われた。

「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。

また、あなたの手を伸ばし、わたしの脇腹に入れなさい。

信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

ヨハネによる福音書 20 章 27 節

「イースター（復活日）」について

主イエスの復活を記念するために設けられた、教会暦の中でも最も古い祝日。マルコによる福音書 14 章 1 節や使徒言行録 12 章 4 節に見られる「逾越祭」に由来し、すでに使徒時代に祝われていたようです。

古代教会の時代には、復活日をいつにするかという問題をめぐって論争もありましたが、325 年のニケア総会議以後、春分（3 月 21 日頃）の最初の満月の後に来る第一日曜日を復活日とすることに定められました。従って、3 月 22 日から 4 月 25 日までの間に行われることになります。

復活が早朝の出来事であったことから、教会によっては午前 0 時に礼拝が守られることもあったとのことです。またイースター・エッグの習慣もかなり古くから各国で行われていたと思われます。

〈こどもへの質問〉

Q1. イエス様は私たちのために十字架にかかって死んでくださいましたが、その後にとっても不思議なことが起こったよね。

死んで三日目にどんなことが起ったの？

そう、イエス様は三日目に生き返られました。

そして、「私を信じれば、あなたたちは救われます」っておっしゃったんだよね。

Q2. ところが、イエス様が生き返られたことを信じようとしないうお弟子さんがいましたね。

誰だったかな？

そう、トマスさんでしたね。

でも、イエス様はくぎで打たれた手のひらや、やりで刺されたわき腹にさわらせて、「信じないものではなく、信じるものになりなさい」とおっしゃいましたね。

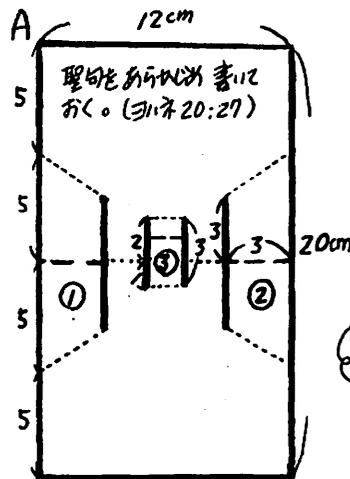
〈お祈り〉

天の父なる神様、イエス様は私たちの罪のために十字架にかかって死んでくださいました。でも、三日目によみがえられました。どうか、私たちがこのすばらしいイエス様の復活を喜び、信じる者へと変えてください。イエス様のお名前によっておいのります。アーメン。

工作 ひよこカード

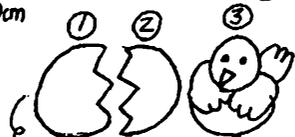
カードを開くとGののからが
割れて、ひよこがとび出す。

青や緑など濃い色にすると
ひよこやGののからが映える。



- — は、はさみでいれる。
- - - - - は、たに折り。
- - - - - は、やり折り。

○ Aを同サイズの色画紙に貼り合わせる。明るい色の紙。



→ それぞれの番号位置にはりつける。

○ 表紙には好きな絵や模様をのりつけてもらう。

〈目標〉

イエス様は復活されて、死を減ぼしてくださった。私たちの希望はここにある。復活されたイエス様はいつも私たちと一緒にいてくださる。イースターを共に喜ぶ。

〈展開例〉

1. イースターになぜタマゴを食べるのかを説明する。

(起源は昔、ペルシャ人に埋葬の時にタマゴを入れる習慣があったのが教会に取り入れられたらしい。殻を破ってヒヨコが出てくるように、イエス様が墓を破ってよみがえられた象徴になった)

2. タマゴさがしゲーム

- ・雨の場合は教会の中で、晴れていたら公園などで行う。(2人で1チーム)
- ・タマゴをセロファンなどで包み、汚れないようにしておく。
- ・さらに、問題を書いてある紙で包む。
- ・包んだタマゴをいろいろな所に隠しておく。
- ・クイズの答えを別の用紙に書く。
- ・後で正解を発表して得点を計算する。

〔用意するもの〕

茹でたタマゴ 10～20個 (人数によって増減)
セロファン(セロテープ、リボンなどでとめる)
クイズを書いた紙
答えを書く紙
ペン
紙の下におく厚紙かタイター
タマゴを入れる袋かカゴ



〔クイズの例〕

- ・イエス様が十字架にかかれたのは何曜日ですか。
- ・イエス様がよみがえられたのは、何曜日ですか。
- ・イエス様の手のクギあとを指でさわらなければ信じないと言ったのは、誰ですか。
- ・イエス様がおっしゃった言葉「信じないものではなく、()者になりなさい」
- ・神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の()を得るためである。
- ・イエス様はおっしゃいました。「わたしを信じる者はたとえ死んでも()」
- ・イエス様がよみがえられたので、イエス様を信じる私たちも()ります。
- ・イースターにタマゴを食べるのはなぜですか。
①～③から選んでください。
①イエス様がタマゴが大好きだったから。
②タマゴの殻を破るようにイエス様が墓からよみがえられたから。
③イエス様が亡くなった時、体に巻いてあった布が白かったから。
- ・イエス様のお墓の前においてあったものは何ですか。(お墓のふた)
- ・イエス様がよみがえられたことをお祝いする日を何といいますか。

(注) 子供たちが読めるように、なるべくひらがなで書く。答えの用紙に問題の番号、解答欄、合計欄などを書いておく。
外から帰ってきた時には飲み物を用意しておくとうい。

〈祈り〉

天のお父さま、私たちのために、イエス様が死んでよみがえってくださったことを感謝します。イエス様が今も生きて、私たちと一緒にいてくださることを忘れることがありませんように。

〈目標〉

イエス様の贖いの御業の完成は復活によるのであることを覚える。

〈指導上の心得〉

イエス様は復活され、今も生きて働いておられる方であることを常に意識する。

〈展開例〉

今日はイースターです。イースターはイエス様が私たちの代わりに十字架に架かって死んで下さって、三日目に復活して下さったことをお祝いする日だよ。

もし、イエス様が復活なさらなかったらどうなっていたのだろう？もし私たちの罪が赦されて、お前の心には罪はないといわれたらどうなのだろう。それって、なんか、創造されたときのアダムさんみたいだよ。アダムさんは最初は神様に完全に従う罪のない状態だったんだよ。そして、神様のご命令を聞いて従いなさいといわれました。でも、アダムさんは失敗したよね。で、イエス様の十字架の死も私たちの罪を赦すだけだったら、やっぱり、私た

ちの信仰は自分で守らなければいけなくなってしまいます。だけど、僕たちもアダムさんと同じ人間だから、何か誘惑があると負けてしまって、神様を信じない、罪の方へ行こうとしてしまいます。だから自分の力で、信仰を守ることが出来ません。

それでは、信仰を守ることが出来なければ、どうなるのだろうか。やっぱり罪を犯して永遠の命を与えられないかも知れません。

でも、神様の救いの御業はそんな中途半端なものではありません。神様は私たちがそのような罪にすぐに負けてしまう弱い存在であることをご存じです。そして、私たちが罪に負けることがないように、そして、信仰から離れてしまうことのないように、イエス様を復活させてくださいました。でも、イエス様が復活しただけで、今は遠くにいらっしやって僕たちのことを見て下さっていないのなら、なんの助けにもなって下さらないよね。でもね大丈夫なんです。イエス様はどっか遠くにいつてしまわれたのではなく、目には見えないけど今も生きて私たちの側で私たちを見守ってくださるのです。

〈目標〉 真実の友、主イエス～死人のうちよりよみがえられた方～に出会う。

〈指導上の心得〉 真実の友主イエスが、死にも打ち勝ち、よみがえり、今も私たちとともにおられる事実を信じるよう導かれたい。

〈展開例〉【招き】昔、イエス・キリストという人が本当にいて、隣人愛の教えを説き、多くの人を弟子としたが、ユダヤ人によって十字架につけられて死んだ。ここまでは誰もが認める史実です。しかしそのイエス・キリストが3日目によみがえったことを信じる人は多くありません。今日ではよみがえりのイエスさまに出会ったという目撃証言の記事です。【読む】ヨハネ 20:24-29 の輪読。【演じる】インタビュー。テレビ局アナ役がトマス役に(Q)あなたはナザレのイエスを目撃しましたか？いつ？どこで？幽霊ではなかったのですか？イエスは何かあなたに話しかけましたか？別人ではなかったのですか？いったいイエスとは何者なのですか？ etc.【作る】模造紙(B紙)などを使って、年刊聖書新聞「タイムスリップ」をつくってみよう。西暦〇〇年〇月〇

日(月)「死刑囚生き返る?」「ナザレのイエスの墓が空に」「祭司長カイアファうわさを否定!」「番兵は“ノーコメント”」などの見出しにトマスやカイアファのインタビューをみんなで書き込んでみよう。これらのいとなみを通して、主の復活が史実であり、当時のユダヤ人社会の一大騒動となったことを実感しよう。カイアファの紹介や祭司長たちによる番兵口止め工作については説明が必要。新聞は、トマスやカイアファの顔、空の墓などの絵、求む祈り広告、CS 教師募集広告、4コマまんが、暗唱聖句などをつけて、教会掲示板に貼らせてもらうとCSのPRにもなって面白い。※30分の分級だと、【演じる】か【作る】のどちらかに絞らざるを得ないと思われる。新聞は教師が事前に内容構成、レイアウト、作絵などの準備をしておかないと、30分では無理。役割分担して時間内に仕上げよう。【暗唱聖句】ヨハネ 20:27、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

〈祈り〉よみがえられた主が、今も私たちと共におられることに感謝いたします。

〈目標〉キリストは私たち一人一人を復活の恵みにあずかる事ができるようにしてくださる。

〈展開例〉今日はイースターです。イエス様が十字架の上で死んでしまわれた後、三日後によみがえられたことの恵みを、聖書を通してみんなで分かち合いましょ。

○十字架にかけられたイエス様

もう一度、おさらいとして、なぜイエス様が十字架の上で死ななければならなかったかをもう一度考えましょう（コリント一 15:3）。イエス様は私たちの罪のために、私たちが受けるべき罪の罰としての神様に捨てられるような苦しい死を受けられました。その後、イエス様はお墓に入れられどうなったのでしょうか。イエス様のお墓を見に行ったマリヤたちが見たものは何だったのでしょうか（マルコ 24:37）。礼拝のお話にもあったように、イエス様は三日後によみがえられたのです。

○復活を信じられない弟子たちのために

死んだ人がよみがえったなんて、なかなか信じられない事です。イエス様のお弟子さんたちも、最初はそんなことがあるはずがないじゃないかと思ったのです。イエス様がみんなの前に姿を見せてくださっても、幽霊ではないかとこわがっていました（ルカ 24:37）。それに対してイエス様はどうされたのでしょうか。イエス様はたましいだけが幽霊としてよみがえったのではなく、体もよみがえられたことを、弟子たちの前で魚を食べて見せてくださいました。と言っても、全ての弟子がイエス様によみがえったことを信じたわけではありません。礼拝のお話に出てきたトマスがそうでした（ヨハネ 20:19-29）。トマスはイエス様のお弟子さんだったので、イエス様が生きておられたときにされたいろいろな奇跡を見えていますし、イエス様のお話も聞いていたはず。エルサレムに来る直前に、ラザロという人をよみがえらせた事も見えていますし、イエス様ご自身が死んでも三日後によみがえると、あらかじめ弟子たちに教えておられたのも聞いていたはず。それでも、トマスはイエス様によみがえられたことを自分は見ていないからと信じようとしなかった。イエス様はどうしたのでしょうか。「信じようとしないう奴なんて知らない！」と、トマスを見離したのでしょうか。イエス様は「信じられないのなら、信じる事ができる

ように」と、トマスの前に現れ、「傷に触れてみなさい」とおっしゃったのです（ヨハネ 20:27）。

○イエス様の復活の恵み

イエス様によみがえられたことは、なかなか信じられないとても大きな奇跡です。でも、イエス様によみがえられたということは私たちにたいへん大切なことです（コリント一 15:16,17）。イエス様は私たちの罪の罰としての絶望的な死をお迎えになったのですが、そこから永遠の死には向かわずよみがえられたのは、イエス様が神様の命令を完全に守った事が認められ、神様に受け入れられたということです。イエス様は私たちと同じ人間としてこの世に来られましたが、子なる神様として何一つ罪が無かったということが私たちとの大きな違いでした。そのイエス様は、絶望的な死から、神様に受け入れられて神様といつまでも一緒にいるという「永遠の命」へとよみがえられたのです。イエス様が死なれたのは、私の身代わりとしてでした。そのイエス様によみがえられたということは、私たちも神様に「罪のないもの」と見ていただいて、永遠の命へとよみがえれる事ができるということです。私の身代わりになって罪を代わりに負ってくださったイエス様が確かによみがえられたのだから、私たちも永遠の命へとよみがえれる事が保証されているのです。

よみがえりを信じるかどうかということは、私たちが永遠の命を受けることを信じるかどうかということに直接かかわってきます。イエス様でさえよみがえらないとしたら、私がどうしてよみがえれる事ができるでしょう。死んだ人が生き返ると言うことを信じることは、私たちの知識や常識と言った私たちの力ではむづかしいことです。しかし、イエス様はトマスにそうしてくださったように、信じられないのなら信じる事ができるようにと、私たちの心に働いて助けてくださるのです。

〈祈り〉天の父なる神様、私たちの救い主イエス様のよみがえりを教会でみんなでお祝いできますことを感謝いたします。イエス様によみがえってくださったからこそ、私たちも永遠の命へと迎え入れられます。どうか、イエス様がトマスにそうしてくださったように、私たちの心に働いてくださって、イエス様のよみがえりと私たちの救いを確かなものとして信じる事ができるようにしてください。

テキスト マルコによる福音書5章1～20節

悪霊に取りつかれた人（「レギオン」）の救いについて記します。人がイエス・キリストに出会って救われるとはどのようなことであるのかを、鮮やかに描く聖書箇所です。

〈レギオン〉

ゲラサ人の地方に、汚れた霊に取りつかれた人が住んでいました。「墓場を住まいとして」(3) いたこと、「昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた」(5) ことは、彼が置かれていた悲惨きわまりない状況を示しています。悪霊が彼から真の人間性と、人との交わりの生活を奪い去っていました。

人々が彼を「足枷や鎖で縛」(4) っていたことは、この人を力ずくの管理の下に置く以外に手だてがなかったということであり、ここに人間の悪霊のカへの無力が露呈されています。

その彼に主イエスが出会われます。この記事の直前に、突風を静める主イエスの記事があります(4:35以下)。つまり、「向こう岸に渡」(4:35) ってゲラサ人の地方に来るまでに、主イエスと弟子たちは命の危険にさらされたわけです。このことは、命をかけてこのひとりの人を主イエスが救おうとなさったことを思わせます。

主イエスはまずこの人の名をお問いになります(9)。名は体を表すと言うとおり、名前はその人の本質に深くかかわります。この人は「レギオン」(9) と答えました。大勢、たくさんという意味です。すなわちこの人はたくさんの悪霊に人格を引き裂かれて、自己分裂と自己喪失の状態にあったのです。主イエスはこの人に取りついていた霊を、豚の大群に

乗り移らせることによって、この人をひとりの人間として回復させたいです。

〈主イエスのもとに座る〉

この人が救われたしるしは、「服を着、正気になって座って」(15) たことです。何よりも、主イエスのもとに座っていたことに注目すべきです。主のもとに座るとは、礼拝行為を示すものにほかなりません。彼は礼拝者として回復されました。礼拝こそ人の本分です(ウ小教理問 1)。主イエスは悪霊に奪われていたこの人を、ご自分のものとして奪い返して下さったのです。

〈郷里伝道に召される〉

救われた喜びの中で、この人は主イエスの弟子となって、従っていきたく願います。けれども主イエスは、彼に郷里にとどまるようにお命じになります(19)。

それは、郷里の人々に自分が受けた福音の恵みを語り伝えることこそが、彼の使命であったからです。

このゲラサの地方には、悪霊の支配におびえる人々が、いまだ数多く生活していたに違いありません。人々が彼をお救いになった主イエスを恐れて、この地方から出て行ってもらいたいと言いだした(17) ことは、状況の深刻さを暗示しています。彼が主イエスのあとを追ってこの地方から去ってしまったなら、郷里の人々の誤解を解き、真の救い主を証しする者はいなくなってしまうのです。その場所にとどまることこそ、神が彼に与えた召しであったのです。

カテキズム

子どもカテキズム 問1

ウェストミンスター小教理問答 問1

子どもカテキズム

問1 私たちは何のために生きるのですか。

答 私たちが生きるのは、私たちの神さまを知り、神さまを喜び、神さまの栄光をあらわすためです。これが私たちの喜びです。

〈人生の目的〉

「人は何のために生きるのか。」この真剣な問い、叫びは大人（成人）だけのものでしょうか。違います。幼子もまたこの真剣な問いを発しています。口に出さずともです。特に小学生の上級、中学生には切実、緊急、決定的な問いとなります。「先生、僕たちは何の為に勉強するんですか。」この問いに真剣に答えを提出できる先生はどれほどおられるでしょうか。この問いを問わせること自体を回避する空気が蔓延しているように思います。公教育の現場では、誰も教えてくれないのではないのでしょうか。いわんや、真の神、聖書の神を教えてくれる公教育の場はありません。実に日曜学校だけが子らに真の神の存在と人格を教え示すことができるのです。まさに日曜学校には出番があります。日曜学校は社会の前面に出なければなりません。伝道地の日本の教会は、すべての子らに福音の知識を満たしたい、そのような祈りと責任感を持ってこれまで取り組んできたはずで、教会は、子どもたちに確信をもって「これが道です」と指し示すことができるのです。

私共はまず、そのことを心から感謝したいと思えます。私共が神に救われていること、この恵みの事実こそがすべての土台です。救われて生きている私共は、ただそれだけで既に立派にキリストの証人として子ども達の前に立たされています。

「人生の目的」の問答を二回に分けて学びます。このことは、このカテキズムにとって、この項が決定的に重要であるということを示しています。つまり、これから二年間に渡って用いるこの「カテキズム」、「日曜学校教案誌」は、常にこの「人生の目的」が土台となり、ここに立ち返り立ち返りつつ進められるものなのです。言い換えれば、この「人生の目的」がそれ以下の問答へと展開されて行くことになるわけです。

〈わたしたちは何のために生きるのですか〉

「私たちは何の為に生きるのですか。」まず、この問い自体が決定的に重要です。先程も触れましたが、現代はこの問いを問わなくなっています。思春期、青年期の時代に真剣にこれを悩む若人の姿を見なくなりました。この問いをまず「問わせること」が大切なのではないのでしょうか。小さな子らに問わせるのです。何故ならその問いを発せさせる事が、救いを求めさせる道、真理、神を求めさせる道そのものに繋がるからです。ただし、私共の教案誌作成の基本的な立場は、「文言」の暗記を目指すのではなく、教理が指し示す「事柄」、つまり「生ける神ご自身」へと導くものです。しかし、だからと言って、文言の暗記を軽んじるわけではありません。少なくとも、「第一部 人生の目的」の問1から問4まではそらんじるほど、親しませたいものです。

第二部、そして第三部は、「道」が主題となっています。第一部は人間の生きる「道」、神に造られ、神に新しく造られたキリスト者として生きる「道」そのものを要約して記したものです。

教師として召された私共の奉仕の職務であり特権は、喜びと感謝とをもって、「この道を歩きなさい」、「この道を共に歩こう」と勧めることです。それは、そのように招く者自身が感謝して生き、十戒を生きる道を歩むことです。そして、伝える相手に対する愛を与えていただくために、また神のみ言葉が子どもらに宿るために、聖霊のお働きをひたすら求める祈りの道を歩むことへと導かれるはずで、

〈私たちの神さまを知るため〉

信仰、救いにはまず知識が必要です。救いの知識、信仰の言葉です。つまり福音であり神のみことばです。その知識を伝達し、それを受け入れる時に救いの御業がその人に起こります。「実に信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによつ

て始まる」(ローマ 10:17) のものです。キリストの言葉とは、教会が宣べ伝えている「信仰の言葉」(ローマ 10:8) です。ですから、教会は一生懸命、宣教に打ち込むのです。私共は日曜学校教師としてこの御言葉を宣べ伝えるのです。

「永遠の生命とは、唯一の真の神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることで」(ヨハネ 17:3) と主イエス・キリストは祈られました。ここでの「知る」=ギリシャ語「ギノースコー」と言う言葉は、「人格的交わり」を意味しています。旧約聖書の「知る」=ヘブル語「ヤードー」には「結婚」と言う意味もあります。その旧約聖書の「知る」という言葉の伝統を踏まえて福音を証したキリスト教会ですから、「知る」ということは、「神との交わり」、「救い」そのものを意味したのです。神知識とは、 $1 + 1 = 2$ というような知識ではありません。人格的な知識です。命を与える知識です。それを知ったら、心動かされ、暖かくなる知識です。生きる勇気を与えられ、神と人を愛する愛が呼び覚まされる、そのような知識です。

このような知識を伝えようとするとき、その知識そのものによって、その仕方も規定されることとなります。一言で申せば、愛を込めて語るのです。喜びを込めて語るのです。真実に、真剣に語るのです。その時には、御言葉にふさわしい「声色」さえ聖霊が備えてくださると信じます。常に、今から彼らに一番大切な知識について、これなしには救いの道がないという緊迫感と確信とをもって子どもらの前に立ち、語る者でありたいと思います。

〈神さまを喜び〉

神を知る事は、神に愛されている自分を発見する喜びへと繋がります。「わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています」(ローマ 5:11)。口語訳では神を「誇り」とするを、「喜ぶ」としました。主イエス・キリストによって罪を赦された者は誰でも、神を父とお呼びすることができます。それこそが救いの喜びです。救われて生きる者がいつも享受する喜びです。私共が生きて、それは喜びの道そのものです。人生の目的とは、神に救われ、神の子とされ、神を喜ぶその喜びに生きることに他なりません。神を喜ぶ人生こそ、最高の人生です。牧田吉和教師(神戸改革派神学校校長)の「喜びに満ちたカルヴィニズム」という論文をどうぞお読みください。「改革派信仰と

は何か」(聖恵授産所)の中に収められています。本書は、日曜学校教師の方は必携、座右の書として頂きたいと思います。その中にある、「もしその人が骨の髄までカルヴィニストであるならば、まさにその人こそ、喜びに満ちた人」という言葉を味わいたいと思います。

〈説教展開例との関わり〉

さて、以上のところまでを、説教展開例ではマルコ 5:1-20 のゲラサ人と主イエスとの物語をテキストに語っています。血の固まりが黒くこびりつくゲラサ人が駆け寄って来る所は、かなり恐ろしい印象を子どもらに与えるかもしれません。しかし、ゲラサ人は人生の目的を見失った我々の(いささか極端な例かもしれませんが)現実を鮮やかに映し出しています。そして、主イエス・キリストが何のために我々の下に来てくださったのか、訪ねて下さったのかが見事に物語られています。カテキズムを生き生きと物語ること、教理を説教すること、これがこの教案誌の狙いであり、挑戦です。教理を物語る、それは福音書記者がしていることそのものです。ですから、私共はその物語の中に入り込んで語りたく願います。主イエス・キリストの救いの御業にあずかっている私共であれば誰でも、聖書の救いの物語(歴史)は自分自身になされた出来事そのものであることに気づけるはずで、説教者も分級の奉仕者も自分がかつてゲラサ人であったこと、彼と同じようにイエス・キリストの救いの御業にあずかったことを証し、感謝、賛美しつつこの教理を伝えたいと思います。

そしてそのような救いの言葉は、古来より常に礼拝式の中で語られ続けたものです。教会は礼拝する神の民の家であり、公的祈り、即ち主日礼拝式によって教会の信仰は継承され、整えられてまいりました。そうであれば、私共は礼拝式が充実することを毎週毎週祈り求める必要があるはずで、聖書研究の中で、「主のもとに座るとは、礼拝行為を示すものにほかなりせん。彼は礼拝者として回復されました。礼拝こそ人の本分です」とあります。第一部「人生の目的」の鍵となるのは、まさに「礼拝」に他なりません。一言で申しますと、神を礼拝(祈り)することが人生の目的なのです。礼拝に生きる生活、「これが私たちの喜びです」と告白する私共、そして日曜学校です。そうであれば、神を喜ぶ喜びに溢れた礼拝式、分級を目指してまいりたいものです。

聖書箇所 マルコによる福音書5章1～20節
カテキズム 子どもカテキズム 問1

「人間らしく生きる」

おはようございます。今日から教会学校の礼拝がすこし変わりました。「子どもカテキズム」を使って皆と聖書を学んでまいります。そして神さまを礼拝してまいります。「カテキズム」と言うのは、聖書の教えを短くまとめたものです。礼拝の中で、皆で声をあわせてゆっくりと読んで行きましょう。

ある日のことです。イエスさまはガリラヤの湖の向こう岸、東の方に向かって船を向かわせられました。そこには、ゲラサ人が住んでいて、ユダヤ人は、めったに近寄らない場所です。ところがイエスさまは、どうしてもこのゲラサ人の住んでいる場所に行かなくてはならないと考えておられるようです。

さあ、船が着きました。するとどうでしょう。向こうのほうから大きな男が走り寄って来るではありませんか。ダッダ、ダッダ、どんどん近づいて来ます。弟子たちは、近づいてくる男を見て、怖くなって来ました。それもそのはずです。その男は、着ている物は泥だらけで真っ黒。しかもいろんな所が破けてしまっています。破れたところからは、傷ついた体に血の固まりが黒くなってこびりついています。顔はどうでしょうか。傷だらけです。恐ろしい顔つきの大きな男です。お弟子さんたちは、このたった一人の男がダッダ、ダッダと駆けて寄って近づくのを見て、逃げだしたくなって来ました。でも、イエスさまは近づいてくるその男をずっつと見ておられます。そして、目の前に来たその男に向かってこう仰いました。「汚れた霊、この人から出て行け」。

何故、イエスさまは「汚れた霊、この人から出て行け」と命じられたのでしょうか。この人は、お墓の中に住んでいました。それだけではありません。これまでに何度もなにも足に鎖を付けられ、体も鎖で縛りつけられていました。どうして、縛りつけられていたのでしょうか。みんなをいじめて、怪我をさすこともあるからです。ですから、皆は何とかして、この男が暴れて悪いことをしないように、迷惑をかけないようにお願いしました。けれども、こ

の人はちっとも言うことをききません。そればかりか、何度、鎖に繋いでも、この人はワァーっとものすごい力を出して、その度に鎖を破って逃げだしてしまうのです。それだけではありません。この人は、誰かを傷つけることができなければ、自分の体を石で打ちたたいてでも、血を見たくなくなってしまいます。イライラが抑えきれないのです。何かわけが分からないようなイライラした力が、この人の中から湧いてきてしまうのです。

イエスさまは、この人がそんなひどい生き方しかできないは、汚れた霊にしばられ、とりつかれていることが原因であることをご存じでした。だから、何としても、この人を本当の人間らしさを取り戻させようとして、はるばるやってこられたのです。「汚れた霊、この人から出て行け」と命じられたのは、そのためです。

さあすると、どうでしょうか。汚れた霊がこたえたのです。「イエスさま、どうぞ、近づかないでください。ここから出て行ってください。お願いします。」けれどもイエスさまは、それを許しません。あくまでも、「この人から出て行け」と命じられます。悪魔の霊は、最後をお願いします。「イエスさま、豚の中に入れてください。」イエスさまは、それを許されました。するとどうでしょう。汚れた霊どもは、なんと2000頭の豚の中に入り込んだのです。悪魔の霊に住みつかれたその豚たちは、ドドドドドッと、崖を下って、湖の中に落ちて行きみんな溺れ死んでしまったのです。するとどうでしょう。あの真っ黒なかつこうをしていた男、とげとげしく怒っているような顔つきの男は、今では、さわやかな顔つきにもどって静かに、座っています。

さて、イエスさまはこのお話を通して、僕たち私たちに何を教えようとなさっておられるのでしょうか。私には関係のないちよつと怖いけど楽しいお話。そんなふうにと考えたら、違います。それは、「わたしたち人間は何のために生きるのですか」ということを教えてくださる為です。ゲラサの男の人は、神

さまの霊を受けていませんでした。かわりに、汚れた霊を受けてしまっていました。そうすると、人間は人間らしく生きることができなくなってしまうのです。今皆の知っている人で「お墓に住」んでいる人はいますか。いませんね。けれども、神さまと一緒にいてくださることができない、悪いことばかりをしている所は、実は「お墓」のようなものなのです。もしも、私たちの神さまを知らずに、神さまを喜ぶことを知らないで生きるならば、人間は悪いことを平気でしてしまうようになるのです。その人は、本当はお墓に住んでいるのに、それが分からなくなってしまうのです。お墓が好きになるのです。つまり、暗い所で、悪いことをすることが楽しくなってしまうのです。人を傷つける事は悪いと思っても、スカッとしてしまうのです。でも、知ってください。人を傷つけることは、本当は、自分も傷つけているのです。自分の体を石で打って血を流すのが楽しいと言う人はいないでしょう。でも、神さまから離れてしまって、神さまを喜ぶことを知らない人は、自

分を大切にすることも知らないままになってしまうのです。神さまを知ると神さまの霊が私たちに注がれます。でも、神さまから離れると、悪い霊にとりつかれます。悪い霊は何をしたいのでしょうか。悪い霊に住みつかれた豚は、死んでしまったのです。そうです。悪い霊は、傷つけたいのです。殺したいのです。けれども、イエスさまは、私たちが人間らしく生きるようにさせたいのです。本当に輝く生命を与えたいのです。

ガラスの男の人は、正気に戻りました。人間らしさを取り戻します。そして、目の前におられるイエスさまを心から信じました。そして心のなかでこう決心しました。「そうだ、俺は今まで、神さまなんか信じなかった、でも今はちがう。これから、本当の神さまをもっともっと良く知りたい、そして神さまを知ってもっともっと嬉しくなるのだ。俺の喜びは、俺を救ってくださった真の神さまを知ることなんだ。」

今週の暗唱聖句

すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。

栄光が神に永遠にありますように、アーメン。

ローマの信徒への手紙 11章 36節

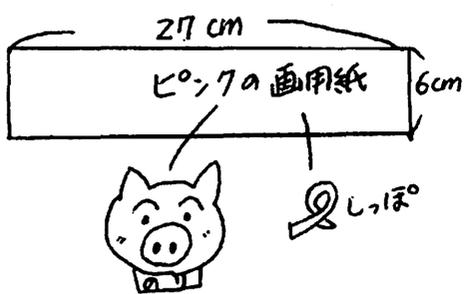
〈こどもへの質問〉

- Q1. 悪魔の霊に取り憑かれた人ができましたが、イエス様はこの人に向かって何とおっしゃったんでしょうか。
 そう、「悪い霊よ、出て行け！」っておっしゃったんだよね。
 そうと、悪い霊は豚の中に乗り移らせて欲しいとイエス様に頼みました。
 そして、悪い霊が乗り移った 2000 頭の豚たちは、崖を下って湖に落ちてみんな死んでしまったんだよね。
- Q2. 悪い霊が取り除かれた人はどうなりましたか？
 普通の人に戻って人間らしさを取りもどしたね。
 そして、イエス様がして下さった事をぜんぶ周りの人々に言い広めはじめたんだよね。

〈お祈り〉

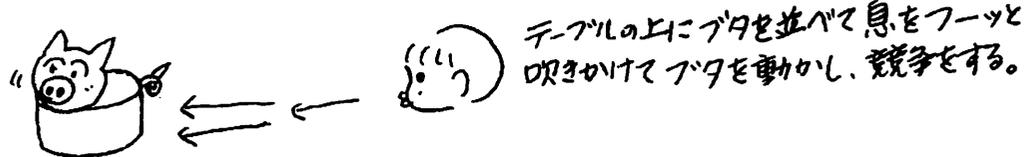
天の父なる神様、悪い霊に取り憑かれた人は、イエス様に悪い霊を取り除いてもらう事によって本当の神様を信じるようになりました。神様、私たちの心の中に悪い霊がいましたら、どうかそれを取り除いて下さい。そして、神様を信じて毎日喜んで過ごす事ができますようにしてください。イエス様のお名前によっておいのりします。アーメン

工作 **ブタ競争**



27×6 cm の画用紙を輪にしてテープで止め、顔としっぽを貼り付ける。
 ブタの顔は子どもたちに描かせてもいい。

「ブタの毛は、かみからで、かみによってたまためかみにむかっているのです。」
 聖句を書いておく。 ローマ 11:36



〈目標〉

本当に人間らしく生きるとは。

神様によって造られた私たちは、神様を知り、神様を愛し従っていくことによって、初めて本当の意味で人間らしい生き方をすることができる。

〈展開例〉

1. 人間らしさとは何かを考える

(傘を持ってきて広げてみる)

これは何ですか、どんなときに使いますか。

(→ 雨が降ったときに使う)

あるところに、雨の降らない国がありました。その国の人は傘というものを見たことがありませんでした。あるとき、外国から一人のお客さんがやってきて、傘を忘れていきました。みんなは、いったいこれはどうやって使うのだろうと、一生懸命考えました。ある人は傘を広げて、その先に洗濯物を一つずつひっかけて、ああ、これは物干しに違いないといいました。またある人は、傘で穴をあけて、これは土を掘るときに使うものに違いないといいました。またある人は、高いところにある物をひっかけて取るための棒だいいました。またある人は、子供がお昼寝するときのベッドだろうといいました。だれも、傘の本当の使い方を知りないので自分勝手に使っていました。

私たちは自分で自分を本当に意味で知っているでしょうか。人間が人間として、本当に人間らしく生きるためには、私たちが造ってくださった神様に聞かなければなりません。まず、神様を知ること、そして私たちが造られ、罪から救い出してくださいましたイエス様を心の中に受け入れることです。神様に従っていくとき、人間は本当の意味で人間らしい生き方ができるようになります。

2. 私の心の中に住んでくださるイエス様

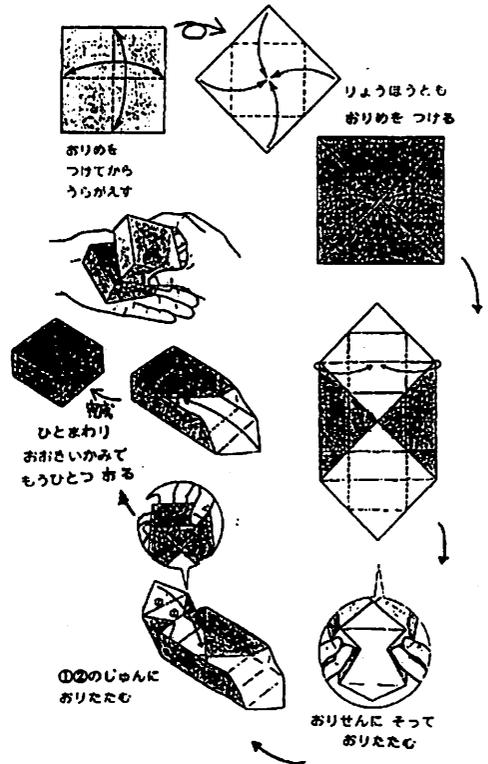
神様から離れてしまった人間の心には、悪いものがたくさん入り込むようになりました。ガラスの人の心の中には悪い霊が住んでいました。その結果、自分で自分を傷つけたり、他の人を傷つけたり、裸であばれたりしていました。私たちもまた自分で自分を憎んだり、人を傷つけたり、自分でどうするこ

ともできないことがあります。どうしたらよいのでしょうか。

イエス様に心の中に住んでいただくことです。その時、初めて本当に、人間らしい生き方ができるようになるのです。

3. 工作

私の心の中に住んでくださるイエス様



箱の中にイエス様と書いた紙を入れる。

箱のふたの上に「わたしのこころ」と書いた紙を貼る。

〈祈り〉

天のお父さま、ガラスの人から悪い霊を追い出してくださいましたイエス様に感謝します。私を愛してくださるイエス様を、心の中に受け入れることができますように。そして本当の意味で人間らしく生きることができるようにしてください。

〈目標〉 人間が人間らしく生きることは、主イエスを信じ、神様との正しい交わりに入れられることであることを覚える。

〈指導上の心得〉 人間らしく生きる中心は神礼拝であることを常に確認しつつ語る。

〈展開例〉

みんなは、自分は人間らしいと思う？… それじゃあ、何で、人間らしいって思えるんだろうね。それは、他の動物みたいにではなくて、服を着て、家に住んで、他の人とお話し出来るからかな。でも、そういう生活が出来なかつたら、人間らしくなくなってしまうのかな？

中には、人と会うのが怖くなったりして、人と話したりすることが出来なくなってしまう人がいます。また、普通にお家で生活できない人もいます。そういう人は人間らしくないのかな？そんなことはありません。どのような生活をしていても、どのような状態にあっても、私たちは人間です。だから、みんな人間らしく生きているはずなのです。

でも、実は多くの人は本当の意味で、人間らしい

生き方をしていないんです。

それじゃあ、本当の意味で人間らしい生き方をするってどういう意味なんだろうね？それは、神様を信じて、神様の御言葉を聞いて、神様に礼拝を捧げる。つまり、神様とお話し出来る。神様と交わりが出来るということが、本当の意味で人間らしいということなのです。

今日のお話しにあった、ガラスの男は悪霊が出ていったあとイエス様も御許に座っていました。それは、イエス様のお声を聞こうとする姿。礼拝を捧げようとする姿です。彼は、人々から恐れられ、野獣のように鎖に繋がれたりもしました。本当に、人間ではないような扱いを受けていたのです。

この、悪霊に取り憑かれていた人の、自由のない人間ではないような扱いをされていた姿は、私たち人間の姿です。イエス様の救いを受けたとき、初めて、私たちはイエス様を礼拝するためにイエス様のおそばに座ることが出来るのです。信仰を与えられた私たちにはそれが出来るのであり、それこそが、人間らしい姿であることを覚えて帰ってください。

〈目標〉 人間は、神様を礼拝するためにつくられたことを知る。

〈指導上の心得〉 「神の栄光をあらわす」という言葉を説明することはむずかしい。ここでは、神礼拝こそ、神の栄光（神様のすばらしさ）を現す生き方であることを伝えたい。

〈展開例〉【招き】 暗唱聖句のローマ 11:36 を一緒に読みましょう。「すべてのものは神から出て」という言葉から、私たち人間も含め、すべてのものは神様がおつくりになったということがわかります。創世紀によれば、私たちはもともと「神様に似せてつくられた」と書いてありますが、それは人間が自由な心で神様を愛し、神様とお話しができるためでした。しかし、人間は罪のために神さまとお話しができなくなってしまったのです。ところが、「神によって保たれ」という言葉から、私たちは神様によって罪許され、守られていることがわかります。神様はそむいた私たちを決して見捨てなかつたのです。「神に向かっているのです」とは、私たちが皆、天国（神の国）というゴールに向かって生きているというこ

とです。【考える】 太陽に向いている花と、花びらも葉っぱも太陽に向けなくて咲いている花の絵を見せて、(Q)この絵のおかしいところを教えてください。(Q)太陽に向いていない花はこのあとどうなると思いますか。(Q)太陽に向いていない花がおかしい理由はなんですか。(Q)太陽は神様を現しているとしたら、花は何を現していると思いますか。(問いを通して、神様に背を向けて生きることがいかに不自然であるかをおぼえよう)。(メッセージ) 太陽に向いている花は、何を現しているのでしょうか。それは礼拝する人間の姿です。この花のごとく、神さまをいつも礼拝して生きる姿こそ、自然で、人間本来の生き方なのです。悪霊を追い出していただいたゲサラ人も、まずイエスさまを拝みました。神の栄光をあらわすとは、神さまを礼拝して生きることです。【見る】 いわゆる花見シーズンは過ぎたが、春の美しい花々を観照しがてら、散歩を楽しんではどうか。また分級を屋外でやってもよい。

〈祈り〉 いつも私たちの心が、神さまを礼拝して生きることができるよう。

〈目標〉人間が創造されたときの「本来の姿」に立ち帰ることこそが「人間らしい生き方」である。

〈展開例〉今日の礼拝では、ガラスの男の人が「神様の霊」を受けていなかったの、人間らしい生き方ができずにいた、というお話を聞きました。分級では、そのことをもう少し詳しく考えてみましょう。

○人間が造られた時のすがた

人間らしく生きるという事を考えるために、まず、人間がこの地上にあらわれた時のことを考えてみましょう。君たちは、人間がどのようにしてこの地上にあらわれたと考えていますか？ 創世記 1:1-2:7 を読みましょう。神様はこの天地の全てを創られたと書いてあるのですが、それでは神様は何のために私たち人間を造られたのでしょうか。

神様は、私たち人間を神様が造られた生き物を支配し、世界を管理する者としてお造りになりました(1:26、28)。その、神様から与えられたつとめをはたすために、人間は他の動物たちとは違う方法で神様によって造られました。その第一は、人間は神様に似せて造られたということです(1:27)。この事は、神様が私たちのような体を持っておられるということではありません。私たちが神様のような霊をもった存在として造られたということです。2:7から、神様が人間を造られた時にして下さった特別なことを見てみましょう。神様は、人間の鼻に「命の息」を吹き込まれました。それによって人は生きるものになったと書かれていますから、このことは人間として生きるうえでとても大切な事です。この事によって、人間は動物とまったく違ったものになりました。私たちがしていることで、たとえば、こいと言われているチンパンジーでもしないことがあります。それは何だと思いませんか？ それは、「神をおがむ」ということです。人間の古代の遺跡には必ず神を拝んだ跡、神殿などが見つかっています。神殿がなくても、死んだ人を埋葬するということをしています。しかし、チンパンジーもゴリラもそういうことはしません。神様が人間だけに鼻に吹き込んでくださった「命の息」とは、神様のことを想う事のできる力「たましい」です。ただ、後でお話する「罪」のために、本当の神様ではないものを人間は拝みたがるのですが、それでも、私たちの力を越えた大きい存在「神」の存在は、人間の中に刻み込

まれているのです。

○人間は本来の姿を失った

私たち人間は、神様に従うために、神様に似せて、神様を想う事のできる「たましい」によって生かされるものとして造られたものです。これが、私たち人間の本来の姿です。しかし、人間はこの造られた時の本来の姿を失ってしまいました。その原因である「罪」が入った時のことを、創世記の3章から見てみましょう。蛇=悪魔が、女=エバを誘惑します。その時に蛇が使った言葉を見てみましょう(3:4)。蛇は「神様のようにになれる」という言葉で人間を誘惑しました。そして、この言葉は人間をまんまと捕らえてしまいました。アダムとエバは、神様に従うよりは自分が神様みたいになりたかったのです。これが「罪」です。この、自分勝手にしていたという「罪」のために、人間は造られた時の本来の姿を失ってしまいました。

造られたものはどんなものでも、本来の造られた目的のために使われている時がもっともそのすばらしさを表すものです。残念ながら、今の人間は本来の姿を見失っていて、神様が造られた時のすばらしさ「人間らしさ」を失っています。

○人間らしく生きる

「人間らしく生きる」ということは、ぜいたくな生活をするでも、休暇をたっぷりとりリゾートライフを楽しむでもありません。人間が造られたもとの姿にもどることです。その、もとの姿とは、「神様に従うために」「神様に似せて形づくられた」「神様を想う『たましい』によって生きるものとされている」すがたです。最後に、ローマ 11:36 の御言葉を見てみましょう。すべての基礎は神様にあるということ、私たち人間も例外ではありません。そこに私たちの本来の姿があり、真の「人間らしさ」があるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様、今日は、私たち人間が造られた時の本来の姿について考えました。そして、その本来の姿にこそ「人間らしさ」があることも学びました。私たちは、罪のために本来の姿を失っています。どうか、神様が与えて下さった「たましい」によって神様のことを想い、神様に従う本来の姿にもどることができるようになりますように。

テキスト コリントの信徒への手紙 ー 10章31節

創立宣言の主張の第一点とのかかわりで取り上げられることの多い聖句ですが、第一コリント書全体の脈絡から言えば、ここは偶像に供えられた肉を食べるべきかいなかという話題によりながら、パウロがキリスト者の自由についてコリントの教会員たちに説いている箇所です。

〈偶像に供えられた肉の問題〉

偶像への供え物の問題について、パウロは8:1から答え始めていますが、ここはその結論にあたる部分です。

コリントの教会員たちは、自分たちはイエス・キリストを信じたのだから、もはや偶像の支配を受けてはならず、何をしても自由だと主張していました。ただ、それが高じて、わざわざ偶像宗教の食卓におもむいて、そこに供えられた肉を食べてみせる人々が現れ、彼らの振る舞いがまだ信仰に入って間もない人々を躓かせるという問題も起こってきていました。

パウロはここで、ひとまずコリントの人々の言う「自由」を承認します。例えば、市場で売られている肉（偶像への供え物のお下がりが多かったとのこと）については、それがかつて偶像に供えられたものではなかったかと心配しないで、自由に食べてよい、實在もしない神々が肉を汚すなどということはありません、むしろすべての食物は造り主なる神の賜物なのだから、と勧めます。

また、不信者の家の食卓に招かれた場合にも、同様に出席した食事を自由に食べてよいわけです。

ただ、主人が客たちに、あえてこれは偶像に供えられた肉であると告げた場合には、主人と同席の人々への配慮として、食べないことだ。なぜならそれを食べることは、キリスト者が偶像のご利益を認

めるものと受け取られかねないからだ。食べたとしても同席の人々が不信者であったとしても証しにならないし、信者であったとすれば信仰の躓きを与えることになる。そうなると、このようなささいな振る舞いによって、イエス・キリストが導いた血潮を流して買い取って下さった魂を失わせかねない。

つまりパウロは、キリスト者とは何が信仰にとって有益であり、互いの徳を高めあうことであるのかを、よく考えて行動するように促しているのです。

〈すべて神の栄光を現すために〉

10:31は、上の議論を踏まえた上で、キリスト者の生活全般における根本原則を示します。

当時コリント教会には、ギリシヤ的な霊肉二元論の考え方が入り込んでいたと言われています。救いは霊の事柄にのみかかわるのであって、見えるものや地上の生活は救いとは関係がないとの考え方です。ここから、極端な禁欲主義と放縱主義、また復活の否定といった深刻な問題が持ち上がっていたようです（復活の否定の背景には、「よき創造」とイエス・キリストの人性の否定ということがあり、これが新天新地の信仰にも歪みを与え、この世に対する逃避的姿勢をきたらせるということがあったでしょう）。食事のような瑣末なことをあれこれ言うなどわずらわしいという意見もあつたに違いありません。

しかしパウロはコリントの人々に、この地上での生活が新天新地の祝福との密接なつながりを有するゆえに、いかなる事柄においても神の栄光があらわされていかねばならないことを語り示したのです。食事の問題は、実は福音理解の根幹にかかわる問題であつたのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問1
ウエストミンスター小教理問答 問1

子どもカテキズム

問1 私たちは何のために生きるのですか。

答 私たちが生きるのは、私たちの神さまを知り、神さまを喜び、
神さまの栄光をあらわすためです。これが私たちの喜びです。

〈神の栄光を現すとは〉

「神の栄光を現す」。これは、改革派の信仰の心をはっきりと語る言葉、モットーでもあります。ただし、うっかりすると、私共ですら律法主義的に捉えてしまったり、子どもの前で語るときに、律法的に語ってしまう危険性も大きいかもしれません。

子どもに、「人生の目的は神さまの栄光をあらわすことなのです。だから、一生懸命勉強しなさい。スポーツをするのだったら、優勝するくらいがんばりなさい。それが、神さまの栄光を現す道です!」と言ったら、おそらく、子どもらはつぶされてしまうのではないのでしょうか。これでは、福音的な勧告とは申せません。

確かに、私共の「子どもカテキズム」も、「十戒」を生きることを強調いたします。そこには、神の御言葉、御心に服従して生きるところに神の栄光が現されるという理解があります。しかし、それは、あくまでも、救われた者の感謝を現す道しるべとして生きる限りにおいて、十戒を喜んで生きることができし、神の栄光を現すことに通じるのであります。

〈喜びと栄光の相互関係〉

栄光と喜びは相即不離の相互関係を持っています。「神を喜ぶ喜び」なしに、その人を通して神の栄光は現されません。また逆に、神の栄光を現そう、神の御心を行おうという「志」のないところで、神を喜ぶことも成り立ちません。

〈喜びを対象に響かせるカテキズム教育〉

「子どもカテキズム」では、ウエストミンスター小教理問答問1の喜びと栄光の順序は逆となっております。「救いの喜び」こそ、信仰を生きる上で全ての全て、根本であると考えからであります。まさに、「これが私たちの喜びです。」という喜びをモ

チーフにして、私共のカテキズムは編まれました。カテキズム教育とはまさにこの喜びを伝える対象に響かせてゆく、教育なのであります。「子どもカテキズム」が「そのために」用いられますように。(巻頭の三川教師の論文はこの教案誌利用の上で大変重要であります。)

どうぞ、毎日の分級で救いの喜びを輝かして、子どもらの前に立てるように、祈り備えましょう。私共自身が、この答えを生涯口ずさみ、祈り求めて行くことが分級、説教の基本的備えなのであります。

〈説教展開例との関わり〉

聖書テキストと説教とは表面上全く触れ合っておりません。例外的な説教例となりました。「あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。」つまり、私共の日常生活、生活の全領域を神に結び付けて生きなさい、という事であり、神を目指し、神のために生きなさい、という命令であります。そのように生きるどころでのみ、神の人間創造の目的は達成されます。

カんで、頑張って飲食する人はあまりいないでしょう。しかも、飲食は信仰の有る無しに係わらず誰にとっても生きる上で不可欠の行為であります。しかし、パウロは、その人間として当たり前の行為、生命維持の最低の行いすら、神に感謝し、神のためになすのであれば、神の栄光を現すことにつながると確信しております。

子どもらの前に立つ、教師自身が既に今あるそのままで、この神の栄光を現す事の出来る祝福の中に立たされ、生かされていること、それを深く知りたいたいと思います。その喜び、光栄を噛みしめて、福音の喜びを響かせて語りましょう。

聖書箇所 コリントの信徒への手紙 ー 10章31節

カテキズム 子どもカテキズム 問1

「神の栄光をあらわす、これがわたしの喜びです」

おはようございます。先週に続いてカテキズムの問1を皆で学んで、神さまを心から礼拝しましょう。

世界で有名な科学者の中には、キリスト者が多いことを知っていますか。真の神さまを信じている人は、世界、宇宙をよーく学んで研究して行くと、やっぱり神さまがお造りくださったんだあと分かってくるそうです。

ある世界的に有名な科学者がいました。その先生のお部屋には、大きな地球儀がかざってあったそうです。そしてその博士の所には、たくさんの若い研究者、お弟子さんたちが集まって来ていました。そして、先生からいろいろな新しい発見のお話を聞いたり、研究の仕方を教えてもらっていました。

ある日のこと、いつも熱心に、博士のところに来て来るお弟子さんが、こんなことを言いました。「博士、わたしは博士のことを、とても尊敬しています。でも一つだけ、分からないことがあります。」博士は聞きました。「何がわからないんですか。」

「あの一、博士は、神を信じておられるそうですね。しかも、人間が神によって造られたとか、世界は神によって造られたとか。おかしいではありませんか。そんな非科学的なことを博士ともあろう立派な科学者が信じているなんて。」

博士はにっこり笑ってこうたずねました。「ところで、ひとつ聞きますが、君は、この地球儀は、誰がつくったと思う。」「立派な地球儀ですね。いつも關心しているんです。どこの製品ですか。誰がつくったのですか。」

博士は、真面目な顔をして、彼の目を見つめてこう言いました。「これは、偶然にできあがったものです。誰が造ったものでもありません。偶然に出来上がって、偶然にこの部屋にあるのです。」すると、彼は驚いて言いました。「博士、そんなばかなことがあるはずありません。こんなに立派な地球儀が自然にできるなんてありえません。誰かが、設計図を描いて、きちんと造り上げたのに決まっています。すべてそこに存在しているもの、あるものは、偶然

に、たまたまあるなんていうことは、科学者として認められません。」博士はこんどはにっこり笑ってこう言いました。「おかしいね。さつき君は、人間が神によって造られたとか、世界は神によって造られたとか、そんなことを信じるのは非科学的なことって言わなかったかね」このように博士とお話をしたこの若いお弟子さんはその後、自分で聖書を買って読みはじめたそうです。

皆さんは、腕時計を持っていますか。上級のお友達は持っている子もいるかもしれませんね。腕時計は、誰がつくりましたか。誰かが設計図を描いて、時計の会社の工場を組み立てるのです。もしも誰かが、「腕時計は、誰が造ったのでもありません。一万年、百万年かかって偶然にできあがりました。」と言うなら、皆さんはどう思いますか。先生がしている腕時計は、百万年たって、どこからか偶然にベルトが飛んできて、どこからか偶然にネジが飛んできて、どこからか偶然にモーターが飛んできて、先生の腕でびたっと組み立てられることがあるでしょうか。それはむりでしょう。腕時計は人間が造りました。

聖書は、「人間は神に造られたものです。」と教えています。人間は偶然にできあがったのではありません。人間が造った腕時計は、何のためにありますか。時間を知らせるためです。皆さん、いま目の前にあるすべてのものを見て考えてください。これは、みんな人間が造りました。イスも、テーブルも、洋服も、ノートもです。人間が造ったものには、すべて目的があります。モノは、人間の役に立つようにつくるのです。役に立たなくなったものは捨てられてしまうこともあるでしょう。時計は、人間に時間を知らせる役目があります。腕時計は人間の腕にある時に、はじめて時計としての意味、価値があります。でも、最近の腕時計は太陽の光を浴びているといつまでもいつまでも動きつづける時計があるのを知っていますか。その時計を原っぱに落としてしまったら、きつと、これからもずーとずーと動きつ

づけるでしょう。でも、もうそうになってしまったら、時計の役目はしませんね。時計は、人間の腕にはめられて、人間に時間を知らせるから、時計なのです。

さてみなさん、それなら僕たち私たちはどうでしょうか。今、心臓がドキドキと動いているでしょう。それは、時計の針がカチカチと動いているのと似ています。でもただドキドキと動いているだけで、人間はいいのでしょうか。それは、誰かの腕からすると落ちてしまって、草むらの中で、カチカチと動いている時計のようではないですか。腕時計は、人間の腕にはめられなければいけないでしょう。それなら、人間は、どこにいななければならないのでしょうか。人間が人間として生きるためには、人間はどこにいななければならないのでしょうか。それは、お造りくださった神さまのところですね。神さまの腕についていると人間は人間らしくなります。

そのためにどうすれば良いでしょうか。神さまをもっともっと知ることです。神さまを知るとどうなるでしょうか。どんどんどんどん嬉しくなります。喜びが湧いてきます。神さまを知ると、僕たち私たちは、神さまのために生まれてきたことがわかります。神さまによって生かされていることがわかります。もしも、神さまのために生きようとしなければ、私たちは心臓はドキドキ動いているけれど、何のために生まれてきたのか分からないままです。でも、神さまのために生きてゆくと、嬉しくなるのです。私たちが遊ぶことも、勉強することも、食べたり、飲んだり、顔を洗うことも、お風呂に入ることも、なんでも全部、神さまと関係があります。神さまに造られた僕たち私たちは、何をしても神さまと繋がって、神さまのために生きるのです。その時には、わたしたちのすべてが知らないあいだに神さまの素晴らしさをあらわせるようになるのです。

今週の暗唱聖句

だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、

すべて神の栄光を現すためにしなさい。

コリントの信徒への手紙 — 10章31節

〈こどもへの質問〉

Q1. この世界は誰が造ったのでしょうか？

そう、神様だね。

私達も神様に造られました。

Q2. それじゃあ、私達は何のために造られたのでしょうか？

私達は神様のために生まれてきたんですね。

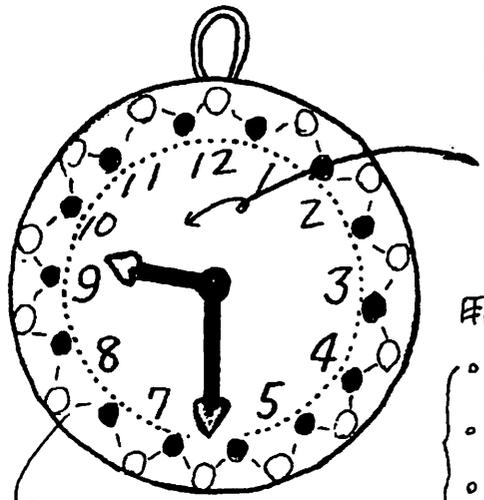
神様のために生まれてきたことがわかると、何をしても喜ぶことができます。

食べることも遊ぶことも、勉強することも何でも喜ぶことができるようになります。

〈お祈り〉

天の父なる神様、私達は神様に造られました。そして神様のために生まれてきました。どうか、このことをもっともっとよく知ることができるように導いてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 **時計づくり**

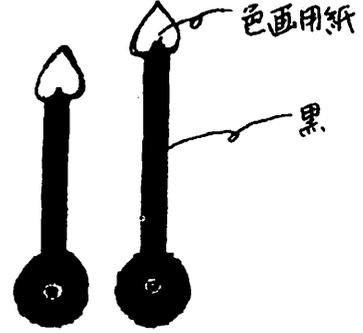


この部分はマジックやクレヨンで自由に模様をつけてもらう。

- 用意するもの
- ・紙ガラ
 - ・割りピン
 - ・リボン
 - ・色画用紙

「だから、あなたがたはたぐるにしろのむにしろ。なにをやるにしてもすべてかみのえいこうをあらわすためにしなさい。」

Iコリント10:31



1. 紙ガラの中央に穴をあける
2. 短針と長針の中心を重ねて割りピンをさし込む
3. つり上げられるようにトップにリボンをつける。

〈目標〉

人間の生きる目的。

すべてものに目的があるように、私たち人間にも生きる目的がある。神様を愛し、喜ぶこと。神様の栄光をあらわすことであると聖書は教えている。

〈展開例〉

1. すべてのものは目的があってつくられていることを知る。

次のものがどんな目的でつくられているかを考える。

(実際の物を使って、クイズ形式にする)

①時計

②洗濯ばさみ

③スプーン

④ものさし

⑤ホッチキス

⑥ほうき

その他、これは何に使うのかわからないようなものがあったもおもしろい。(修正テープ、万歩計、孫の手、毛玉取り機、皮むき器、すりごき、デンタルフロス、茶こし、じょうご、電池のテスター、ポテトマッシャーなど)

2. 神様が造られたもののそれぞれの目的を考える。

①太陽・・・空気を暖める。植物を育てる。

(太陽は熱すぎず、寒すぎない、ちょうどよい距離にある)

②空気・・・呼吸をする。

(他の星には地球のような人間にとって必要な空気がまだ発見されていない)

③月や星・・・季節や時間を知るため。

(季節によってその場所が変わる星や形が変わる月によって暦がわかる)

④雨・・・生き物は水が必要。

(雨は川となり海に注がれ、また蒸発して雨となる)

⑤土・・・食べ物育ててくれる。

(土の中には植物にとって必要な養分がたくさん入っている)

⑥ミミズ・・・よい土をつくる。

(ミミズはゴミを食べてきれいな土をつくってくれる)

※それぞれの絵や写真があるとよい

3. 人間の生きる目的を考える。

神様が造られたものにも、人間がつくる物にもそれぞれ必ず目的があることを見てきた。

それでは、人間の生きる目的は何だろう。それは、私たちが造られた神様に聞かなくてはならない。

「わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形作り、これを造った。」(新改訳聖書、イザヤ書 43章7節)

「あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」(新改訳聖書、コリント I 10章31節)

〔神の栄光を現すとは〕

神様をおそれ、礼拝し、ほめたたえ、喜ぶこと。神様のすばらしさを、自分の生き方をとおしてあらわすこと。

※具体的に、どのように生きることかを話し合うとよい。

一教会で礼拝をささげる。賛美する。

祈る。お友達に親切にするなど。

〈祈り〉

天のお父さま、私たちを神様の栄光のために造ってくださったことを感謝いたします。私たちの生活すべてをとおして、神様のすばらしさをあらわすことができますように。

〈目標〉

与えられた全ての物を用いて、神様を喜ぶことを教える。

〈指導上の心得〉

神を喜び、神の御栄光を表すこれを我々はどのように捉えているか。また、何によって喜びを示し、御栄光を表すのかを考えつつ教える。

〈展開例〉

神様が造られたものをみんなで考えてみましょう…。そう、この地球の上にあるものも、宇宙のものも全部神様が造られたものです。

その神様が造られたものから、人間の手で沢山のものが作られます。私たちが生きていくのに必要なもの、私たちが楽しむものが作られます。そういったものが作られるのも神様が人間に必要な知識を与えて下さるからです。

そしたら、どうして、必要なものが手に入るんだろうね？自分たちが努力するからかな？家族や自分が働いて、努力しているからだよね。でもね、みんなのお父さんやお母さんが努力しても、何でもかん

でも手に入れられるわけではないよね。何でだろうね。それは、神様が私たちに必要なものをご存知で、私たちに必要なものをきちんと与えて下さるからなんです。ですから、私たちに必要なものを手に入れることが出来るのです。つまり、私たちの持っているものは、全部、私たちそれぞれに必要なもので、神様が与えて下さったものなのです。文房具も、服も家も家族も食べ物も、友達も、そしてみんなが大好きなものも、全部、全部神様がみんなにとって必要だから与えて下さったものなのです。

そうやって、神様は沢山のものを与えて下さいます。そういったものを使うときに、また、何かするときは、楽しんで行ってください。でもね、ただ楽しいって思っているだけじゃだめなんです。これを神様が与えて下さったって事を頭の片隅に置いておいてください。そして、その勉強も、遊びも何もかも、それを与えて下さった神様に喜んで頂くためにするんだという気持ちで楽しんでください。

それが、私たちに出来る神様の御栄光を表すことだし、それを喜ぶことにつながるのです。

〈目標〉 私たちも、お友達も、神さまの御名をあげて生きるために創造されたことをおぼえる。

〈指導上の心得〉 今回は、広義の礼拝生活（ローマ 12:1）について考える。暗唱聖句は、改革派創立宣言において「至高の目的」とされていることに留意。またこの聖句は単に食卓の問題だけのことを扱っているのでもないし、単に“私”個人の節度（暴飲暴食をしない）のことを言っているのでもない。イエス・キリストによって贖われた（再創造）、全被造物が御名をあげめる（主の祈りの第一の祈願）ために、何をすべきかが問われている。すなわち私たちは、生活の全領域において、何事にも神に感謝をする。そしてとりわけ「人々を救うために、自分の益ではなく、多くの人の益を求め」（コリネ 10:33）（＝神を栄光を現す。伝道）生き方が求められている。これも広い意味での礼拝である。

〈展開例〉【見る・考える】カップラーメン、酒、タバコ、シンナー、ファミコンソフトなどのカード（絵をかくと良い）をつくる。これらをめくって、「人の益を求め」あるいは「人を恐らす原因にな

らないように」という観点から次の問いに答えてみよう。(1)これは有害なものか。(2)毎日宿題もしないで、こればかり楽しんでいる人の友となるために、あなたはどうか。(3)逆にこれが嫌いな人の友となるために、あなたはどうか。(4)あなたはどんな人とも友達になれるか。

※隣人の友となるには、時には一緒に飲食し（行い）、時には飲食しない（行わない）事が必要だろうし、また絶対にやってはならないこととして戒めるべき時もある。この問いをめぐって大切なことは、①どんなものでも、人間の用いた次第で悪にも善にもなること。②真実の友となることは自分には難しいことを悟ること。ただし、私たちは主イエスの十字架の贖いゆえ、私たちの内に主イエスの愛が現れることが許されている。

〈祈り〉どうか私たちが、何をすることも神様に感謝することができますように。また、私たちに主の愛があらわれ、隣人を愛し、隣人の友となることができますように。

〈目標〉私たちの喜びとは、私たちが毎日の生活の全ての面で神様のことを喜ぶこと。

〈展開例〉先週、私たちが本当に「人間らしく生きる」と言うことは、神様が人間を造って下さった時のもともとのすがたにもどることだ、ということと一緒に学びました。そして、そのもともとの姿とは、「神様に従うために」「神様に似せて形づくられた」「神様を想う『たましい』によって生きるものとされている」すがたでした。

○本来の姿にもどるために

では、どうすれば、私たちは「もともとのすがた」にもどることができるのでしょうか。今日はそのことを聖書の御言葉と一緒に考えましょう。まず、先週最後に読んだローマ 11:36 の御言葉をもう一度見てみましょう。私たち人間は神様に造られたものですから、神から出たものです。その私たちは、今こうして神様によって守られ保たれています。神様に向かって、神様に近づいていくものなのです。では、私たちにできる「神様に近づくこと」とは、どんなことがあるのでしょうか。（教会へ行く事、聖書を読む事、お祈りする事、等）

そのようないろいろな方法で神様に近づき、神様のことをよく知るようになると、私たちはうれしくなってきます。それは、神様のことをよく知ると、神様が私たちをどう思っていてくださるかを知ることができるからです。神様が私たちのことをどう思っていてくださるか、聖書を調べてみましょう。（イザヤ 43:3、ヨハネ 3:16）

これらの聖書箇所は前にも調べてもらった事がありますが、ここで私たちは、神様が私たちのことをとても大切に思っていてくださるという事を知ることができます。私たちは神様の前で善いことはちっともできませんが、神様は私たちのことを「費い」と言ってください。そして、イエス様を信じる私たちが一人も減びないで永遠の命をいただけるということが約束されています。そのために、神様は「身代わりとしての人」として独り子・イエス様を私たちの罪のためにお与えくださったのです。

○神様のしてくださる約束一万事が益となる

さらに、私たちにはどんなことが約束されているか見てみましょう（ローマ 8:28）。私たちを愛してくださる神様は、すべてのことが私たちに

ラスになるようにして下さいます。いろいろなことが私たちのうえにも起ります。中には苦しい悩みや痛みがある場合もありますけれど、しかし、それらのことすべてが神様の御心の中にあつて、私にとって益となると教えられていることは私たちの大きな喜びです。いろいろ自分にとってマイナスに思えるようなことであっても、それは神様から私たちがいただく恵みです。後から考えると、その事によって私たちがより神様の方へと導かれていきつかけになった、ということは確かにあることです。

君たちは星野富弘さんという人を知っていますか。星野さんは体育の先生でしたが、学校でクラブ活動中に鉄棒から落ちて首の骨を折り、首から下が動かなくなってしまいました。その大きな苦しみの中で星野さんは神様に会い、信仰を持つようになります。そして、筆を口にくわえて絵や字を書くことができるようになり、多くの人たちに神様のすばらしさを伝えていきます。星野さんが出会ったことは大変辛い事です。しかし、神様はそのことを通して星野さんにイエス様を信じるができるように、永遠の命にあずかるという益を手に入れるようにして下さったのです。

○神様を喜ぶ

神様のことをよく知るようになると、神様は教会の中だけではなく、私たちの日々の生活の中においても、私たちを導いていてくださることを知ることができます。コリントー 10:31 の御言葉を見てみましょう。神様は生活の全ての面において、私たちの益となること、私を御国へと導くことをしてくださるので、私たちは日々の生活において、色々なことをする中で、神様の素晴らしさを喜ぶことができるようになります。神様に近づく私たちは、神様の素晴らしさを知り、さらに神様に向かって、天の御国へ向かって導かれるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様、今日は、神様がどんなに私たちのことを愛して下さって、すべてのことを神様にあつて益としてくださることを学びました。そのことを私たちがしっかりと心に刻んで、全ての面であなたのことを喜んでいる事ができるようにしてください。あなたを喜ぶことが心からの私の喜びとなりますように。

徴税人ザアカイの救いの物語です。ルカは 18:18 以下に「金持ちの議員」の記事を置き、19:11 以下に「ムナのたとえ」を置いて、その間にザアカイの記事を挿入していますから、富と救いとの関係という主題をこのあたりで扱っていると考えられます。富もひとつの偶像と考えられますから、ザアカイの物語は偶像から解放されて真の信仰へと招かれた人の幸いな物語と見ることができま

〈徴税人ザアカイ〉

ザアカイという名前には「正しい人」「滑らかな人」という意味があるそうです。両親の願いが込められた名と言えます。しかし、彼はある意味でこの名を裏切る人となります。

成人したザアカイは、「徴税人のかしらで、金持ち」(2) になりました。世間的に見れば出世をどけて富を蓄えたのですから、人生の成功者と言えなくもありませんが、彼は必ずしも幸せではなかったようです。

まず、徴税人という職業は、ユダヤ人たちの社会では、ユダヤを支配下に置いているローマの片棒を担いで、ユダヤ人としての誇りを売り渡して同胞から税を取り立てる仕事として軽蔑され、嫌われていました。さらに、徴税人の多くは定められた額よりも多く取り立てて私腹をこやしていましたから、同胞の憎しみも買っていました。ザアカイもそのような不正を働いていたひとりでした。

現代の社会にも金銭崇拜という傾向がないわけではありませんが、ザアカイも金銭こそすべてであるとわりきって生きていたものと思われます。しかし彼は神を愛して生きることも、隣人を愛して生きることも知らず、人々から嫌われ、孤独でした。

そのことを示すひとつのことは、彼が主イエスを一目見ようとして人垣をかきわけようとした時に、彼のために道をあけようとする人が誰もいなかったことでしょう。背の低いザアカイが木に登って主イエスを見ようとする場面はいかにもユーモラスですが、背後にはそういう悲しい事情があったのです。

そういうザアカイが主イエスに関心を示したというのは興味深いことですが、彼は少なくとも救いを

求めて自覚的に主イエスにお会いしようとしたのではないことは確かです。家も財産も持たず、一銭の得にもならないような働きに従事しておられる主イエスが、むしろ自分とは正反対の存在であられたからこそ、好奇心を抱いたということがあったのかも知れません。

〈今日この家に救いが来た〉

ザアカイの人生を百八十度転換してしまうような幸いな出来事が、彼自身の働きかけによらず、主イエスの側から彼を見出し、彼に語りかけられたことで起こされたことは重要です。主イエスは大勢の群衆の中から彼だけに目をお留めになり、今日はあなたの家に泊まりたい (5) と呼びかけられました。

ただこれだけのみ言葉で、ザアカイは豹変をとげます。それまで人を迎え、もてなすことなど知らなかった彼が、人を喜び迎える人となり (6)、それまで私腹をこやすことを生き甲斐としていた彼が、惜しみなく人に与える人に変えられています (8)。

彼を新しい人に逆り変えたのは、主イエスを通して彼に示された神の愛の力ではないでしょうか。あなたのところに泊まるとは、あなたに命を預けるということです。嫌われ者だったザアカイに主イエスはそれほどまでに信頼を寄せられ、あの人は罪人の仲間となったとの人々の呟き (7) をもはね返して、彼の友となられたのです。

人は命の神との出会いによって金銭の呪縛やあらゆる不自由から解放されます。そして生けるまことの神の愛のみが、彼を真に生かすのです。

ザアカイは「失われ」(10) ていた者です。消えてしまったのではなく、本来あるべき場所を踏み外していたのです。そういう者を捜し出し、父なる神の恵みのもとへともう一度招き入れて下さるために、主イエスは世に遣わされ、十字架に死んで下さったのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問2
ハイデルベルク信仰問答 問1

子どもカテキズム

問2 どうしたらそうなりますか。

答 主イエス・キリストを信じて救われること、神さまの子どもとされることです。

〈どうしたらそうなりますか〉

子どもらは、神の栄光を現す人のイメージとして英雄的なキリスト者、誰が見ても立派な人、偉人のような人をすぐに連想するかもしれません。しかし、問2のための聖書のテキストは徴税人ザアカイの物語と 放蕩息子の譬えであります。テキスト選定の狙いは明らかであります。聖書は、ザアカイや放蕩息子が神の栄光を見事に現した人として取り上げているのであります。つまり、神の栄光を現す人、生き方をすると主イエス・キリストを信じて救われることそのものであり、そこから始まるものに他ならないのであります。神を知ること、喜ぶことも全ては、信じて救われることに掛かっております。そしてそれは、神の恵みの御業に他ならないのであります。

「どうしたらそうなりますか」。問1のところで申しましたが、この問いを「問わせること」、これが大切なのであります。ただしもともとそれは、強制的に問わせる性質のものではありません。使徒言行録第16章においてパウロとシラスに向かって看守の方から「救われるためにはどうすべきでしょうか」と問いが発せられています。このような問いを発せしめるあり方が、キリストの証人の模範としての「使徒」の力でありましょう。彼らを見ていると救いの恵み・キリストの福音の実力が分かる。そして、実にそれは、私共キリストの証人として常に祈り求めるべき姿勢であります。しかし、そのような力がない私共は、語れないのでしょうか。とんでもありません。ザアカイから始まるのです。真実に祈り求めていること、それがあれば良いのであります。

〈信じて救われて、神さまの子どもとされること〉

日曜学校教師は、子どもらが自分と同じように「神の子とされた喜び」を知り、神の栄光を現す真の人としての道を歩むために、彼らが信じて救われることのために奉仕する者であります。ただし私共の日曜学校の営みは敬虔主義の教会のように、「新生」の体験、「回心」の体験を持たせることに集中するものではありません。救いの喜びを知り、深める信仰の「旅路」を共にすることが私共の奉仕であります。ただそこで、信仰告白を促すよう絶えず励ますことはとても大切なことで、当然しなければならぬ事であります。契約の子、そして未信者の子らにも信仰告白を言い表す喜びを教え、救いを求めさせるよう導きたいものであります。

〈説教展開例との関わり〉

ザアカイはイエス・キリストを自分の部屋にお迎えただけで心が転回しました。しかも、ザアカイが頼んで主イエスをお迎えしたではありません。主イエスの方から、神の子として取り戻そうと彼を訪ねてくださったのです。御国から子らを訪ねておられる主の愛を語りましょう。

放蕩息子の譬えの物語も、同じであります。神から離れた人生は暗闇、空虚であることを伝えましょう。そこでは神の子とされた喜びを喜ばれるのは父なる神でありたもうことが明らかにされます。その礼拝式、分級において子どもら一人ひとりに神が訪ねておられること、捜し出してくださったこと、喜びをあふれさせておられる事を伝えましょう。

この神のお働きにあずかり、信じて受け入れ、神と結ばれて生きるその時にこそ、神の栄光は完全に現されるのであります。どこまでも福音として、特権として神の栄光のために生きる自由を伝えたいものであります。

聖書箇所 ルカによる福音書 19章 1～10節
カテキズム 子どもカテキズム 問2

「捜し出されたザアカイ」

おはようございます。今日はカテキズムの問2です。来週と今日、二回学んで皆さんと心から喜びをもって神さまを礼拝したいと思います。

エリコと言う町に、ザアカイという名前の男の人がいました。この人は、人々から税金を取り立てる仕事をしていました。徴税人といいます。このザアカイさんは、そのお仕事をする人の中で一番偉い人でした。とてもお金持ちでした。どうしてかと言うと、皆から集めた税金を、こっそり、自分のお財布に入れてしまっていたからなのです。本当は、1000円税金を納めればよいのに、ザアカイは、自分のお財布の中のお金をふやすために、「あなたは、2000円を出しなさい」と要求したのです。でも、皆は、分かっている逆らえません。ザアカイは、ローマの国の強い「おまわりさん」がいつも守ってくれるからでした。みんなは、そんなずいザアカイが大嫌いなのです。ザアカイもこう思っていました。「ふん。俺様を悪く言いやがって、気に入らない。その代わり、もっともつと多くの税金を取ってやるぞ。世の中で一番大切なのは、お金なのさ。俺様は大金持ち。友達なんかいなくても平気さ。お金があれば何でもできる。」

そんなある日のことです。イエスさまは、ザアカイのいるエリコの町にやって来ました。「ワー、イエスさまだ、どんな素敵なお方なのか見たいなー。」イエスさまのまわりには人だかりができてしまいました。ザアカイは、心のなかでこう考えていたのです。「俺様は、聖書とか教会とか子供のころは親に連れられて行っていたけど、神さまなんか信じない。親は、俺のことをザアカイと名前をつけたけど、気に入らない。だって、心が滑っていく意味なんだ。そんなことはどうでもいい事なのさ。」そんなザアカイも、皆がワーワー言っていてイエスさまを見ている声を聞くと、だんだんそわそわしてきました。「今までの、先生とは全然違う人らしいぞ。俺さまと同じ税金とりを弟子にしているって言うぞ。それだけじゃない、病人を治してあげたり、いろいろ良

いことをしているらしい。どんな人なのかなー。」そしてとうとう我慢できなくなりました。「よし、どんな人なのか一度だけ見てやれ。」そう決めると、ザアカイは、ダートと走って行きました。

ところが、皆はザアカイを通してくれません。意地悪をしてやろうと思ったのです。ザアカイさん、背がとても低くて、どんなにエイッとジャンプしてもちっとも見えません。そこでザアカイさんは、考えました。「うーん困ったな、意地悪なやつらめ。ヨシそうだ、木の上に登ってやれ。」ザアカイさんは、こんどは急いでいちじく桑の木に登りました。見える見える、良く見えます。ザアカイさんは、イエスさまを見下ろしました。

すると、どうでしょうか。イエスさまの方がザアカイさんに向かって歩いてこられます。「ヤッター、こっちの方に来るぞ。よく見てやれ。」イエスさまはどんどん歩いて近づいて来られます。まるで、ずっと前から、ザアカイさんのところに行くことを決めていたみたいに、どんどん近寄って来られます。ザアカイの心臓は、だんだんドキドキして来ました。「まさか、まさか自分の方に向かって来られるわけではないよな。だって、イエスさまは俺のことを知らないもんな。」ところがです。イエスさまがちょうどいちじく桑の木の下に来たとき、その足がピタッと止まりました。

ザアカイの心臓はもうときどきどころではありません。びっくりして顔が真っ赤になっています。すると今度はもっとびっくりすることがおこりました。イエスさまが、こう仰ったのです。「ザアカイさん。急いで下りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」

ザアカイは、大急ぎで下りました。そして、大喜びで、自分の家に招待しました。自分の家には何人も、お手伝いさん達がいて、美味しい食事をつくってくれます。けれども、今まで、友達が来てくれたことは一度もありません。皆に嫌われていたからです。「あんな悪い男と付き合っては駄目だ。あんな、男の家に泊まったら、自分も皆から罪人って思われ

る。」仕方がありません。悪いのはザアカイの方だからです。ところが今、皆からすばらしいと言われているイエスさまが自分の家に泊まってくれると言うのです。つまり、お友達になってくれると仰つるのです。

さあ、イエスさまを迎え入れたお部屋は、それはそれは立派です。けれども、ザアカイさんは、イエスさまが部屋のなかに置いてある物をご覧になる度に、これまで考えたこともなかったことを考えていました。「あー、このソファーも、この机も、このランプも、みんなみんなだまし取ったお金で買った物だ。俺さまはなんて心が汚いんだ。俺の心は汚れている。でも、こんな汚れてしまった俺の家に、このイエスさまは泊まってくれるのか。なんて嬉しいんだろう。なんてすばらしいお方なのだろう。」

イエスさまが何も仰つらないのに、ザアカイさんは、こう言いました。「イエスさま、神さま。私は今まで神さまを信じて来ませんでした。でも、今は違います。こんな汚れた私の家、汚れた心の私のところにあなたさまが来てくださったのです。私はイ

エスさまを信じます。そして、この財産の半分を貧しい人に施します。もう人を騙してお金儲けはしません。ごめんなさい。赦してください。」

ザアカイさんは、今まで、神さまから離れて生きる目的が分からなくなっていました。だから、お金だけを友達にしてしまったのです。でも、今は違います。イエスさまのお友達にさせていただいたからです。イエスさまに救っていただいたのです。神さまにつながったのです。神さまにつながったとき、ザアカイさんは、神さまを知る喜び、生きる喜びが湧きあがりました。嬉しくなってしまったのです。そうしたら、自分でも気がつかないうちに神さまの栄光を現す人になってしまったのです。イエスさまに救われると、僕たち私たちにも、人生の目的、生きる意味が分かります。どんな人でも、イエスさまに救われたら、神さまのすばらしい作品となります。そのまま神の栄光を現しはじめることができます。

今週の暗唱聖句

人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。

ルカによる福音書 19 章 10 節

〈こどもへの質問〉

Q1. 今日にはザアカイさんのお話でしたね。

最初ザアカイさんにとってこの世で一番大切だったのは何だったの？

そう、お金でしたね。

だから、自分のお金を増やすためにみんなを騙してたくさんの税金を集めていたんだよね。

Q2. ところがザアカイさんはイエス様に出会ってからすっかり変わってしまいましたね。

どんなふうに変ったの？

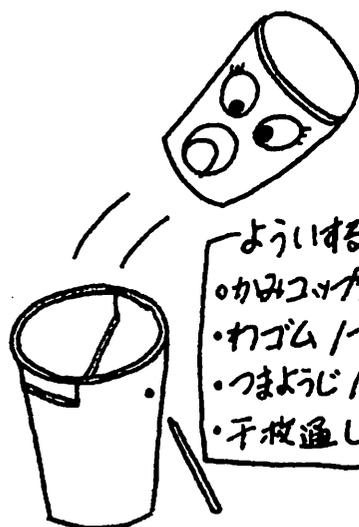
そう、それまでザアカイさんにとって一番大切なのはお金だったのに、イエス様に出会ってからは神様のために働くことが一番の喜びになったんだよね。

〈お祈り〉

天の父なる神様、今日はイエス様に出会ったことにより変えられたザアカイさんのお話を聞きました。イエス様はみんなからきらわれていたザアカイさんのお友だちになってくださいました。イエス様は私達のお友達でもありますが、どうかそのことを心から信じて、神様のために生きることを喜びとすることができますように私達を変えてください。イエス様のお名前によっておいのりします。アーメン。



びんくりコップ



よいするもの
 ・かみコップ2コ
 ・わゴム1つ
 ・つまようじ1本
 ・干枚通し

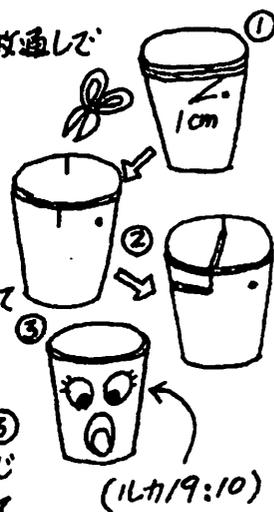
①かみコップを2つ重ねて干枚通しで穴をあける。

②片方のコップに2ヶ所切りこみを入れてわゴムをかける。

③もう一つのコップに顔や動物など好きな絵をかいて絵の反対側に理向を書いた紙をはりつける。

④ゴムのついているコップに③のコップをさし込み、つまようじを2つのコップの穴を重ねてさし込んでとめる。

つまようじを抜くと、中のコップがとび出す。



(1カ19:10)

〈目標〉

失われた者を捜し出し、救い出してくださる主イエスの恵みを知る。ザアカイにまず一方的な主の愛がしめされ、ザアカイは生まれ変わった。

〈展開例〉

1. ザアカイの物語を絵本を使ってもう一度、振り返る。

「聖書ものがたり」ドン・ボスコ社 2,200円

「絵本聖書①」（ザアカイ）日本聖書協会 800円

「私の聖書」新教出版社 2,000円

「イエスの物語」ドン・ボスコ社

「こどもバイブル」E・ブックス 3,200円

（この他、大抵の聖書物語に含まれている）

〔子供への質問〕

- ・ザアカイさんのお仕事は何？
- ・どうしてザアカイさんは木に登ったの。
- ・イエス様が自分の家に泊まってくれるとわかったとき、ザアカイさんはどう思ったかな。
- ・ザアカイさんは、どうして自分のお金を貧しい人に分けてあげるといったのかな。
- ・ザアカイさんは何が一番うれしかったのかな

2. ザアカイさんカードゲーム

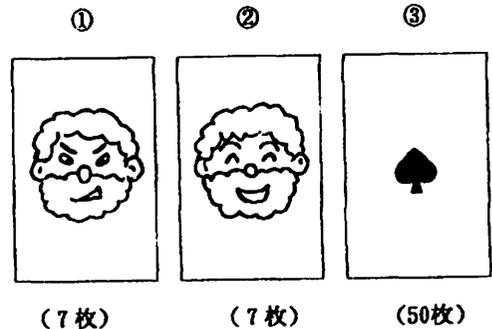
ザアカイさんのカードを用意する（トランプぐらいの大きさに厚紙を切る）

①ザアカイさんのずるい顔を描いたカードを7枚用意する。

②ザアカイさんの喜んでる顔を描いたカードを7枚用意する。

③シール（花や記号など）を貼ったカードを50枚用意する。

（①～③の裏側には何も書かない）



①～③をばらばらに混ぜて、裏側を上にしてテーブルの中央に重ねておく

↓
順番にカードをめくって、③が出たら、そのまま自分のところにおく。

↓
①が出たらそのカードと一緒に自分のところにあるカードを、全部テーブル（まくっていないカードの山のとなり）に出す。

↓
②が出たらそのカードと一緒にみんなが出したカードが全部もらえる。

↓
まくるカードがなくなるまでやる。最後に一番カードが多い人の勝ち。

※人数によってカードの数を増減するとよい。

〈祈り〉

天のお父さま、イエス様がザアカイさんのお友達になってくださったことを感謝します。イエス様のやさしい心にふれて生まれ変わったザアカイさんのように、私たちもイエス様を受け入れ、新しい人になることができますように。

〈目標〉

神様と出会う喜びを学ぶ。

〈指導上の心得〉

教師一人一人が、神様と出会ったときの嬉しさを思い起こし、神様に見いだされたときの喜びを心に置きつつ語る。

〈展開例〉

みんなは、自分に意地悪する人のことをどう思うかな？優しい人だって思う？そんなこと無いよね。いやだなんて思うよね。今日のお話に出てきたザアカイさんも同じように、みんなが嫌がることをして沢山の人たちから嫌われていました。

じゃあ聞かぬ、もし今僕が、みんなは本当はザアカイさんと同じような人なんだよっていったらどう思うかな？誰からも嫌われてないし、ザアカイさんみたいに悪いことしてない！って思うだろうね。

でも、実はみんなは本当にザアカイさんみたいなんです。確かにみんなは人から嫌がられるようなことはしてないし、悪いことはしていません。でも神様の目から見られたとき、その心はザアカイさんと

同じなのです。僕たちの心の中には、人をうらやんだり、人より自分が誉められたいとか、そういう心があります。そういう心もザアカイさんの心と同じなのです。そして、それは神様が嫌われる心なのです。

だけど、そんな心を持っていたザアカイさんの所にイエス様はやってきてくださったのです。神様の嫌がられることをするおまえなど知らないと言うのではなくて、イエス様はそういう心を持っているあなたただけ、私はあなたの友だちですよと言ってくださるのです。他に友だちがないザアカイさんにイエス様は、わたしはあなたの友だちですよと言ってくださるのです。それはザアカイさんにとって本当の喜びであったはずです。

それと同じように、イエス様は神様に嫌われるようなことをしている私たちの所に来て下さり、わたしはあなたの友だちですよと言って下さるのです。それは、私たちにとって本当の喜びなのです。今イエス様は、あなたの友だちなんですよって、みんなの心の中に来て下さっているのです。

〈目標〉

探し出してくださる救い主を知る。

〈指導上の心得〉

救いはどこから来るのかを考えたい。ザアカイも次回の放蕩息子も、よい行いが救いの条件だとしたら、二人とも失格者である。しかしそうでないところに、大いなる恵みがある。

〈展開例〉

【招き】驚くべき出来事である。あの罪人ザアカイの家に主がお泊りになった。品行方正な立派な人々を尻目に、まず主が選ばれた人は不正に利益を得ていた取税人であった。キリストの神は決して罪人を見捨てられない。友達のおもちゃを、そつと自分のものにしてしまったことはないだろうか。人をぶって傷つけてしまったことはないだろうか。複数で一人の人をいじめてしまったことはないだろうか。実際に罪の意識に苦しんでいる時こそ主は近くいまし、あなたの心の扉をたたいてくださっている。

【メッセージ】ザアカイとはきよい人という意味です。ザアカイのお父さん、お母さんは、きつときよ

く正しい人になってほしいという願いをこめてこの名をつけたことでしょう。しかしザアカイは人々からお金を余分にだましとる悪い人になってしまいました。ザアカイだけでなく、わたしたちはみな、きよくたく生き力を失っています。「失われたもの」とはそういう人々のことです。イエスさまは「失われた」あなたを探し出し、友となるために地上に來られ、十字架の上で死んでくださったのです。

【交わり：ニックネームづくり】教師や生徒たちの名の意味を聞いてみよう。そしてその名をへブル語またはギリシヤ語で呼んでみよう（事前に牧師に助けをもらいそれぞれの呼び名を決めておこう）。またイエス・キリストという名の意味、またインマヌエル、主、ラボニなどの呼び名の意味を知り、イエスさまこそ名前とご人格が一致しておられるお方であることを覚えよう。

〈祈り〉

失われた私たちを探してくださるイエスさま。どうか私たちは心の扉を開いて、イエスさまを私たちの内にお迎えすることができますように。

〈目標〉イエス様を探しだしていただいた私たちは、
けて神様から引き離されるようなことはない。

〈展開例〉今日は、イエス様と出会った徴税人ザアカイのお話から、私たちの希望がどこにあるのかを考えてみましょう。

○イエス様を探し出されたザアカイ

まず、ザアカイがイエス様と出会った時のことを見てみましょう。ザアカイはイエス様がエリコの町に来られたということを聞いて、イエス様がどんな方か見ようとして道端の木に昇りました。そこで、木の上のザアカイと道を通られるイエス様と目が合ったのですが、その時、イエス様は何とおっしゃったのでしょうか(19:5)。イエス様はザアカイを初めて見たのに「ザアカイ」と名前を呼ばれました。なぜザアカイの名前をご存知だったのでしょうか？

それは、イエス様がザアカイのことを探しておられたからです。そして、イエス様はザアカイの家に泊まるとおっしゃいました。ザアカイは嫌われ者の徴税人です。イエス様は、何のためにザアカイを探し出し、その家に泊まろうとなされたのでしょうか？

イエス様がザアカイの所に持ってきてくださったのは「救い」でした(19:9-10)。イエス様はザアカイが減びてしまわないように、探し出して救いに入れてくださったのです。それはザアカイが立派な人だったからでも、善いことをしたからでもありません。ザアカイは嫌われ者の徴税人だったのですから。それは、イエス様がザアカイを選び、愛して下さったからです。ザアカイには何のよいところもないけれども、そんなザアカイが減んでしまうことなく永遠の命を得ることができるように、ザアカイを選んで愛して下さり、探し出して声をかけていっしょにいてくださったのです。

○イエス様を探し出された私達

このことは、聖書の中だけのお話しではありません。私達にもおこっていることです。イエス様は、私達の所にも来てくださいます。イエス様はすでに私達のことを探し出して「○○くん」と声をかけてくださいました。その証拠に私達は教会にきています。ザアカイがイエス様に声をかけていただいたからイエス様の側に行けたように、私達もイエス様に声をかけていただいたから、イエス様の側・教会にきています。そうでなければ、神様に従うより

は自分が神様みたいになって好きなようにしていたという「罪」を生まれながらに持っている私達が神様の教会に来るという事は、ありえないのです。

○探し出された私達のいただく希望

イエス様の側に招かれた私達は、イエス様に結ばれて、手をつないでいただいて、お先真っ暗な暗闇から明るい光へと導かれています(エフェソ5:8)。その光とは天国に導かれて永遠の命をいただくという希望です。「真理の言葉、救いの福音」つまり、イエス様の救いのみ言葉を聞く人は、「御国を受け継ぐ」=天国に入る約束のスタンプを押してもらえるのです(エフェソ1:13-14)。そのスタンプはけっして消えることの無い「神様のもの」という証拠です。今日は一緒にいてやるけど、明日は分からない、なんていう不確かな約束じゃない変わることの無い確かな約束なのです。私が神様のものとなって、いつも神様がいっしょにいてくださるなら、私達をこわがらせるようなものがあるのでしょうか？

ローマ8:31と35を見ましょう。だれも、どんなものも、イエス様が探し出して下さり神様と共にいる私達をおびやかすことはできません。私を選んでくださったイエス様の愛から引き離すことはできないのです。イエス様はいつも「わたしがついているから、こわがなくてもいい。だれもあなたをわたしから引き離すことはできない」と言ってくださいます。それは、だれもがいつかはめぐりあう「死」の時も同じです。私達は、イエス様に導かれて、神様の御国へと確かに入ることができるのです。イエス様を探し出していただいた私達は、減びへの道から抜け出し永遠の命へと導かれています。それが、ザアカイと同じようにイエス様を探し出していただいた私達が、いつも変わることなく持っていることのできる「希望」なのです。

〈祈り〉天の父なる神様、今日は私たちもザアカイのようにイエス様を探し出していただき、永遠の命へと導かれているということを学びました。イエス様を探し出していただいた私達は神様のものですから、だれも私達をこわがらせることはできません、神様から引き離すことはできません。どうか、この世でも天国でもイエス様がいつもいっしょにいてくださるといふ「希望」を、私達がしっかりとまじりに刻み込む事ができますように。

テキスト ルカによる福音書 15章 11～24節

ルカ 15 章には、「見失った羊」(1-7)、「無くした銀貨」(8-10)、「放蕩息子」(11-24)の三つのたとえがありますが、失われていた罪人を見出して招いて下さる神の大いなる慈愛を語る点で共通しています。例えば 15:7 の主イエスのみ言葉は、この三つのたとえにおいても響いているみ言葉です。

ここでは「放蕩息子」を取り上げます。

〈遠い国に旅立った息子〉

放蕩息子のたとえにおいて、父は神、弟息子は父のもとを離れた人間をさすことは言うまでもありません。そして父と息子とは、はじめからともに生きるべき存在です。詩編 23 編における羊飼いと羊のように、人は神のもとにあってはじめて平安であり、幸いです。なぜなら被造物は造り主に命を与えられ、支えられて生きる存在だからです。これが聖書の間人観です。弟息子が父のもとを去ったことは、被造物が造り主を離れて生き得るのかどうかという問題を提起します。

弟息子が父の恵みに慣れてしまって、父の家の外にこそ自由があると思ひ込んだことは、例えばイスラエルの民が十戒を窮屈に思っ、偶像になびいていった消息にも似ているのではないのでしょうか。

彼が父の財産をすべて金銭にかえたことも重要です。父のもとを離れることは、見えるものは過ぎ去るが、見えないものは永遠に存続する(コリント二 4:16)との真理を見失うことです。「遠い国」とは、金銭が物を言う世界のことだと考えられます。

〈我に返って〉

放蕩の果てに貧困と孤独の中に落ち込んで初めて、弟息子は父の家を思い起こします。「我に返る」(17)とは、もともととは方向を変える、踵を返すという意味の言葉です。すなわち悔い改めを表す語です。彼はこのつらい経験を経て、ようやく自分が何者であり、どこに生きるべき者であるのかを思い起こすのです。そして父の家、すなわち彼が本来身を置いて生きるべき場所に帰っていきます。

ただ、父に背いた罪意識から、もう自分は息子と呼ばれる資格を持たない者だと思ひ定めます。父の

家に入れられるだけで幸いなだから、父にお詫びして雇い人のひとりにしてもらおうと心に決めます。

〈死んでいたのに生き返った〉

父はどのようにして弟息子を迎えたのでしょうか。そこに父なる神の罪人への愛が鮮やかに語り示されています。

まず、父はまだ遠く離れていたのに息子を見つけます(20)。つまり、毎日家の戸口に立って、息子の帰りを待ち続けていたのです。

父は帰ってきた息子を見て「憐れに思い」(20)みずから息子のもとに走り寄って、抱擁します(20)。憐れに思うとは、内臓が激しく揺さぶられる、あるいは痛むというような激しい意味を持つ言葉です。この激しい愛のままに、父なる神はみ子を私たちに与えて下さったのです。聖書の神は「はらわたを痛め」「走り寄る」神です。ここに十字架の愛があります。父は自分の財産を使い果たし、身を持ち崩して帰ってきた息子を、大切な客人を迎えるような破格の待遇で迎えます。神の罪人への無限の愛は、人間の計算にはあわない、不公平なほどに豊かで大きな愛です。

罪人が悔い改めてご自分のもとに帰ってくることは、神ご自身にとっても死んでいた息子が生き返ったかのような大きな喜びです。そして彼は事実、父のもとで新しい命に生き返るのです。

〈兄息子の問題〉

父のもとにずっととどまって仕えていながら、父の愛を物品(29)によってしか理解できなかったところ、「死んでいたのに生き返った」弟息子の救いをともに喜ぶことができず、「あの息子」(30)としか呼ぶことができなかったところに、兄息子の問題があります。しかし父は彼をも招いています。兄息子とはファリサイ人や律法学者たちを指すとの見解があります。

※カテキズム研究は、5月6日分をご参照ください。

聖書箇所 ルカによる福音書 15章 11～24節
 カテキズム 子どもカテキズム 問2

「我に返った放蕩息子」

おはようございます。今日も、問2を学んで心から神さまを礼拝しましょう。こどもカテキズムを全部暗記する必要はありません。でも、問1や先週から学んでいる問2は、覚えてみませんか。挑戦してください。

ある人に二人の息子がいました。二人は、お父さんと力を合わせて働いていました。ある日の事です。弟がお父さんに言いました。「お父さん、僕の貰えることになっている財産を今下さい。」お父さんは、お兄さんと弟に、財産を分けてあげました。すると、弟は、ヤッターとばかりに、遠い国に旅立って行きました。そこで、お金をどんどん使ってしまった。好きなだけ食べて好きなだけ物を買って、遊べるだけ遊んでしまいました。悪い友達も一杯できました。その友達は言いました。「一緒におもしろおかしく使っしまおうよ。」たくさん持っていた筈のお金も気がついたら、すっかりなくなっていました。ちょうどその時です。この弟が住んでいたところにひどい飢饉がおこりました。飢饉というのは、雨がふらなかつたり、雨が多く降りすぎたりして、畑のお野菜やお米がとれなくなってしまうことです。食べる物にも困ってしまいました。仕方がないので、昔一杯お金をあげた悪い友達のところに行きました。そして言いました。「お願いします。もう、何日も食べていません。」すると友達は言いました。「ふん。何のようだ。お前に食べさせるものなんかありませんよ。」弟は、もう必死でお願いします。「お腹がすいて死にそうなんだ。僕をあなたのところで働かせてください。」「そうか、それなら豚の世話でもしていろ、泊まる場所はないからな、豚小屋で一緒に寝ていたらいいさ。」本当は、豚を飼ったり触ったりするのは、ユダヤ人はしてはいけないと教えられていたのです。弟にしてみると、とても嫌なことだったのです。けれども、一生懸命働きました。ところが、昔の友達は、ぜんぜん食べ物くれません。「アー、もうおなかがすいて死にそうだ。」弟は、豚の餌の「いなご豆」を見ている

だけでよだれが出てきてしまうほどでした。その時です。弟はハッと気がつきました。「僕はこんなところで何をしているのだろう。僕は飢え死にしそうにおなかがすいている。でも、僕にはお父さんがいるんだ。お父さんの所には大きな畑があるし、牧場もある。大勢の人達が働いて、有り余るようなパンがあるんだ。」弟は、初めて自分が今、どんなに惨めな姿になっているか、気がついたのです。本当は、一杯お金を持っていたのに、お金の使い方を間違えていた自分。本当は立派なお父さんの子どもなのに、豚の餌を食べている自分。今自分がどんなに人間らしい生活から離れているのか、どんなに神さまから離れて、神さまを悲しませ、神さまに罪を犯していたかということにやっと気がついたのです。

これは、譬えのお話です。イエスさまは、もしも僕たち私たちが、神さまから遠く遠く離れてしまつたら、この弟と同じなのですよ今日、教えてくださっておられます。でも、どうですか。私たちはこんなふうにも思ってしまうかもしれませんね。「エーッ、イエスさま。僕は、豚小屋で寝ていません。豚の餌なんか食べてません。」このお話は譬えです。僕たち私たちに、神さまは人間として生きる目標を与えて下さいました。その目標が分からなかつたり、間違えると、それは、あのゲラサの男の人や、ザアカイさんになってしまうのです。私たちは何のために生きるのですか。私たちが、何の為に勉強するのでしょうか。何のために学校に行くのでしょうか。なんの為に遊んでいるのでしょうか。僕たち私たちが何のためにご飯をいっぱい食べて元気になるのでしょうか。それは、神さまのお役に立つためです。それができなければどんなに頭がよくても、強くなっても、お金持ちになっても、神さまがお造りくださったすばらしい人間としては生きられません。神さまは、いろいろな方法を通して、一番は聖書を通して、神さまから離れてしまつたらどんなに、惨めな、悲しい、汚れた人間になってしまうかを教えてください。

さあ、この弟はどうするのでしょうか。ハッと自分の惨めさに気づいた彼は、心のなかで言います。「ヨシ、家に帰ろう。お父さんのところに帰ろう。そしてこう言おう。ごめんさい。私は神さまに、そしてお父さんに罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。でも、働かせてほしいのです。」弟は、お父さんの所に帰って行きます。家を出るときはびっかびかのお洋服。でも今は、ぼろぼろに汚れた服を着て、とぼとぼと帰って行きました。

その頃、お父さんは何をしていたのでしょうか。毎日毎日お屋敷のベランダにいて、遠くのほうを眺めていました。弟が帰ってくるのを待っているのです。ある日、家に近づいてくるそれはそれは汚い男の姿を見つけました。するとお父さんは、階段を転げ落ちるように降りてきて、全速力で何度も転びながらその汚れきった服の男のほうに走り寄ります。「おーい。息子よ。」お父さんは抱きしめ迎え入れたのです。そしてすぐにお屋敷にいる人々に言いました。「息子が死んでいたのに生き返った、死んで

いたのに生き返った。良かった良かった。皆でお祝いの準備をしてくれ。」

このお父さんは、誰のたとえでしょうか。天のお父さまのことですね。私たちは、この天のお父さまのおられるところから離れては、この息子と同じなのです。でも、天のお父さまは、なんとしても、私たちが帰ってくるのを待っておられます。待っておられるだけではありません。イエスさまを私たちのいるところに送ってくださったのです。僕たち私たちが、捜されています。この天のお父さまがおられる場所に帰ってそこで生きることが、神さまの栄光を現すことです。神さまの栄光を現すって言うことは、イエスさまに救われて、神さまの子どもにさせていただくことなのです。この息子は、ぼろぼろに汚れた服のまま帰ってきました。でもそれでもう神さまの栄光は現されていたのです。私たちが、イエスさまを信じ、天のお父さまの所に行けば、神さまの栄光が現されます。

今週の暗唱聖句

「この息子は、死んでいたのに生き返り、
いなくなっていたのに見つかったからだ。」

そして、祝宴を始めた。

ルカによる福音書 15章 24節

「母の日」について

日曜学校の行事には、教会暦に基づくもの（たとえばイースターやクリスマス）とキリスト教の文化の中から生まれたものがあります。「母の日」は、キリスト教の文化の中から生まれた教会の行事です。

アンナ・ジャービスというアメリカのメソジスト教会の教会学校教師が、1908年5月10日に、亡き母を記念して記念会を行いました。その日、ジャービスが母の大好きだった白いカーネーションを持参して皆に贈ったことが、母の日の起源とされています。そのうちに、亡き母には白いカーネーションを贈り、生きている母には赤いカーネーションを贈るようになりました。それ以来、世界的に5月第二日曜日が母に対する感謝をあらわす「母の日」となりました。アメリカ合衆国では、1914年に「母の日」として定められました。日本では、1927年にキリスト者のグループが母の日の行事を行って以来、広く普及したようです。

この日は、あらためて母への感謝をあらわし、また、母であることの意味を見つめなおす機会として用いられます。教会では、手作りのカードを母へ贈ることがよく行われます。

〈こどもへの質問〉

- Q1. ある兄弟がお父さんからたくさんのお金を分けてもらいました。
 弟の方はそのお金をどうしたでしょうか？
 なんと、お父さんから分けてもらったお金を全部遊びのために使ってしまったんだよね。
 そして、お金が全部なくなって初めて自分がどれほどみじめなものかに気づいたんだね。
- Q2. 自分がみじめなものだということに気づいた弟はその後どうしたでしょうか？
 そう、お父さんの所に帰っていったんだよね。
 するとお父さんは「息子が死んでいたのに生き返った」と、とても喜んで出迎えてくれたんだよね。

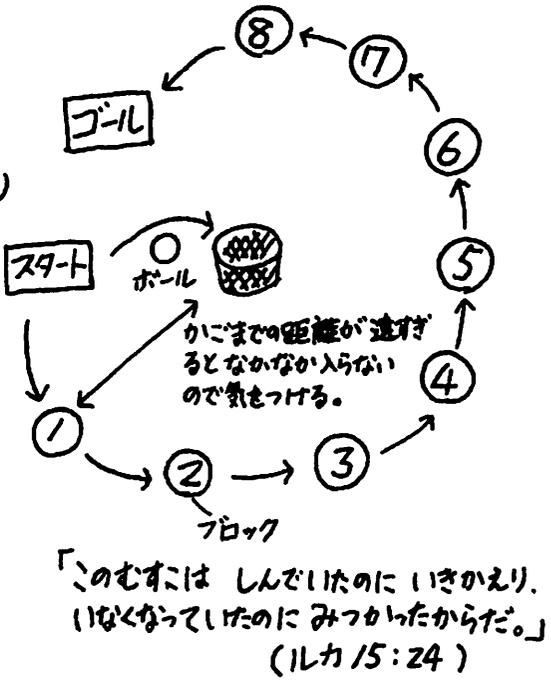
〈お祈り〉

天の父なる神様、イエス様をわたしたちのところに送ってくださってありがとうございます。わたしたちもイエス様に救われて天の父なる神様の子どもにさせていただくことができますようにお導きください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

ゲーム 人間すごろく

- よいりするもの
- ・ボール 1コ
 - ・かご 1つ
 - ・ブロック 10コ くらい
- 目印になるものなら何でもよい。(ペットボトル、あき箱など)

- ① ジャンケンで順番を決める。
- ② 順番に1人2回までボールが投げられる。
- ③ ボールが一回目でかごに入ったら、2つ進める。
2回目に入ったら1つ進める。
一つも入らない場合は進めない。
- ④ 「5番で止まったら暗唱聖句カードを読む」など、それぞれの位置で特定のルールを球めるとおもしろい。



〈目標〉

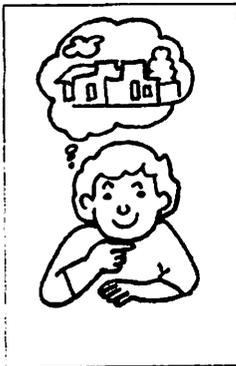
罪人が悔い改めるとき、父なる神様は、大きな喜びをもって迎えてくださる。神様のもとに立ち返り、神様の子供として生きることが私たちの本来の生き方であることを知る。

〈展開例〉

1. 工作

放蕩息子の物語の巻物絵本を作る。

物語を次の6つの場面にわけて絵を描く。



①放蕩息子が家を出たいと思っているところ



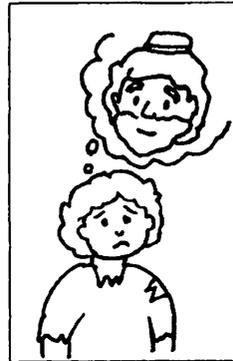
②お父さんにお金をもらうところ



③遊びほうけているところ



④豚の世話をしているところ



⑤お父さんの家に帰ろうと思うところ

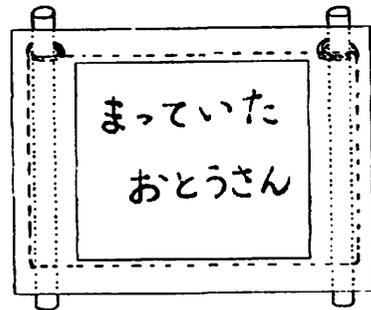


⑥家に帰り、お父さんに会うところ

2. できた絵を用いながら、話をする。

- ・この息子は家に帰ったらどう言おうと思っていましたか。
- ・お父さんは帰ってきた息子を見て、怒りましたか。
- ・神様から離れたしまった息子とは誰のことですか。
- ・このお父さんとは誰のことですか。

3. ①～⑤の絵をセロテープでつなぎ、ラップの芯2本にそれぞれの端を巻きつける。箱の上部と下部にそれぞれ2つの穴を開ける（ふたにも）。空き箱のふたをくり抜いて、絵が見えるようにする。（箱の準備は前もって教師がやっておくとよい）。芯を巻きながら、話をする。



〈祈り〉

父なる神様、私たちを愛し、ゆるしてくださいましたことを感謝します。どうか神様に従っていく子供となることができますように。

〈目標〉

神様は私たちが御許に帰ってくるのを待っていておられることを覚える。

〈指導上の心得〉

私たち自身が放蕩息子であることを頭に置き、父なる神様が私たちをずっと待っていてくださっている恵みを語る。

〈展開例〉

みんなは、ペットを飼っているかな？ もし大事なペットが突然どっかについてしまったらどうだろう？ 心配するよね。お腹がすいてないだろうか、事故にあってないだろうか、元気であるだろうか。ペットでもすごく心配なんだから、人間ならなおさら心配になります。それが、もし自分の子どもだったりしたら、本当に心配です。

でも、好きに遊びたいからといって家を出ていってしまったとしたらどうだろう？ みんなが心配しているのに、その人はそんなことも知らずに遊び回っているに違いないのです。でも、もしそれが分かっているにもかかわらず、それでもやっぱり心配ですね。

今日の所のお話に出てきた、お父さんもやっぱり息子のことが心配だったんです。すごくすごく気がかりで、毎日のように息子が帰ってくるのを待っていたのです。そのお父さんが神様だってことは今日のお話で聞いたよね。その神様は神様の方に向くことをしない人たちが、滅んでしまうのではないかと心配してくださって、私たちが神様の方に帰っていくのを待っていてくださっているのです。しかも、私たちが苦しくなってから帰るのではなく、イエス様を通して、神様の方へと私たちを連れて行ってくださるのです。イエス様を通して神様の方に帰った私たちを神様はよく帰ってきたと迎えてくださるのです。

そして、私たちは神様を礼拝することができるようにされるのです。礼拝は神様とお話ができることです。神様から離れているときはできなかったのですから、礼拝を捧げることができるのは、イエス様を信じている人の特権なんです。そして、神様は神様の御許に帰ってきた人たちにはその特権を与えてくださるのです。

〈目標〉

見捨てないで、待ち続けてくださる救い主を知る。

〈指導上の心得〉

救いがどこから来るかを考えるための第2回目。前は探し出すという、主の救いの業をおぼえたが、今回は待ち続けるという主の忍耐をおぼえたい。その忍耐は、どれほど胸の痛みと心の悲しみをともなっていたかは、放蕩息子の父が内臓を激しく揺さぶられるほどのあわれみ（聖書解説参照）を、息子にかけていたことに現れている。

下記工作を採用する場合は30分たっぷりかかってしまうことに留意。神の愛が親にも注がれることを祈りつつ、心を込めてつくろう。

〈展開例〉

【メッセージ】みなさんは、お父さん、お母さんのことを無視したことがありますか。きっとあるよね。毎日口うるさくしかられたり、自分の生活のこまかいところまで干渉されたりしたら、きっと誰だって親がうっとうしくなるでしょう。でも無視されるということは、親としては一番つらいことなのです。

それでも親は耐えています。みんなを愛しているからですね。聖書の神さまも親以上に耐えて耐えて、ずっと待ち続けておられます。神さまの願いは、ご両親もあなたがたもみな救われて、共に理解し合い、認め合って、神さまを崇めて生きることなのです。

【暗唱聖句】ルカ 15:24 この聖句は救われた者に対する神の大きな喜びが語られている。

【母の日工作】神の忍耐は、当然自分の両親にも注がれている。未信者の母親の救いのために、また信者の母親がいつそ神の御名を崇めることができるように、母への感謝を聖書の言葉に託して、贈ろう。ブラバンを宝石形などに切り、御言葉（例：「母の教えは首にかける飾り。」箴言 1:9）を書いて、加熱成形したものに、毛糸など紐をつけてネックレスにする。（父の日には同じようにブラバンキーホルダーをつくる。）

〈祈り〉

かたくなな私たちを、どこまでもあわれんで、悔い改めるのを待っていてくださる神さまに感謝いたします。

〈目標〉どんな時も死の時さえも、キリストと共にあるという「希望」を知るために必要なことの確認。
 〈展開例〉今日は「放蕩息子」のたとえ話から、どんな時でもイエス様がともにいてくださり、神様のものであることが私達の「希望」だということをしっかりと知るために必要な事はどんなことかということを考えましょう。

○放蕩息子の知ったこと

弟はお父さんの財産を分けてもらって家を出ました。そして、その結果は豚の餌さえ食べたいと思うほどの惨めさでした。なぜそんなことになってしまったのでしょうか？ 彼はお父さんの家からはなれて、自分の好きな事をして、自由気ままにいたつりだったのですが、実は何の希望も無い、不確かな生活をしていたのです。お父さんの所にいれば、こんな惨めな思いをしなくてもいいのに、どうしてこんなことになってしまったんだろう。それは、彼がお父さんの言う事を聞こうとせず、自分の思い通りにしたいと考えたからです。その結果、どれほどお父さんを悲しませたかをも、彼は知ったのです。

お父さんの所へ帰ろうと思った弟は、しかし、どう言ってお父さんの家の玄関をくぐればいいのかでしょうか？ 今さら、「ただいまあ、おなかすいたあ」などと言って帰れるわけはありません。しかし、彼はお父さんがどんな方か知っていました。お父さんは、正直に心から反省すれば許してくださる方であることを知っていました（18節）。

そして、ひどい姿になった弟がお父さんの所に帰ってきたとき、お父さんはどのようにして彼を迎えたのでしょうか。お父さんは遠くから駆け寄ってきました。お父さんはいつも彼が帰ってこないかと待っていたのです。そして、「雇い人の一人にしてください」という弟に、「いちばん良い服」を着せて息子としてとても大切に扱ってくれました。こんなにしてもらったらどんな気持ちでしょうか？ 昔のように戻れないと思って帰ってきたのに、息子としてとても大事にしてもらったら、「ありがとう！」って思いますよね。お父さんに感謝するってことを知らなきゃなりませんよね。

放蕩息子が、お父さんの家でお父さんと共にいることが何よりも大きな喜びであることを知るためには、(1) 勝って気ままにしていた自分がどんなに惨

めになったか、(2) どうすればお父さんの家に帰れるか、(3) お父さんの家に帰ってからどんな生活をすればいいか、という三つのことを知らなければなりませんでした。

前回、私達の希望は、いつもイエス様が共にいてくださり、私達はいつも神様のものだということだとお話しました。この放蕩息子のお話で、放蕩息子は私達、お父さんは神様です。私達が神様のものであることが「希望」であることを知るためにも同じ三つのことを知らなければなりません。

○神様から離れている自分がどんなに惨めか

ローマ 3:9-10 を見てください。私達は、神様の前に誰一人正しい者はなく、神様に逆らおうとする「罪」にどっぷりつかって、放蕩息子のように豚小屋の床をはいずりまわっている惨めな存在です。

○罪と惨めさから抜け出して神様の所にもどる道

使徒 4:12 を見てください。聖書にはその道はただ一つ、罪を悔い改めてイエス様を救い主と信じること。イエス様だけが私達を天国に連れて行って下さると信じることだと書いてあります。イエス様に従って、正直に罪を悔い改めた者は、お父さんが放蕩息子を喜んで迎えてくれたように、神様は無条件で御国へ入れてくださいます。

○救われた私達はどんな生活をすればいいのか

イエス様によって救われ、御国に入ることが約束された者は、それまでと同じような生活はできません。自分が何の善い事もできないのにイエス様によって無条件で救われた者は、それ以後の生活で神様に救われたことの感謝を表していかなければなりません（ローマ 6:13）。それまでと同じように、神様に背を向けるような生活を続けるなら、何のためにイエス様が十字架にかかって下さったのかわからなくなります。しかし、それは私達が自分の努力ですることではありません。神様は、惨めさの中から救い上げて、イエス様によって救いを約束して下さった私達の心を作り変えて下さり、救われたことの感謝の生活ができるようにしてくださるのです。

〈祈り〉天の父なる神様、今日は私達があなたの所へ帰るために必要な三つのことを学びました。どうか、私達が自分の惨めさを知り、イエス様による救いの道を信じ、救われたことへの感謝の生活を送ることができるようになってください。

テキスト ルカによる福音書 10章 38～42節

人間にとって「ただ一つ必要なこと」が何であるのかを明示しているテキストです。すぐ前の「善いサマリア人」のたとえが律法主義的に解釈される可能性をふさぎ、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるか(25)という問いに答える目的をもって置かれている記事です。「主の足もとに座って、その話に聞き入」(39)ることこそただ一つ必要なことであるとの真理が、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(27)との戒めに対応しています。

〈マルタの問題 - 心の分散〉

「多くのものに思い悩み」(41)とは、心があちこちに引かれて分散しているさまです。マルタは主イエスへの愛と奉仕という動機から出発したのですが、あれこれと心配りをするうちに思い煩い、「ただ一つ必要なこと」を忘れてしまって、自分のしていることがわからなくなってしまうものと思われれます。人は「ただ一つ必要なこと」を見失うと、何が大切で何が周辺的なことかを見分けることができなくなって、不安の中に落ち込んでしまいます。

主イエスは自発的な奉仕や愛の配慮のために立ち働くこと自体を否定しておられるのではないと思

います。ただ、「ただ一つ必要なこと」がしっかりとわきまえられている時にこそ、そのような働きも生きたものとなります。マリアはそのことをわきまえていたのですから、実際的な働きをもよく担うことのできる人であったはずで

〈主のみ言葉に聞き入る〉

マリアはマルタとは対照的に、主イエスの足もとに座って、み言葉に聞き入っていました。これこそ「ただ一つ必要なこと」です。人は神の口から出る一つ一つの言葉に養われて、はじめて生きることができのです(マタイ 4:4)。

私たちが神に奉仕する以前に、神が私たちに仕えて下さっています。それはみ言葉を聞かせて下さるという奉仕です。私たちの神への奉仕は、神の私たちへの奉仕への感謝の応答です。それは「ただ一つ必要なこと」すなわち神礼拝のすがたをとりま

(ウ小教理問1)。
礼拝の確立こそ、私たちにとって何はなくとも真先になさねばならない、命がけの問題です。み言葉に養われる生活こそ、私たちの命綱です。いかなる人も、いかなる理由によっても、「それを取り上げてはならない」(42)のです。

カテキズム 子どもカテキズム 問3
ウェストミンスター大教理問答 問62～65

子どもカテキズム

問3 私たちがすべきことは何ですか。

答 信じる私たちは、

主の日にキリストの教会に来て礼拝をささげ、
毎日、神さまにお祈りします。

〈祈り＝主日礼拝式、そして日々の祈り〉

問3では、神を知り、喜び、栄光をあらわす、そのような新しい生き方が、具体的に「どのような」生き方になるのかを明らかにします。

一言で申しますと、「祈り」であります。しかも、ここで申しますその祈りとは、単に個人的に毎日捧げる祈りを第一に教えていないことに注意して下さい。キリスト者にとって祈りとは何よりも主日礼拝式をまずイメージしたい、私はそれを改めて強調することが今日特に必要かと考えております。

救われるとは神の教会に繋がること、主イエス・キリストの御体なる教会の一枝に加えられることであります。そこにおいて、救いは確かなものとされます。そこにおいて、まさに神の御心、目的にかなった救いが実現するのであります。教会から離れて救いはありません。そしてその教会とは、「神の民の祈りの家」であります。教会の目標は神礼拝であります(日本キリスト改革派教会20周年宣言参照、「教会の生命は、礼拝にある。キリストにおいて神人とともに住みたまう天国の型として存する教会は、主の日の礼拝式において端的にその姿を現わす。わが教会の神中心的、礼拝的人生観は、主の日の礼拝の厳守において、最もあざやかに告白される。』)。ですから、子どもらを主日礼拝式(日曜学校の礼拝式)に招くのであります。

日曜学校の目的は、子どもらが礼拝者として生きること、祈ることを知り、祈りの生活を身につけさせることにあるのであります。祈る人は、信じている人であり、救われている人であり、祈る人は神の栄光を現している人なのであります。しかもそれは、個人でなされるのではなく、神の民としてなされます。ですから、神の栄光を現すことを目的に

生きる人は主日礼拝式に集中せざるをえないのであります。教会がもっとも鮮やかに神の栄光を現す「とき」、それこそ、主日礼拝式を捧げているそのときであります。

主日礼拝式の姿勢は、週日の姿勢でもあります。それが「礼拝的人生」なのであります。私共のそれぞれの人生、生活がどのようなものであったとしても、それは結局、一つの形となっているはずであり、神のために生きる、全てを神の栄光に結び付けて生きようとする即ち「礼拝的人生・生活」であります。

主日礼拝式によって毎日の個人的な祈りの生活も導かれます。どなたか、子どもらが毎日祈ることを継続できるような、「子ども祈禱書」を記していただければと思います。どうぞ、子どもらに祈ることを教えてください。祈りに導いてください。一緒に祈って下さい。繰り返しますが、ひつきょう、日曜学校とはそのためのものであるのです。

〈説教展開例との関わり〉

マルタとマリアの物語の中で、御言葉に集中するマリアを喜んで下さる主イエスを伝えましょう。祈りは、神の言葉を聴くことから始まります。御言葉を聴くことによって、祈りの言葉が与えられ、獲得することができます。祈りに導く説教、分級を目指してまいりましょう。

コリントの信徒への手紙一の御言葉からの説教において、主イエス・キリストの御体なる教会はキリストの臨在しておられる所であり、一人一人が主キリストに繋がられていること、そしてどれほど主イエスに大切にされているかを告げましょう。そして、一人一人の個性、違いを大切にす心、受け入れる心を育みたいと思います。

聖書箇所 ルカによる福音書 10章 38～42節

カテキズム 子どもカテキズム 問3

「御言葉を聴くマリアさん - 主日礼拝式（日曜学校）の重要性 - 」

おはようございます。この主の日・日曜日も皆と一緒に礼拝を捧げることができることを本当に嬉しく思います。神さまが一人一人のお名前を呼んで、私たちの教会に招いて下さいました。心から感謝します。

ある日の事です。イエスさまとお弟子さん達がいつものように、皆に神さまの国のお話、福音を説いておられました。その日は朝早くからお話をしておられましたから、そろそろ、お腹もすいて来ころです。イエスさまはある村にお入りになりました。そこには、マルタとマリアと言う姉妹がいました。その家は、イエスさまとお弟子さん達が旅の途中に何度も立ち寄って、ご飯を頂くことができる家でした。

お姉さんのマルタさんはその日、イエスさまがこの村を通って行かれることを知って、一生懸命、大勢の人達のお昼の準備をしています。妹のマリアさんも、一生懸命手伝っていました。ところが、まだお食事の準備が全部整わないうちに、イエスさまたちが来てしまったのです。「イエスさま、どうぞ、私たちの家でお食事を食べて行ってください。」マルタは言いました。マルタさんも、イエスさまが大好きだったのです。なんとか、イエスさまに喜んで貰えるお仕事、ご奉仕がしたかったのです。

イエスさまは、「ありがどうマルタさん。いつも感謝していますよ。」そう言って、お家に入ると、イエスさまは、ついてきた人達とお弟子さん達に、道を歩きながらお話ししていた続きのお話を一生懸命続けられました。皆は、お腹のすいていることも忘れてしまって、イエスさまのお話に関心入っていました。

マルタさんは、一生懸命準備しています。「どうしようどうしよう、まだ支度ができていない。」その時あることに気づきました。「あれ、マリアがいない。どこに行ってしまったのでしょうか。隣の家にお醤油でもわけてもらっているのかしら。」しばらくたっても戻ってきません。マルタさん、もうイラ

イラして来ました。「もう、マリアったら、どこにいったの！ 私だけにこんなに大変な思いをさせて！」おかずを作っている手を止めて、マリアを捜そうとした時です。なんと、マリアは家にはありませんか。マリアは、イエスさまの足元に座って、そのお話を一生懸命聞いているのです。もう、マルタさんはカンカンです。イエスさまがお話をしている所に近づいて来て、言いました。「イエスさま。お話の途中ですが、ごめんなさい。わたしの妹のマリアときたら、わたしだけにもてなしをさせています。イエスさまは、このマリアを何ともお思いになられませんか。ちょっとは叱っていただきたいものです。手伝うように仰ってください。」

イエスさまはマルタの目を見て、優しく仰いました。「マルタさん、マルタさん。あなたは多くのことに思い悩んで、心を乱しています。しかし、必要なことはただ一つだけです。マリアは良いほうを選んだ。それを取り上げてはならない。」

この時のイエスさまのお言葉を、皆さんは、どう思いますか。自分がマルタさんだったら、どんな気持ちができるでしょうか。マルタさんとマリアさん、どっちがしたことが正しいのでしょうか。マルタさんは一生懸命お食事の準備。マリアさんは一生懸命イエスさまのお話を聴いている。

「マルタさんはかわいそうだ。」そう思うお友達もいるでしょう。「だって、一人でお食事をつくるのは大変なもの。」先生もそう思います。でも、イエスさまは、そう仰いませんでした。「むしろ、間違っているのは、マルタさんの方です。」そう仰います。何故でしょうか。そこで、考えましょう。今そこで、イエスさまは何をなさっておられましたか。ずっとお話を続けておられました。イエスさまの一番大切なお働きは、福音を告げることでした。神さまのお話をする事です。一生懸命語っておられるイエスさまです。その時に、一番イエスさまに喜ばれることは何でしょうか。それは、お食事を作ったさしあげることでしょうか。違います。イエスさ

まのお話を聞くことです。

今日は主の日です。イエスさまを礼拝するために教会に集まる日です。今日は、イエスさまが、聖書を通して、この礼拝の説教を通して、僕たち私たちにイエスさまのお話をしてくださる日です。今日、このように、皆でイエスさまのお話を聴いている事を、イエスさまが一番喜んでくださるのです。イエスさまのお話をよく聴くことが、礼拝の中で一番大切なことです。イエスさまは、何が出来ても出来なくても、マリアさんのように、イエスさまのお話、神さまの御言葉をしっかり聴いておられることを、喜ばれるのです。そしてそれは、誰も、マリアさんから奪ってはなりません。また誰からも決して決して奪われてはならないものなのです。それほどに、イエスさまを礼拝すること、教会学校に来ることはみんなにとって、イエスさまにとって大切な大切なことなのです。

「人生の目的は何ですか。」私たちの神さまを知り、神さまを喜び、神さまの栄光を現す事ですね。

それは、この礼拝に来て、イエスさまのお話をのよように聴けるからそうなるのです。僕たち私たちにとって、必要なことはこの礼拝です。そして、忘れないでください。イエスさまは、皆に教会学校に来てもらいたいのです。これからも、皆で励まし合って教会学校に通いましょう。日曜日の朝、元気に起きてください。どうしても来れないときには、お友達に「行けないから、先生に伝えておいてね。」ってお願いしてください。そして、そんな週は、いつもよりもっともっと真剣にお家で神さまにお祈りしてください。それも礼拝です。「天のお父さま」とまず神さまのお名前を呼びます。それから、「今日は、～です。イエスさまがいつも一緒にいてお守りください。イエスさまに喜ばれるようにできるように助けて下さい。わたしの家族をお守りください。教会学校のお友達をお守りください。このお祈りをイエスさまのお名前によっておさげします。アーメン。」今日、皆でイエスさまのお話を聞きました。イエスさまは大喜びです。私たちの喜びは、イエスさまが喜んでくださることを一緒に喜ぶことです。

今週の暗唱聖句

しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。

今がその時である。

なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。

ヨハネによる福音書 4章 23節

〈こどもへの質問〉

Q1. マリアさんとマルタさんのおうちでイエス様が神様の国のお話しをされていましたが、その時お姉さんのマリアさんはみんなのお昼ご飯の用意をしていましたね。

さて、では妹のマリアさんは何をしていたのでしょうか？

そうです、マリアさんはイエス様のお話しを一生懸命聴いていたんだよね。

Q2. そのことについてイエス様は何とおっしゃったのでしょうか？

「マリアは良い方を選んだ。」とおっしゃいましたね。

つまり、神様のお話しをなさっているイエス様が喜ばれるのはお食事の用意をすることではなく、イエス様のお話しを聴く事なんだよね。

〈お祈り〉

天の父なる神様、今日はイエス様のお話、神様の御言葉を聞くことがとっても大切であることを知りました。どうか、私たちが続けて教会学校に来てイエス様のお話しをよく聞き、神様の御用のために生きることができるように導いてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 ヒョコタンうさぎ

① 上下3.5cmのところにセリニみを入れる。(4ヶ所)

② セリニみにわゴムをひっかけろ。

③ うさぎの顔をセリリと色えんぴつで色をぬっておもての中心部にはりつける。

④ うらがえして下に置き、パッと手を離すと、うさぎがピョーンとはねる。

聖句をかにしておく
たにおり

よういするもの

- ・ ポール紙 7cm x 14cm (牛乳パックでもよい)
- ・ わゴム 1コ
- ・ 色えんぴつ
- ・ はさみ

〈目標〉

神様の御言葉を聞くことの大切さ。私たちにとって何が一番大切なことかを考える。

3. ジグソーパズルで遊ぶ

〈展開例〉

1. マルタとマリアについて考える。

- ・マルタさんは何をしていましたか。
- ・マリアさんは何をしていましたか。
- ・マルタさんはイエス様に何といいましたか。
- ・マルタさんはどうしてそんなことをいったのでしょうか。
- ・みんなはそんな気持ちになったことがありますか。
- ・必要なただ一つのこととは何ですか。

2. ゲーム

「神様の言葉をしっかり聞こう」

- ①子供たちを2つのチームに分ける。
- ②先頭の子供に御言葉を書いたカードを渡す。
- ③各チームを一列に並ばせ、先頭の子供からつぎの子供の耳元へ、小さな声で御言葉を伝言してていく。
- ④一番最後の子供は、聞いた御言葉を紙に書く。
- ⑤最初の御言葉の紙と合わせて見る。最初の文に近いチームの勝ち。

〈御言葉の例〉

・ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。

(ルカ 12章 31節)

・いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。

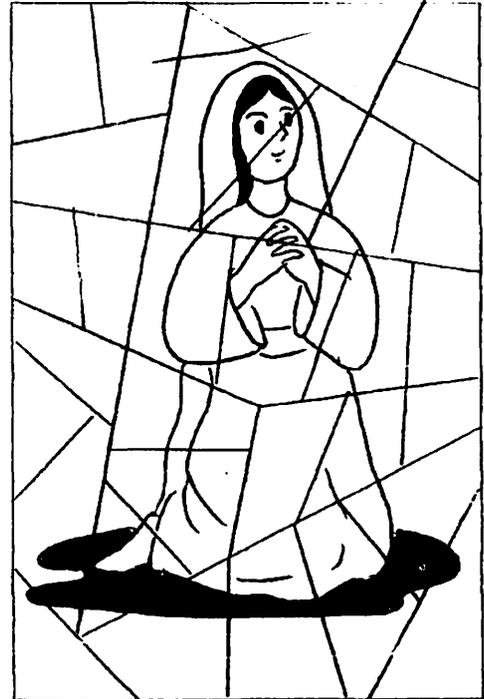
(マルコ 9章 35節)

・子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。

(ルカ 18章 17節)

・私は道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。

(ヨハネ 14章 6節)



御言葉を聞くマリア

ボードや厚紙に絵を描いて、細かく切っておく。一人ずつ用意するときにはカラーコピーする。(プラスチックや発砲スチロールのボードはホームセンターや本屋などにおいてある)

〈祈り〉

天のお父さま、一番大切なことが何であるかを教えてくださいありがとうございます。礼拝で、またおうちで、神様の御言葉を喜んで聴くことができる耳をお与えください。

〈目標〉

御言葉を聞くことを第一にする。

〈指導上の心得〉

このところで、マルタの奉仕を正しく評価しつつ、様々な奉仕の中で、何よりも主の御言葉を聞く奉仕が一番大事であることを教える。

〈展開例〉

みんなは、お友達が家に遊びに来たらどうするか？ 勝手に遊んでって言って後は放っておくかな？ そんなことはないよね。お菓子を出したりしておもてなしをするよね。それは、お客さんを迎えるときにとても大事なことです。

マルタさんもイエス様が自分のお家にいらっしゃった時に一生懸命におもてなしをしました。これは、とっても大事なことです。そして、おもてなしをしようとして一生懸命やっているマルタさんのことをイエス様は全然注意なさないんです。

でも、マルタさんは妹のマリアさんが全然働かないものだから腹が立ってきたんだ。みんなだって、自分だけお手伝いをさせられて、ほかの兄弟とかお

友達は全然させられなかったりすると、いやな気持ちになるよね。それと同じだったんです。で、イエス様に注意をしていただくとして、文句を言うのです。文句を言われたマリアさんはとっても悲しい気持ちになるよね。一生懸命イエス様のお話を聞いていたらお姉さんに怒られたのだから。

でも、イエス様はマルタさんに、マリアが一番よいものを選んだのだとおっしゃったのです。

イエス様をもてなすこと。それは、教会で奉仕とっていろいろなお仕事をすることだったり、神様から与えられたものを精一杯楽しむこともあります。それも大事なことだけど、それよりも大事なそして、何よりも一番大事なことは、神様の御言葉に聞くことなのです。

「神様から与えられたものを楽しむんだから、今日は教会はお休みする」なんて言うのはだめなんですよ！神様から与えられたものを楽しむ前に、神様の前に出て神様のお言葉を聞く。それをしてから私たちは、神様の与えてくださった一週間の生活をします。

〈目標〉教会の恵みは、神の言葉を聴くことである。

〈指導上の心得〉

4月22日(問1)と特に響きあう箇所である。私たちが毎週教会へ来て聖書のお話を「聴く」ことが一番大切なことだと気付きたい。

〈展開例〉【招き】4月22日と29日に、礼拝することの意味を学びました。礼拝とは教会に来て聖書のお話を聴き、祈り、賛美をささげることだけでなく、飲むにも食べるにも神様に感謝をすることや、お友達の救いのために何かをすることも礼拝だということを学びました。では、この中で一番大切なことはなんだと思いますか。礼拝のお話にあったように御言葉を聴くことです。【考える】(Q)「聞く」と「聴く」のちがいはわかりますか。※「聞く」は自然に耳に聞こえてくる音声を耳に感じる意で、「物音を聞いた」「叫び声を聞いた」「うわさを聞く」などと使われる。「聴く」は、意志をもって念入りに聞く意で、「音楽を聴く」「市民の声を聴く」などと使われる(旺文社国語辞典)。マリアは喜んで、イエスさまのお話に耳を傾けていました。イエスさま

が大事なことはただひとつとおっしゃったのは、マリアのように聴くことです。礼拝中、何か他のことをしながらきくのは、「聞く」であって、「聴く」ではありません。(Q)(パンの絵と「人は神の言葉によって生きる」と書いた紙を用意する。)あなたは神様のために40日間断食しようとして、あと1日に迫りました。そこにサタンがきて、パンと聖書の言葉を置き言いました。「さあ、食べて休みなさい。人は食べなければ死んでしまうではないか」とあなたにささやきました。あなたはどちらをとりますか。極限の状態であっても、肉の糧ではなく、御言葉をとられたイエスさまを思い出そう。イエスさまは死ぬのを覚悟でパンをとらなかつたのではない。生きるために御言葉をとった。【メッセージ】聖書の言葉は命そのものです。マリアは生きるために、イエスさまの言葉に耳を傾けていたのです。私たちもそのようにするとき、本当に生きる力が与えられるのです。【暗唱聖句】ヨハネ4:23

〈祈り〉命の御言葉をもっと勉強することができますように。

〈目標〉御言葉に耳を傾けることによって、私たちは救いに至る道を知ることができる。その御言葉がもっともよく語られるのは教会の礼拝である。

〈展開例〉先週、私達が真の希望を知るためには三つのことを知らなければならないということ学びました。今日は、さらに一歩進んで、「三つのことを知る方法」について考えてみましょう。

○本当に必要なのは御言葉を聞くこと

マリアもマルタも、二人ともイエス様のことが大好きでした。そして、マルタはイエス様に喜んでいただくとして、おもてなしの準備に一生懸命でした。それに対して、マリアはイエス様の足元に座って、大好きなイエス様のお話に耳を傾けていたのです。大好きなイエス様がこられた時に二人がしたことのうち、イエス様が本当に喜ばれたのはどちらでしょうか。そして、イエス様はマルタに本当に必要なことは何なのだと教えられたのでしょうか。

イエス様は、本当に必要なことは、イエス様のお話・御言葉を聞くことだとおっしゃいます。私達にとっても本当に大切なこと、イエス様がいつでも、どんなときでも一緒にいてくださることが「希望」なのだとということを知るためには、イエス様の御言葉に耳を傾けることが必要なのです。しかし、今の私達には、マリアのようにイエス様の足元に座って直接お話を聞くという事はできません。私達はどうすればいいのでしょうか？

○今も私達に語られる御言葉—聖書の語ること

今もイエス様の、神様の御言葉は、「聖書」を通して私達に語られています。「聖書」というのはどのような本なのでしょうか。聖書を書いたのは、モーセやマタイやパウロといった人々なのですが、聖書の内容は、その人たちの人間の知識や知恵で書かれたものではなく、神様（聖霊）の導きによって書かれたものです（テモテニ 3:16）。ですから、聖書は神様の書かれた本でもあり、だからこそ、私達を神様のもとに導く力があるのです。

聖書は、旧約（39）新約（27）併せて 66 巻の書物からできています。この 66 巻は 40 人位の人たちの手によって書かれているのですが、神様がそれらの人々を導かれ、終始一貫して「私達の罪の身代わりになるために救い主が与えられる。そして、イエス様こそその救い主である」ということが聖書に

書かれたのです。そのことこそが、私達を御国に導くために必要なことなのです。

旧約聖書からそのことを考えましょう。創世記 3:15。最初に人間が神様に従うよりは自分が神様みたいになって好きなようにしたいと思って「罪」を犯してしまった時、神様はそれでも人間を見捨ててしまわれることなく、悪魔に対抗してその頭を砕く（息の根を止める）人間の子孫の存在を約束されました。その後、この約束は繰り返されます。創世記 22:18 ではアブラハムに対して、地上のあらゆる国の人々に祝福をもたらす救い主が現れることを約束されました。イザヤ 53 章では預言者イザヤを通して救い主が来られる事を約束されました。また、神様から与えられた律法においても、やがて来られる救い主・イエス様を予告するものとしての犠牲を示されました（レビ 1:1-9、ヨハネ 5:46）。

新約聖書から見ましょう。ルカ 2:11。イエス様がお生まれになる時に、もう既にこの方が救い主である事が宣言されました。さらに、この方こそ神様のエデンの園での約束を果たす方だと教えられました（ガラテヤ 4:4-5）。

このようにして、聖書には一貫して、イエス様が救い主であるということが、私達に示されているのです。救い主であるイエス様を私達に与えられるという神様の計画は、神様の書かれた聖書によってこそ、私達に確かなものとして教えられているのです。それを知ることによって、私達は、いつも神様とともにいるという希望を確かなものにできるのです。

○御言葉が最も語られる場所・時

その御言葉が最も語られている場所と時はいつでしょうか？ それは、教会の礼拝の時です。私達が日曜日に礼拝のために教会に集まる時、神様の御言葉は聖書を読み先生が説教してくださる事によって、私達に注がれます。私達は、たましいに向かって語られる御言葉によって、希望をより確かなものとする事ができるのです。

〈祈り〉天の父なる神様、今日は、私達が御言葉を通して希望を確かなものにしていただけるということ、そして、御言葉が最もよく語られるのは教会の礼拝の時であることを学びました。どうか、私達が礼拝の時を大切に恵みをうけることができるようにしてください。

テキスト コリントの信徒への手紙 - 12章12～31節

この手紙の12:1から、教会に与えられる霊的な賜物が多様であることを語ってきたパウロは、この箇所、教会のもうひとつの側面、すなわち一致についても触れ、賜物の多様性と一致の関係の緊密さを語ります。

その教会の全体的一致と、個々の賜物の多様性の関係を、パウロは人間の体とその部分になぞらえて述べています。その頃からすでに、国や集団の全体と個人の関係を体の比喻をもって語ることは、哲学者や政治家たちの間に見られたようですが、それらと教会との決定的な違いは、教会のかしらがキリストであり、教会がキリストの体であることです。つまり教会は、かしらなるキリストのみ霊の秩序にあって全体であり、また部分です。

〈一つの体と、その部分〉

教会員のひとりひとは、賜物や境遇はそれぞれ異なっても、「一つの体となるために」(13)、すなわちかしらなるキリストに結合され、一つキリストの体を築くために洗礼を受け、聖霊の恵みにあずかりました。

「足と手」(15)「耳と目」(16)は、弱い者と強い者との関係を言ったものと思われます。当時のコリント教会には、めざましい、また熱狂的神秘的な霊体験を受けた者が真にすぐれた者であるとの考え方があって、そうした体験のない者を差別し排除するという問題が起こっていました。そのような偏重が、ひとつキリストの体の一致を妨げ、破壊するために働いていたとすれば深刻です。パウロは、個々に与えられた賜物もまさに神からの「賜物」であって、そうである以上は全体を生かし合うための愛の配慮のもとにわかち合われるべきであり、そういう姿勢のないところではいかにひいでた賜物や経験であろうと無意味であることを、コリントの人々に忠告するのです。

〈弱く見える部分こそ重要である〉

体の中で強い部分がことさらに重んじられ、一方弱い部分が軽んじられ、あるいは排除されるということが、この世の集団には見られるかも知れません。けれどもキリストの体なる教会においては、逆に弱く見える部分が尊重されます(22以下)。

このことは福音の秩序にかないます。神はパウロが、彼を悩ましていた肉体のとげを取り除いて下さるようにと三度願った時、復活のキリストの恵みの力は人間の強さではなく、弱さを通してまっとうに表されることを告げられました(コリント二12:9)。それゆえにキリストの教会においては、弱さはむしろ誇りであり、上よりの力の輝きがことさら証される場所です。弱い部分が神のみ力を、その弱さを通して輝かせるなら、強い者たちもそれを見て神をたたえ、信仰の益にあずかります。

また、そのことが教会の一致をも実現させます。コリントの教会は、他の兄弟教会とともに、当時経済的に苦しんでいたエルサレムの教会を献金によって援助していました(コリント二9章)。一方エルサレムの教会は、霊的な実りを兄弟教会に分け与えていました。互いに弱い部分を配慮し支え合うことによって、弱さが教会をひとつに結びつけるということがあるのです。だからこそ弱い部分こそ配慮され、尊重されるべきなのです。

〈もっと大きな賜物を求めよ〉

27以下では、パウロは教会にたてられている様々な職務を、具体的に挙げていきます。「第一に」、「第二に」といった言い方がされていますが、これはおのおの職務の間に優劣があるというのではなく、機能による分類を意味するものと思います。

その上でパウロは、「もっと大きな賜物を受けるよう」(31)努めなさいと命じています。文脈からすれば、これは預言(み言葉)をさすと考えられます。コリント教会には、異言が他の賜物にくらべて過度に重んじられるという不均衡が生じていたからです。パウロは、異言よりもむしろ「教会を造る」(14:4)預言を求めるべきことを説いています。しかし、どんな賜物よりも大切なものは愛です。愛がなければ、どのような賜物も無益だからです。それで12章は、13章の〈愛の讃歌〉へと移っていきます。

※カテキズム研究は、5月20日分をご参照ください。

聖書箇所 コリントの信徒への手紙 — 12章12～31節
カテキズム 子どもカテキズム 問3

「教会（日曜学校）はキリストの体」

おはようございます。今日も、みんなと元気に教会に集まって礼拝を捧げることができてとても嬉し
いです。今日は聖書の箇所を読みました。みなさんにはすこし難しい箇所だと思います。今日は、私
たちが集っている教会ってなんだろうって考えてみま
しょう。

イエスさまは、十字架におかかりになった後復活
されました。復活されたイエスさまは、40日間お
弟子さんに現れて後、天のお父さまの所に戻られま
した。お弟子さんたちはとても心細くなってしま
いました。けれども、イエスさまはお弟子さんたちに
仰いました。「少しも、心配はいりません。私の
代わりに、聖霊なる神さまがあなたたちの所に来
られます。そうすると、あなたたちは力を受けて、誰
にでも勇氣と愛をもって、私のことを伝える人にな
ります。」

その10日の後、このイエスさまのお約束通り、
聖霊なる神さまが来てくださいました。そしてイエ
スさまが仰ったその通りに、お弟子さんたちは喜び
と勇氣に満ちあふれて、人々に伝えました。「あなた
の罪の身代わりになって死んでくださったので
す。あなたも罪を悔い改めて主イエス・キリストさ
まを信じなさい。」すると大勢の人々が、イエスさ
まを信じました。それは、聖霊なる神さまが、お弟
子さんの言葉を聞いた人の心を「トントン、トント
ン」とたたいてくださったからです。

今も僕たち私たちの心の扉を叩き、開いてくださ
るのです。「トントン、トントン。」「イエスさまに
ごめんなさいって言いなさい。」「トントン、トント
ン。」「イエスさまを信じなさい。」「トントン、ト
ントン。」「そうすれば、私はあなたの心の中に住ん
であげますよ。いつまでもあなたと一緒にいてあげ
ますよ。」その神さまのノックに気がついて「あり
がとうございます。イエスさまを信じます。私の心
の中にお入りください。」と言った人はどうなるで
しょうか。心の中に喜びが溢れ嬉しくなるのです。

最初に信じた人達はどうしたのでしょうか。その

人達は決してバラバラにはなりませんでした。その
人たちはいつも日曜日になるとお弟子さんたちのと
ころに一つになって集まったのです。もちろん、イ
エスさまを礼拝するためです。それが教会の始まり
でした。どうして、集まりたくなるのでしょうか。
それは、イエスさまの代わりに来られた聖霊なる神
さまが、イエスさまを信じる人をイエスさまのと
ころに集めてくださるお方だからです。聖霊なる神さ
まは「イエスさまの霊」とも聖書は言っています。
だから、聖霊を受けた人は、イエスさまとピッタリ
一つにつながってイエスさまが大好きになるので
す。だから、イエスさまのところに好きになるの
です。

それなら、イエスさまのおられる所とはどこで
すか。天のお父さまのおられる天国。でも、それだ
けではありません。イエスさまは、まだ天国に行か
ないで、勉強したり遊んだり、食べたり飲んだりする
この僕たち私たちの為に、地上にイエスさまの教会
を与えて下さったのです。その教会のことを聖書は、
「イエス・キリストのからだ」とも言っています。
ですから、イエスさまを信じている私たちは教会に
好きになるのです。でも信じている人は世界中に
数えきれないほど大勢います。何十億って言う人が
今、イエスさまを信じていると言う統計があります。
ちょっと想像してみましょうか。世界中のイエスさ
まを信じる人達が、日曜日に、日本の、この（名古屋）
に集まったら、人・人・人で歩くことができる
でしょうか。できませんね。だから、イエスさまは
世界中のそれぞれの町に教会を造ってくださった
のです。僕たち私たちはこの日本キリスト改革派教
会の（ ）教会に集まるのです。ここで、イエス
さまを礼拝するのです。

さて教会には、いろんな人達が来ているのを知っ
ていますか。女の人、男の人、お兄さん、お姉さん、
おばさん、おじさん、おじいちゃん、おばあちゃん、
赤ちゃんもいますね。みんな、お一人の聖霊なる神
さまが心に住んでおられます。ですから、その人達

は、一人一人ばらばらではありません。イエスさまのお体は一つです。ですから、イエスさまを信じる人達はどんなに大勢いても、ばらばらではありません。イエスさまの教会に集められている人は、イエスさまの体の一部分なのです。

イエスさまのお弟子さんのパウロさんは、「教会はイエスさまのお体なんだよ」と教えてくれました。皆には体がありますね。それでは、質問です。体はいくつ持ってる。一つですね。手はありますか。手はいくつありますか。指は何本ありますか。目は、鼻は、口は、耳は、おへそは……。パウロさんは、おもしろいお話をしています。「足が『わたしは手ではないから、体の一部ではない。』」「耳が『わたしは目ではないから、体の一部ではない。』」こんなことはおかしいですね。こんなお話もしています。「もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこで聞きますか。」

もし、皆の一つの体のなかで、目と耳がけんかしたらこまるでしょう。口と鼻が仲が悪かったら、大変です。パウロさんは言いました。「イエスさまのからだは一つ、聖霊なる神さまもお一人ですよ。イ

エスさまの体の教会のなかには、いろいろな人がいるけれど、みんな同じイエスさまの体の一部分です。みんな同じお一人の聖霊を心のなかに宿しています。だから、仲良くしようね。独りぼっちでイエスさまを信じることはできませんよ。みんな、イエスさまの体の教会につながってくださいな。」

今日お休みをしているお友達は誰でしょうか。皆でお祈りしましょう。今週も、日曜学校のお友達、先生のことを忘れないようにしましょう。忘れないって言うのは、お祈りするって言うことです。そして来週は、皆でイエスさまの前にそろって出て、イエスさまに喜んで頂きましょう。それが私たちの最高の喜びです。天のお父さまは、僕たち私たちがもっともっと神さまを知って、神さまを喜んで、神さまの栄光を現すことができるようにイエスさまの体である教会を造ってくださいました。イエスさまは聖霊なる神さまを私たちに送って下さって、私たちを教会に集めてくださいました。僕たち私たちに喜びがいつまでも続き、もっとあふれさせるために私たちはこれからも教会に来るのです。

今週の暗唱聖句

あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

コリントの信徒への手紙 — 12章 27節

〈こどもへの質問〉

Q1. 復活されたイエス様はお弟子さんの前に現れて何をお約束されたのでしょうか？

イエス様は「私の代わりに聖霊なる神様があなたたちの所に来られます」とお約束されたんだよね。

聖霊なる神様は私達のところにも来て「イエス様を信じなさい」と呼びかけられているんだよね。

Q2. 教会のことを聖書は誰の体だと言っているのでしょうか？

そう、イエス・キリストの体だと言っていますね。

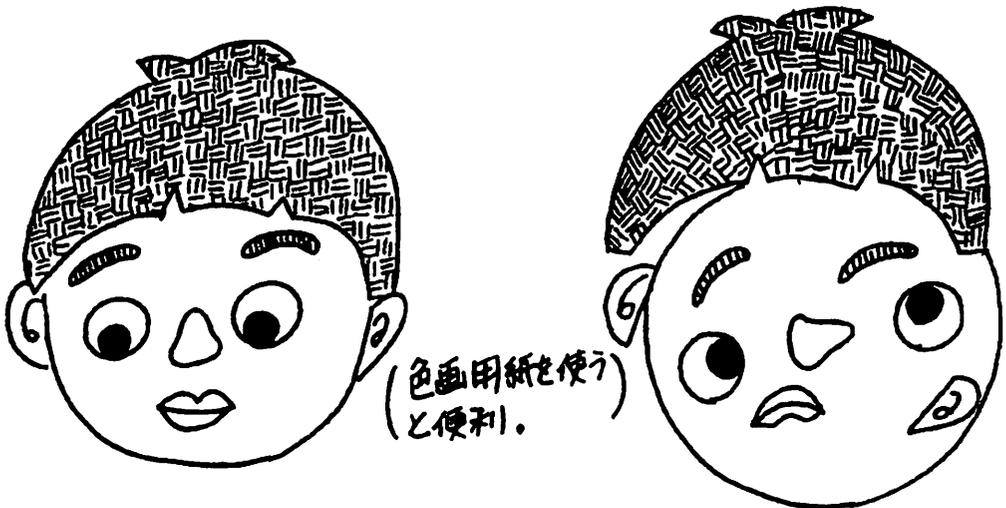
だから、教会に集められている人はイエス様の体の一部分なんだよね。

〈お祈り〉

天の父なる神様、聖霊なる神様が、私たちの心のとびらをトントンたたいて「イエス様を信じなさい」と呼びかけておられることを知りました。どうか、私たちが心のとびらをあけてイエス様を信じていることができるように導いてください。そしてイエス様の体の一部分として神様を喜ぶことができるようにしてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

工作ゲーム

顔ならべかえゲーム



① 顔、頭髪、まゆ毛、目、鼻、口、耳の各パーツを描いて切り取る。

② 目をくしをして、それぞれのパーツを顔の上に置いて楽しむ。

〈目標〉

教会にはいろんな人がいます。でも一人一人はみんなイエス様の体の一部分です。それぞれの働きは違って、助け合ってイエス様のために働きます。

〈展開例〉

1. 体にはどんな部分があるかを考える。

- ①手、足、お尻、目、耳、鼻、口、まつげ、爪など、それぞれの働きを考える。
- ②それぞれが同じ働きをしていないことに、気づかせる。もし足と手が入れ代わったらどうなるか。それぞれの部分にしかできない働きがある。
- ③私たちの体はけっして分裂していない。ある目的のために、それぞれができることを一生懸命にする。例えばリングを取って食べるとき、頭が命令し、足でリングを取りにいき、目で見て、手で皮をむき、鼻で匂いをかぎ、口で食べる。
- ④体の弱い部分をより大切にすること・・・もし体の中に恰好が悪いところがあれば、よくしようと努力するし、痛いところがあれば、かばったり、治るように体全体が協力する。

2. 「教会はキリストの体である」ということは、

①～④までにあてはめるとどういうことがいえるかを考える。

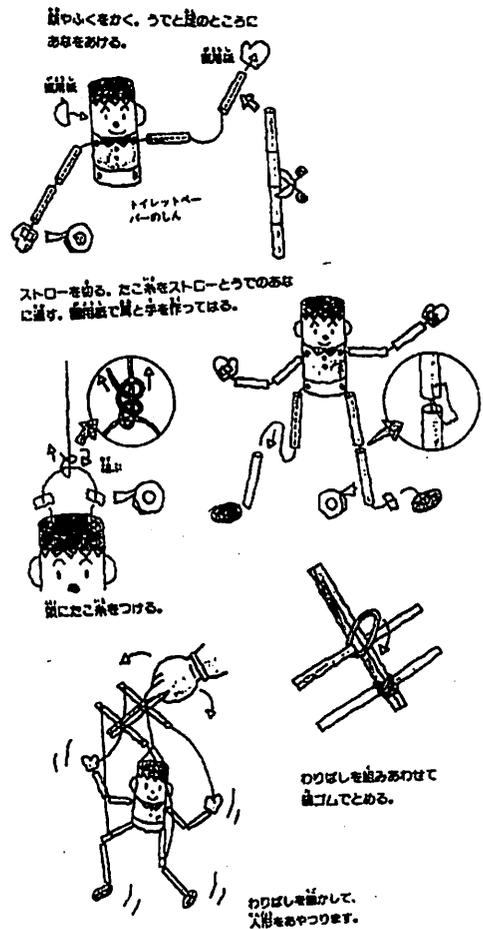
- ①教会にはどんな奉仕があるか考える。
牧師、長老、執事、受付、掃除、オルガニスト、聖歌隊、教会学校の先生、食事をつくるなど。
- ②それぞれの賜物にあった奉仕をしていることを知る。
- ③お互いに協力し、目標をもって奉仕をしている。
- ④教会は病気の人やお休みしている人に、特に配慮している。

3. 工作

「あやつり人形をつくろう」

(用意するもの)

トイレットペーパーの芯 (ラップの芯)、たこ糸、ストロー、マジック、輪ゴム、わりばし、セロテープ、画用紙



〈祈り〉

天のお父さま、教会はイエス様の体です。私たちがイエス様に結び合わせてくださりありがとうございます。私たちに与えられているよいものを用いて、神様のお手伝いができますように。

〈目標〉

みんな神様にとって大事な人であることを学ぶ。

〈指導上の心得〉

自分は、神様に愛されており神様が必要としてくださっている。そして、この教会に自分を置いて下さっているのであるという自覚を持って話そう！

〈展開例〉

みんなは、自分の体の中で、これはいらなくて思ったものってあるかな？体の中にあるものは髪の毛から足の先まで全部人間にとって必要なものなのです。だから、私たちの体の中で不必要なものは何一つないのです。

それじゃあ、みんなは学校でこんな人いなくてもいい！なんて思ったことはないかな。喧嘩したときなんかそういうことない？でも、学校にいるお友達や先生はみんな学校にとって必要な人なのです。もし一人でお友達がクラスからいなくなってしまうことがあれば、それはとても悲しいことだし、クラスの大事な仕事をできる人が一人減ってしまうので、

とても辛いことなのです。

それは、教会でも一緒です。僕たちは教会に来ています。日曜学校の礼拝で一緒に神様を礼拝して、分球で一緒に勉強しています。大人も礼拝と一緒にして、いろんな奉仕をしています。教会にはそうやって沢山の人が来ています。

でも、沢山いるから私一人ぐらい、僕一人ぐらいと言ってはいけないのです。どんなに沢山いても、体に沢山の部分があるように、そして、学校で係りや委員会なんかを任せられるように、どんなに小さなことしかできなくても、どんなに教会で小さいものでも絶対にいなくてはいけない人なんです。それは、神様がそれぞれの人に、その人にしかできない働きを与えて下さっているからなのです。

ちょうど体に手や足、顔、顔の中にも目や鼻や口があるように、教会にいる一人一人が大切な神様の体の働きをする部分なのです。そして、ここにいる一人一人を神様が必要として下さっているのです。

〈目標〉

教会の恵みは、愛とゆるしの交わりにある。

〈指導上の心得〉

わたしたちはイエス・キリストの体でありながら、時にはつぶやき、ささいなことで教会員を批判してしまう。今回の御言葉は、そのような自分の罪を容赦なく顕わにする。まず教師自身、今日の御言葉に深く悔い改め、たがいに欠けを補い合って教会を建て上げていこうという決意を与えられたい。そしてそのような愛のきずなで結ばれる教会の恵みを語りたい。

〈展開例〉【招き】今日の暗唱聖句を読みましょう（コリー 12:27）。教会は建物ではなく、イエスさまを信じる人の集まりですが、教会をイエス・キリストの体と呼ぶことがあります。頭はイエスさま、手や足は私たちなのです。このことから、教会は特別なきずなで結ばれていることがわかります。毎日学校や職場で会っている人たちに向かって、「あなたは足、わたしは手、だからあなたとわたしは一つだね」ってとても言えません。しかし、一週間に一度しか会わない、教会の人に対しては、「あなたは、

わたしと同じ、イエスさまの体の一部。だからあなたとわたしはひとつだね」って自然に言えるところなのです。手が足に向かって、「おまえはいらぬ」なんて言うはずがありません。教会はお互いにお互いが必要とし、みな助け合って神様をほめたたえているのです。【ゲーム】「3人で一人ゲーム」3人で一組になって、頭役、右手役、左手役を決める。頭役の人は、右手と左手に指示をだしてあやとりの「川」をつくってみよう。ただし「川をつくってください」という言葉は使わないこと。また手役は、勝手に動かず、頭役の言うとおりに動くこと。指示することのむずかしさ。指示を守ることの難しさが実感できるとよい。（『中部中会CSアイデア集』p30より）。【メッセージ】イエスさまはいつもあなたがたに正しい命令を出しています。でも私たちは罪のためにその命令がなかなかわからないでいます。もしわたしたちがイエスさまの命令を正しく理解できたら、きっとすばらしい教会になることでしょ。〈祈り〉

イエスさまのきずなで結ばれている教会にいつまでも集うことができますように。

〈目標〉教会はキリストの体であり、キリストが一人であるようにまことの教会も一つの「見えない教会」である。

〈展開例〉先週、私たちが「希望をもつ」ために必要なことは、イエス様(神様)の御言葉を聞くことであり、御言葉は教会の礼拝の場で最もよく語られているということを学びました。今日は、私達が毎週来ている教会について一緒に考えましょう。

○この世の「見える教会」

一口にキリスト教の教会と言っても、実にたくさん教会があります。この町にも、カトリックや、○○や、△△などのいろいろな教会があります。それぞれの教会は、それぞれ別々のグループ(教派)に属していて、各教会が独自の活動をしているので、まるでバラバラな存在のようにも見えます。なぜ、神様は一人なのに、こんなにいろいろな教派の教会があるのでしょうか。それは、私達人間が完璧な存在ではなく、欠けた所がいっぱいあるからです。そして、人によって欠け方が違っているからです。私達は神様に欠けた所を満たしていただきたいと願うのですが、その時に似た欠け方をした人々が集まっているのが、「教派」というものの元なのです。

しかし、イエス様は教会は本当は一つなのだと言われました。イエス様はキリストを信じる人々の集まりを「ぶどうの木」にたとえられました(ヨハネ 15:4-5)。ぶどうの木は遠くから見ると、天井だけの背の低い建物のように見えます。ぶどうの枝が広く広がって、それを枠で支えているので、からみあった枝がまるで天井みたくに見えるのです。しかしぶどうの木は枝だけで出来ているではありません。からみあった枝の真中にぶどうの木の幹がしっかりと立っています。そして、全ての枝はその幹につながって幹から水や栄養をもらっているのです。

この世の目に見えるたくさんの教会はぶどうの枝です。ぶどうの枝は絡み合いながら大きく広がっています。こちらとあちらのぶどうでは、遠く遠く離れてしまっているように見えます。目に見える教会は、教派によってはどうしても離れているようにも見えます。しかし、ぶどうの枝が一本の幹にしっかりとつながっているように、いろいろな教会も、イエス様という幹にしっかりと結びついているのです。

教会はキリストの体と言われます(エフェソ 1:23、

コリントー 12:12)。イエス様=キリストが一人であるのだから、幹は一本です。それにつながる「枝」はたくさんあっても、「キリストの体」である教会は一つなのです。この世の「見える教会は」ばらばらに存在するのようになって、「ただ一人のイエス様を救い主として信じる」という点で一つです。

○今は見ることでできない「一つの教会」

しかし、イエス様を信じる人でも、この世にある間は罪がまったくなくなってしまうのと同じように、この世の教会も完全なわけではありません。本当の意味での「キリストの体である一つの教会」は、イエス様を信じる過去・現在・未来のすべての人々が、イエス様のもとに集まる教会です。その教会をこの世の「見える教会」に対して「見えない教会」と言います。そんな教会はこの世の中にはあり得ませんね。歴史上の全てのクリスチャンがこの世の中で集まる事はできません。私達はもう天国に行ってしまったパウロやモーセには会えないし、これから生まれてくる君達の子どもたちにも会う事はできません。

イエス様を信じる全ての人が集まる時とは「救いの業が完成される時」です(エフェソ 1:10)。「救いの業が完成される時」とはいつなのでしょう。その時にどんなことがあるのか、イエス様はたとえ話として教えておられます(マタイ 13:47-50)。その時、イエス様を信じる私達はよみがえり、すべてのクリスチャンと共に裁きの場で、「この者の罪の罰は私がかわりに受けた」とイエス様に弁護して頂いて天国へと入れていただけます。その時、私達の欠けた所はすべて満たされて、天国でイエス様を中心とした真の一つの教会が明らかにされるのです。今の私たちは、「見えない教会」を見ることはできません。しかし、私たちが「イエス様は私の救い主」と信じるならば、私たちはそのまことのただ一つの「キリストの体」である教会の一員なのです。

〈祈り〉天の父なる神様、今日は、私達がこの世で集まる教会はいろいろな種類があつてばらばらのようになっているの、ただ一人の救い主イエス様につながる一つのキリストの体であるということを知りました。どうか、私達がイエス様を救い主と信じて、まことのただ一つのキリストの体である教会の一員となることができますように。

テキスト

ルカによる福音書 10章 25～36節

この箇所は、「永遠の命をめぐる問答」(25-29)と「善きサマリア人のたとえ」(30以下)のふたつの部分からなります。

〈永遠の命を受け継ぐには〉

ある律法の専門家が主イエスに、永遠の命を受け継ぐにはどうすればよいのかと質問します。主イエスは彼が、最も重要なふたつの戒め(マルコ 12:29-31)をみずから答えるように導かれます。

第一の戒めは申命記 6:5に、第二の戒めはレビ記 19:18にあります。このふたつの戒めは、すでにこの頃には結合して、律法全体を要約するような最高の戒めとして定着していたようです。

主イエスは彼に、それが正しい答えであり、それを実行すれば命が得られると仰せになります(28)。しかし彼は「わたしの隣人とはだれですか」(29)と問い返します。捕囚からの帰還以後、ユダヤ教が制度化されていく中で、しだいに律法主義的な色彩が強まっています。そうした過程において、ユダヤ人たちは「隣人」の範疇から、徐々に他の民族を排除していったということがあったようです。

その、隣人とは誰かという問いの答えとして、主イエスは 30 以下の「善きサマリア人のたとえ」をお語りになるのです。

〈憐れみ〉

ユダヤ人とサマリア人とは、当時敵対関係にあり、互いに言葉もかわさないほどでした。しかし、傷ついたユダヤ人の旅人を助けたのは、同胞の祭司やレビ人ではなく、サマリア人の旅人でした。

33の「憐れに思い」は、ルカ 15:20と同じ言葉が用いられています。つまり、放蕩息子を見いだした父が、内臓を揺り動かされるような思いで駆け寄った、それと同じ意味を持ちます(5/13の箇所

を参照)。

このサマリア人の旅人は主イエスそのお方であると考えてよいでしょう。神の愛と憐れみは無限であり、だれが隣人かというような枠を初めから設けないのだということが、ここにははっきりと示されています。その人が誰であろうと、目の前に悩み苦しみ傷ついている人がいたなら、彼こそが「隣人」なのです。

サマリア人の旅人にも、道を急がねばならない大切な用事があったかも知れません。しかしこの「憐れみ」は、あらゆる人間的な計算を度外視して、傷ついた旅人のもとに寄り添うのです。

37の「その人を助けた人」は、新改訳聖書では「その人にあわれみをかけてやった人」と訳されています。ホセア 6:6に「わたしが喜ぶのは愛(憐れみ)であっていけにえではなく」というみ言葉があります(主イエスはこれをマタイ 9:13で引用しておられます)。姦淫の妻ゴメルを救し、身銭を切って買い戻した預言者ホセアの愛は、み子の命という代価を払って罪人である私たちをご自分のものとして下さった神の無限の愛の反映です。

つまり、神がまず私たちの隣人となって、無限の愛を注いで下さった事実があるのです。私たちが隔てのない隣人愛に生きることができる(「行って」「同じように」(37)することができる)のは、この神の先行する愛ゆえです。その点で言えば、第一の戒めがあつてこそ、これを土台として第二の戒めが成り立つのです。こうして、神の愛に基礎づけられて、私たちはみ国の祝福を先取りするような愛の交わりを築くことを許されるのです(後に続く 10:38以下の「マルタとマリア」の記事が、この「善きサマリア人のたとえ」の律法主義的解釈を防ぐ役割を果たしていることをも思い起こしましょう。5/20の箇所参照)。

カテキズム 子どもカテキズム 問4
ハイデルベルク信仰問答 問4

子どもカテキズム

問4 私たちの神さまが私たちに望んでおられることは何ですか。

答 神さまを愛することと、家族やお友だちを愛することです。

〈神さまが望んでおられること〉

第一部「人生の目的」の最後の問いです。既述の通り、子どもカテキズムにとってこの第一部が土台となり、この一部を展開するのが以下の問答であります。ですから、繰り返しこれ以降の問答をこの第一部と呼応させて行くことがカテキズム理解と応用の鍵となります。

私共の神は私共に要求する神、望みを持つ神でもあられます。私共を愛する故にほかなりません。それが、律法であります。救われた私共は神の律法を喜んで生きる者として新しく造りかえられているのであります。神の作品として、良い行いに熱心な民としてイエス・キリストによって再創造していただいたのであります（エフェソ 2:10、テトス 1:14、コリント二 5:17）。その神が、生きる道しるべとして聖書、律法をお与えくださり、それによって私共は、神のお望みを悟ることができます。

〈律法を付与してくださった愛の神〉

もともと律法とは私共に対する神からの愛の手紙であります。「私は主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」という十戒前文において、神はまず「あなたの神」と語って下さり、私共が「(愛の)契約」の対象とされていることが明かされました。私共を救済して下さったお方でありたもうことが告げられました。「あなたの神」と名乗ってくださる故に、この神を「私たちの神さま」と呼びすることが許され、命じられるのであります。そのような神であればこそ、いつまでもこの神の愛の支配の中で、与えられた神の民としての自由、特権に生きるために私共に律法を付与していただきました。

〈神を愛し、隣人を自分のように愛する〉

主イエス・キリストはその律法の内容を「神を愛し、隣人を自分のように愛する」という二つの愛に生きることでありと囁められました。もとより、このまどめ方は主イエス・キリストの独自のものとは言えません。旧約聖書よりのものであります。しかし、改めてこのように主イエスがおまどめになられたことに心を動かされます。愛なる神を私共に見せてくださったのは、主イエス・キリストでした。主イエス・キリストにとって父なる神は愛なるお方なのであります。愛なる神が私共に望んでおられるのが、愛に生きることでありは当然過ぎるほど明らかなことでありましょう。

私共は神の子とされているのですから、神に見倣う者でもあります。神に愛され、その愛によって神と隣人とを愛する、これが私共の新しい生き方となります。倫理であり、目標となります。

〈説教展開例との関わり〉

神と隣人とを愛することを、善きサマリア人の譬えの物語を通して語ります。子どもの心に深い印象を与える物語です。良く分かるお話です。しかし、それだけに律法的に語られ、聞かれることが起こりやすいと思います。聖書研究で、善きサマリア人が主イエスであると指摘されています。福音として、何よりも主イエスの愛をここでも語りきりたいと思います。してこの愛を子どもらが今受けていると悟るまで。聖書研究で、マルタとマリアの記事が直後にあることの意味も指摘されています。あわせて重要なことでもあります。

聖書箇所 ルカによる福音書 10章 25 ~ 36 節
カテキズム 子どもカテキズム 問4

「善いサマリア人、神と人を愛する」

おはようございます。今日も、みんなと元気に教会に集まって礼拝を捧げることができてとても嬉し
いです。でも一番嬉しく思っておられるのは、天の
お父さま、わたしたちのイエスさまです。わたした
ちの神さまにもっとも喜んでいただくために、
わたしたちはどうすれば良いか知っていますか。

ある日、聖書の学者がイエスさまが本当の神さま
の言葉を教える先生かどうか試そうとして質問した
ことがあります。「イエス先生、何をしたら神さま
からの一番のプレゼントである永遠の生命をもらえ
るのでしょうか。」イエスさまは仰いました。「あ
なたも先生のはずでしょう。聖書になんと書いてあ
るか知りませんか。」するとその先生はちょっと怒っ
た顔つきを言いました。「神さまを愛すること
と、家族やお友達を愛することです。」イエスさま
は仰いました。「そうですね。それは正しい答え
です。それならそれを実行してご覧なさい。そうす
れば永遠の生命が得られます。」その時、この聖書
の学者は、イエスさまから本当は自分が神さまに喜
ばれる事を行っていないと言われたのがくやしくな
りました。そこで、イエスさまに言いました。「わ
たしの友達って、一体誰と誰のことですか。」

するとイエスさまはこんなお話をなさいました。
「ある人が旅行をしていました。エルサレムの神殿
に行つて礼拝を捧げ、自分の村のエリコに帰つてゆ
こうとしています。すると、途中で、泥棒が襲つて
きました。持っているお土産だけでなく着ている服
もはぎ取られ、もう動けなくなるまで殴られました。
神殿で働いているある祭司さんが通りかかりまし
た。その人は、倒れている人を見ると、その道の向
こう側を通つて行つてしまいました。その後で、今
度はレビ人と言って、先程の祭司さんが選ばれる家
柄に属する人が通りかかりました。すると、その人
も、血だらけで倒れている人を見て、その道の向
こう側を通つて行つてしまいました。その後で、今
度はサマリア人と言って、イスラエルの人達からあの

人達は神さまを信じていない悪い人達と言われて、
そのためにお付き合いもしていなかった人が通りか
かりました。」

さて、みなさんはこのサマリア人はどうすると思
いますか。やっぱり道の向こうに行つてしまふで
しょうか。だって、彼らはいつもイスラエルの人々
からは、「サマリア人は神さまを知らない、我々は
サマリア人と口を聞いてはいけない」と言われてい
たのですからね。イエスさまのお話の続きに戻りま
しょう。

「このサマリア人は、そばに来てその人を見まし
た。そしてかわいそうにと思つて傷口に持っていた
お薬をぬつて、包帯をしてあげました。そして自分
の乗つて来たロバに乗せて、近くの宿屋さんまで運
びました。そして一生懸命介抱し続けました。次の
日、この人はどうしても先を急がなければなりません。
持っていたお金をほとんど出して、宿屋さんにお願
いしました。倒れて寝ているあの人を介抱してあげ
てください。お金が足りなければ後でお支払いしま
すから。」

さて、このお話が終わるとイエスさまは、先程の
先生に質問しました。「あなたはこの三人の中で、
だれが強盗に教われた人のお友達になつてあげた
と思いますか。」聖書の学者は答えました。「助けてあ
げた人です。」そこで、イエスさまは仰いました。
「行きなさい。あなたもあのサマリア人のように、
誰かのお友達になつてあげなさい。どんどんお友達
になつてあげなさい。」

イエスさまはこのお話をどうして教えて下さつた
のでしょうか。イエスさまを試そうとした学者は、
神さまが何をしてほしいと願つておられるのか、何
が正しいことなのか知っていましたね。イエスさま
も、「あなたが言うことは正しいです。」と仰いま
した。でも、イエスさまは、知っているだけではだ
めですよ。知っているなら、本当にその通り行いな
さい。行わなければ本当に知っていることにもなり
ません。そう仰つたのです。あの学者さんは、一体

その後どうなったのでしょうか。わかりません。

さて、このイエスさまのお話はそれだけで終わらせてはいけません。僕たち私たちが、神さまが望んでおられることは、神さまを愛し、お友達を愛することですと学びました。そして、お友達っていうのは、待っていてはだめ、自分の方からお友達になってあげることでしょって学びました。でも、それは、とてもむづかしいことでもあるでしょう。

もしも、そのような神さまに喜ばれることが出来なければ、私たちは神さまからの一番のプレゼント、救われて神さまの子どもにさせていただけないのでしょうか。違いますね。僕たち私たちが、主イエス・キリストを信じて救われるのです。だから、初め頃から、あの聖書の学者さんは、間違ってるのですね。神さまに愛されるために、神さまのプレゼントをいただくために何か良いことをするのではないのです。イエスさまに愛され、救われ、神さまの子どもにして頂いているから、神さまを愛しお友達を愛するのです。

イエスさまがお話されたあのサマリア人って一体誰のことでしょう。「わたしは善いサマリア人のようにしています。」って胸をはって言えるお友達はいますか。善いサマリア人とは、本当はイエスさまのことなのです。イエスさまこそ、道端に倒れているような私たちを助けて下さり、介抱して下さったのです。イエスさまは、私たちの本当の友達となってく下さったのです。私たちが本当に愛してく下さったのです。イエスさまは、十字架で私たちの身代わりに死んで下さったお方なのですから。だから、イエスさまは僕たち私たちに仰つきます。「私はあなたを救うために十字架につくほど、あなたを、愛しています。その愛をありがとうって感謝できるなら、あなたも、心から神さまを愛することができるはずですよ。お友達を愛することができるはずですよ。失敗しても、大丈夫です。何度でもやり直してごらん下さい。それが、神さまがあなたに望んでおられることです。」

今週の暗唱聖句

イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。

『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』

第二の掟は、これである。

『隣人を自分のように愛しなさい。』

この二つにまさる掟はほかにない。』

マルコによる福音書 12 章 29 ~ 31 節

【ペンテコステ（聖霊降臨日）】について

五旬節とも言います。復活日（イースター）から 50 日目、昇天日の 10 日後の日曜日。降誕日（クリスマス）、復活日とともにキリスト教会の三大祝日のひとつです。聖霊が使徒たちの上に降った日の模様は、使徒言行録 2 章 1 節以下に記されています。ペンテコステはキリスト教会の誕生の記念日でもあります。

聖霊は主イエスによって成し遂げられた十字架と復活の恵みを全地の民たちに分け与え、被造世界に神の救いのみわざを完成するために遣わされたお方です。ペンテコステは主イエスの救いのみわざの完了と終結を示すと同時に、救いの歴史が御子の時代から新しい時代、すなわち聖霊（教会）の時代に移行したことを告げる出来事となりました。

〈こどもへの質問〉

Q1. 強盗に襲われて道に倒れている人のそばを祭司さんと、レビ人、そしてサマリア人が通りかかりましたが、この中で誰が倒れている人の本当の友だちだったのでしょうか？

そう、倒れている人を一生懸命介抱し続けたサマリア人だよ。

Q2. イエス様を試そうとした聖書の学者は、サマリア人が倒れていた人の本当の友達であったことを知っていましたが、イエス様はこの学者に何ておっしゃったのでしょうか？

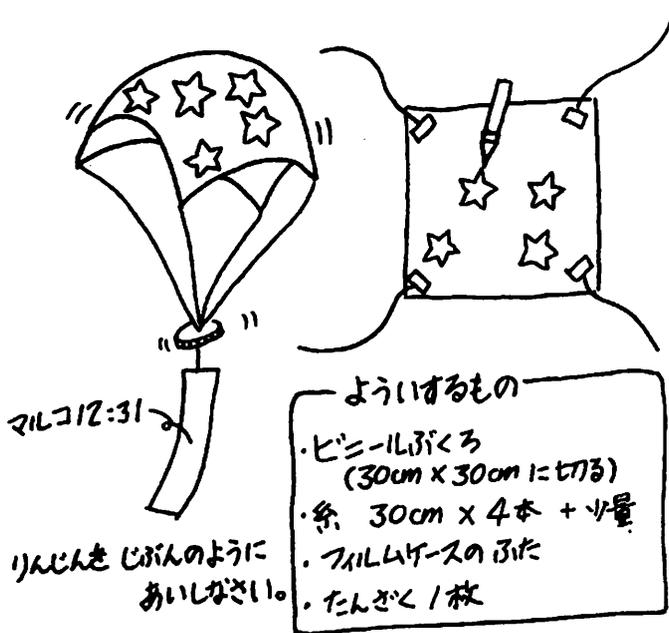
そう、「行ってあなたも同じようにしなさい」っておっしゃったんだよ。

神様が私たちに一番望んでおられることは、このサマリア人がしたように自分のまわりにいる人々を愛することだったんだよ。

〈お祈り〉

天の父なる神様、神様を愛することと、私たちのまわりにいる人々を愛することを神様が一番望んでおられる事を知りました。どうか、私たちが主イエス様を救い主と信じて心から喜んで神様を愛し、お友だちを愛することができますように導いてください。主イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 パラシュート



- ① 正方形に切ったビニールの四隅に4本の糸の片はしをセロテープでとめる。
- ② 油性マジックで絵をかき。
- ③ 糸のはしを結んでフィルムケースのふたにはりつける。
- ④ たんざくに聖句を書き、糸をつけてフィルムケースのふたにくっつける。
- ⑤ 高い所から落として遊ぶ。

〈目標〉

イエス様がまず、私たちを隣人として愛してくださいました。その愛に動かされ、私たちもまた、神様を愛し、隣人に仕える人となることを神様は求めておられる。

〈展開例〉

1. お話を振り返る

①「親切なサマリア人」のお話しの登場人物をあげてみる。

聖書を聞いて名前をあげさせ、紙に書く。

旅人

追いはぎ（泥棒）

祭司（神殿で働いている偉い先生）

レビ人（祭司のお手伝いをする先生）

サマリア人（ユダヤ人と仲が悪い）

宿屋の主人

②それぞれがどんな行動をとったかを考える。

③私の隣人とは

あなたの近くで助けを必要としている人。

お友達になってほしいと思っている人はいないか。

親切にできる人とできない人がいるか。

学校での友達との関係や困ったときのことなどを話し合う。

④親切なサマリア人とは・・・イエス様のこと

⑤「行って、あなたも同じようにしなさい。」

私を愛してくださるイエス様が、隣人になれるように助けてくださる。

2. ペーパーサートをつくる

〔用意するもの〕

厚紙、割り箸、両面テープ、

カラーマジック、ハサミ、ホッチキス

登場人物のそれぞれの絵を表と裏に描く（裏側には後ろ姿を描く）。教師が絵を描いておいて、色をぬってもらってもよい。両面テープで貼り合わせ割り箸を刺す。ホッチキスで割り箸を固定する。



（旅人）



（追いはぎ）



（祭司）



（レビ人）



（サマリア人）



（宿屋の主人）

※出来上がったら、劇をしてみる。

〈祈り〉

天のお父さま、イエス様が、私たちの隣人となってくださったことを感謝いたします。私たちも神様の子供として、私たちの近くにいるお友達の隣人となることができるようになりますように。

〈目標〉

神様から愛されていることを覚え、その愛を更に友だちに示していく。

〈指導上の心得〉

自分がなかなかできないことを覚えて話し合う。

〈展開例〉

今日は良いサマリア人のお話を聞きましたね。そのお話の中で、良いサマリア人はイエス様で、イエス様は私たちが本当に愛して下さったことを聞きました。その愛は、どういう風に示されたでしょうか？…。そう、十字架で示して下さったんだね。そのイエス様が私たちが愛して下さっているように、私たちもお友達を愛するようになろうって言われたね。

でも、どんなお友だちとも仲良くなって、そのお友達を愛するっていうのはすごく難しいことです。だって、苦手なお友達もいるし、どうしても仲良くできないお友達もいるものね。仲の良いお友達を愛することは簡単だけど、仲の良いお友達を愛するのは難しいですね。

それは何でだろうね？難しいね？それじゃあ、お話の中で、イエス様に愛されている私たちは、その、イエス様の愛をどのように感じる事が大事だって言われたかな？…。それは感謝することだって言われたよね。感謝するっていうことは、イエス様が愛して下さっていることをとでも嬉しく思って、ありがとって思う心だよ。そのように思うことが、大事なんだね。そして、イエス様が愛して下さっていることを感謝することができれば、人を愛することができるんだね？

それは、どうしてだろうね。例えば、みんなは誰かに優しくされたときどう思うかな？嬉しいなって思うよね。で、嬉しいと思ったら、誰かに同じことをしてあげたいって思うよね。それと同じで、イエス様が私たちが愛して下さっていることを本当に嬉しく思うなら、それを人にもしてあげることができるんだね。

このように、私たちが人を愛することができるのは、イエス様が私たちが愛して下さる愛に押し出されてであると、覚えてください。

〈目標〉

神と隣人への愛に導かれる

〈指導上の心得〉

「愛する」という言葉はわかっているようでわからない言葉である。子どもにとって、親や兄弟を愛することは実感できても、友達を愛するということがピンと来ないようである。

コリントⅠ 13章にあるとおり、愛は一言では説明できない。今日は、愛するということは単に好きということとは違うことをおさえてみよう。

〈展開例〉

【考える】好きな友達・先生（上司）、嫌いな友達、先生（上司）の名前とその理由を紹介し合ってみよう。次に嫌いな人の良いところはあるか。また好きな人の悪いところはないか考えてみよう。誰でも長所、短所がある。好きな人には悪いことはやめようとはっきり言えるように、また嫌いな人も悪いところばかりでないことをおぼえ、その人を許す心が与えられることを祈ろう。

【メッセージ】愛を一言で説明することはできませ

ん。与えること、ゆるすこと、しかること、助けることなど、愛はいろいろな言葉で言い換えることができるほど、深い意味があるのです。私たちはなかなか善きサマリア人のようにはできません。私たちができるのは、まず「神さまを愛すること」そこからイエスさまの愛が私たちのうちに現れ「隣人を自分のように愛する」力が与えられるのです。

【暗唱聖句ゲーム】今日の箇所は長いので、次の要領でおぼえてみよう。マルコ 12:29-31 を三つに区切り別々の紙に書く。三人（グループ）に紙を配り、二、三回読むようにする。それぞれの紙を五つくらいに切り、全部を混ぜ合わせる。ヨーイどんで自分が読んだ御言葉を集める。暗唱してみる。次に御言葉を交換し、同じようにする。次にまた御言葉を交換し、同じようにする。最後に全部暗唱してみる（意外と覚えらるるものです）。

〈祈り〉

私たちが神さまを愛し、家族やお友達を愛することができますように。

〈目標〉私達が「神と人を愛する」ために、私達が知らなければならないこと。

〈展開例〉今日の聖書箇所は有名な「善きサマリヤ人」のお話です。

○神様の求めておられること

イエス様を試そうとした律法学者は、神様が私達に求めておられる事を正しい知識として知っていました(10:27)。イエス様ご自身も同じことを教えておられます(マルコ 12:29-31)。そして、イエス様は、このたとえ話を通して、「あなたの隣人とは、あなたの友達だけではなく、あなたのまわりにいる全ての人のことだ」と教えてくださいました。神様が私達に求めておられることは、神様と私の周りにいるすべての人を愛するということです。しかし、私達にそんなことができるのでしょうか？

○キリストによって「あるべき姿」に立ち返る

私達は、もともとは神様に従うために創られたのに、自分が神様になって好きなようにしていたという「罪」を持ってしまいました。ですから、生まれながらの私達は神様を愛するよりは、神様に背を向けていたいと思うものです。そして、自分が神様になりたい、自分が一番でいたい、と思うものですから、私の周りにいる人たちのことを、すぐにねたんだり、低く見たり、腹を立てたりするのです。

それでは、イエス様は私達にとでもできないようなことをしなさいとおっしゃるのでしょうか。そうではありません。私達がキリストに付いて聞き、キリストに結ばれているなら、私達は「神にかたどって造られた新しい人」を身につけます(エフェソ 4:17-24)。「神にかたどって造られた人」とは、まさに神様が創造された時の、神様に従うように造られた人のことです(創世記 1:27)。私達がキリストに結び付けられるなら、私達は人のももとの姿、「あるべき姿」に立ち返ることができるのです。

○神様に愛されている私達

キリストに結び付けられるというのは、イエス・キリストを自分の救い主として受け入れることです。イエス様が私たちの救い主として神様から与えられたのは、神様が私達のことを「価高く、貴い」と言って愛してくださったからです(イザヤ 43:4)。だれよりもすばらしい神様に「価高く、貴い」と言っていただけるなんて、とても素晴らしいことです。

私は神様の前には何の良い事も出来ないのに、神様は私を愛してくださるのです。それは神様からの一方的な思みです。この素晴らしい神様の愛が、私達を造り替え、私達に神様を愛する事ができるようにしてくださるのです。

○だから隣人を愛することができる

隣人を愛することを考えましょう。サマリヤ人が敵対するユダヤ人を助けたように、イエス様は「敵を愛しなさい」と教えておられます(マタイ 5:44)。ローマ 12:10には、お互いに相手を優れた者として尊敬しなさいとあります。これは神様を愛する事より難しいように思われます。しかしここでも、神様が私を愛してしてくださる、ということが大切です。

イエス様は「自分を愛するように隣人を愛しなさい」とおっしゃいました。私達はまず、自分を愛する必要があるのです。そして、私は神様から「価高く、貴い」と言っていたいただき、身代わりにイエス様を差し出されるほどの存在なのです。私は、神様にそれほどまでに愛していただける、貴い存在なのです。私は自分自身を好きになってよいのです。そして同時に、私の周りにいる人たち一人一人も、神様に「価高く、貴い」と言って頂いている存在なのです。その人たち一人一人のためにも、イエス様は十字架にかかれたのです。どうしても好きになれない人というのは残念ながら確かにあります。しかし、たとえ好きになれなくても、その人も私と同様に神様に愛されているのだと知るなら、私達はその人のことを、神様に貴いと言って頂ける「優れた人」として尊敬することはできるのではないのでしょうか。

神様は私達にけしてできないことを要求されているわけではありません。私がイエス様を救い主と信じてキリストに結び付けられているのなら、私が神様に愛されている事を知ることができるし、周りの人達も神様に愛されている事を知ることができます。そのことが、私達が神と人々を愛するために知らなければならない基本のことなのです。

〈祈り〉天の父なる神様、あなたが私達に求めておられる「神と人々を愛すること」は、私達がイエス様を信じてキリストに結び付けられているからこそできることを学びました。私が神様に愛されている自分を大切に、同じように神様に愛されている人々を尊敬して愛する事が出来ますように。

テキスト ベトロの信徒への手紙 二 1章 16 - 21節

使徒ペトロはこの箇所、福音の真理の確かさが、イエス・キリストの歴史のみわざそのものに基づくものであり、そのイエス・キリストご自身から福音のみ言葉を委ねられているからこそ、使徒たちの語る言葉には権威があることを伝えます。また、キリストのみ言葉を解釈する際には自己流の解釈を戒め、聖霊の導きに委ねるべきことを命じています。これらのことは聖書解釈におけるたいへん重要な前提です。

ペトロがこれらのことを述べねばならなかった背景としては、宛て先の教会（小アジアの教会？）にいわゆるにせ使徒たちが侵入し、イエス・キリストが主であることを否定し、また主イエスの再臨を作り話に過ぎないとして嘲笑していたということがありました（2章）。

16の「わたしたち」（1:12-15では「わたし」となっている）は、使徒たちの語るみ言葉が個人的なものではなく、公同的な権威を持っていることが暗示されています。それは個人の教えではなく、彼らが等しく受けた「キリストの」教えです。

16の「巧みな作り話」は、にせ使徒たちの、歴史的な神のみわざに基づかない説教のことを指すものと思われます。

救いの確かさは、福音の歴史的事実そのものの確かさ、すなわちイエス・キリストの受肉、十字架、復活、聖霊の降臨、そして再臨にこそあります。神

ご自身の啓示こそが、教会と個々のキリスト者の立つべき揺るがぬ基です。

救いの確かさは、人間の側で確保したり証明したりするものではありません。人間の側の何らかの体験や、人間が考え出した教えや理論は、救いを保証するものではありません。救いの確かさは神ご自身がなして下さったことにこそあるのです。

ここでは使徒は、キリストの再臨について語っていますが、その再臨の確かな予兆として、主イエスの山上での変貌の出来事（マタイ 17:1-8、マルコ 9:2-8、ルカ 9:28-36）を挙げています。使徒ペトロは、ヨハネ、ヤコブとともに、この出来事に立ち会ったのです。

19の「預言の言葉」は、旧約聖書全体のことで、使徒は旧約聖書も、靈感された神の言葉であり、イエス・キリストを証しする書（ヨハネ 5:39、テモテニ 3:16）として承認しています。「明けの明星」とは、再臨のイエス・キリストをたとえたものと考えられます。

20では、聖書の自分勝手な解釈を戒めます。聖書は、著者である聖霊ご自身の導きに従って解釈されねばなりません。同時に、聖書を解きあかす使徒は、人の権威によってではなく、イエス・キリストご自身の御名によって公的に召された者であるゆえに、彼の解きあかす言葉には罪人を救う権威があるのです。

子どもカテキズム

問5 私たちがそれらを知るために神さまが与えてくださったものは何ですか。

答 聖書、神の御言葉です。

ウェストミンスター小教理問答

問2 わたしたちが神の栄光をあらわし、神を喜ぶために、神はどのような規準を与えられましたか。

答 神は、わたしたちが神の栄光をあらわし、神を喜ぶように導くために、ただ一つの規準として、神の言葉を与えられました。それは旧新約聖書です。

〈なぜ聖書が必要か〉

問1から4を受けて、この問答が語られます。「それら」とは、「何のために生きるのか」、「すべきことは何か」、「神が望んでおられることは何か」、それらを何から知ることができるのか、何から教えられるのかということです。すなわち、それらを「聖書、神の御言葉」から教えられると答えます。

ここには、第一に、「聖書、神の御言葉」の必要性が示されています。神は、自由な意志を持つ人格的な存在として人間をお造りくださいました。しかし、自由な意志を持つとは、何をすることも勝手であるということではありません。神との交わりの内に生き、自らの思いを神の御心に重ねることが求められました。しかし、最初の人であるアダムとイブは、自由な意志をもって神の御心に背き、罪を犯しました。「自由」とはたいへん奥が深い事柄です。金魚が水槽の中を泳いでいます。狭い水槽よりも広い世界のほうが良かろうと空中に出すならば、金魚は死んでしまいます。自動車で、道路ばかりを走っているのはつまらないと言って道路の外を走ろうとするならば、事故の危険を冒すことになります。金魚は水の中を泳ぐときに自由なのであり、自動車は道路上を走るときに自由なのです。そのように、私たち人間も神に造られた存在として造り主なる神の御心に従うところに真実の「自由」があります。ですから、神の御心を知ることが必要なのです。

〈神の御言葉としての聖書〉

神の御心は、聖書を通して私たちに教えられています。神は、自然界を通しても語っておられますが、私たちの目は覆われており、そこから正しく神の御心を知ることはできません。そのため、私たちが神

の御心を求め、神の御心を正しく知ることができるように、神御自身が聖書をお与えくださいました。

「あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯」(詩編 119:105)。私たちの人生が神を礼拝し、神の栄光をあらわし、神を喜ぶことであるための、ただ一つの道しるべが聖書です。

〈聖書の権威、信頼性〉

聖書という書物が信頼できるのは、それが神の御言葉であるからです。ウ小教理はこのところで、「旧新約聖書」と語っています。これは、そのほかのところに神の御言葉があるという考えを斥ける言葉です。旧約統編(外典)や教会の言い伝え、人間的な知恵は、大切にされるべきではありませんが、そこに神の御言葉があるわけではありません。「旧新約聖書」に神の御言葉があるのであり、聖書 66 巻が神の御言葉です。この 66 巻を正典と言います。

〈聖霊の働きとキリスト証言〉

神は、私たちに聖書を与えるために、聖霊に満たされた預言者と使徒たちをお用いになりました。聖書は、預言者と使徒たちが聖霊に導かれて書き記しました。ですから、人間の言葉で記されているのですが、誤りや罪から守られました。また、神の御言葉としての統一性があります。そして、この言葉は、「御父と御子イエス・キリストとの交わり」を持つようになるために書き記されました(ヨハネの手紙一 1:3)。今も、聖霊に導かれて聖書を読むときに、神が私たちに語りかけてくださり、キリストを証ししてくださいます。それは、とりわけ教会の礼拝においてです。礼拝において御言葉を聴くことによって、神は今も私たちに語りかけてくださり、主イエス・キリストと出会わせてくださるのです。

聖書箇所 ベトロの手紙 二 1章16～21節
カテキズム 子どもカテキズム 問5

「神からの言葉、聖書の権威」

おはようございます。今日も、みんなと元気に教会に集まって礼拝を捧げることができることを神さまに感謝します。私たちは日曜日に教会に集まって神さまを礼拝します。礼拝では賛美歌を歌ったりお祈りします。けれどもその中の中心は聖書のお話を聴くことですね。神さまは聖書を通して、僕たち私たちに神さまのこゝと、神さまのお考えを伝えてくださるのです。今日は、聖書について学びましょう。

皆さんは聖書を持っていますか。持っている人は、聖書を見て下さい。今度は、先生の聖書を見て下さい。とても分厚いでしょう。実は、みんなの持っている聖書は新約聖書と言うのです。聖書は、旧約聖書と新約聖書と二つそろって聖書と呼ばれます。旧約聖書は 39 巻の色々な本が一つに集められたものです。新約聖書は 27 巻のいろいろな本が一つに集められたものなのです。つまり旧新約聖書をあわせると、39 + 27 ですから 66、その 66 巻で聖書と言うのです。旧約聖書というのは、イエスさまが地上にお生まれになる前までの神さまからの約束のことが書かれています。新約聖書は、イエスさまがお生まれになった後のことが書かれています。

それなら、この聖書は誰が書いたのでしょうか。一人の人だけで書いたわけではありません。およそ 40 人の人達が書いたのです。その 40 人の人達は皆で集まって、「さあ、これから何を書きましょうか。」と相談したのでしょうか。

皆さんは「文集」というものをつくった事がありますか。中学生のお友達は小学校6年生の時に、卒業文集と言うものをつくったではありませんか。あるいは、遠足とか修学旅行から帰ってきて感想文を皆で書いてそれを一冊に纏めたというようなことはありませんでしたか。だいたい、文集を作るときには、編集長というような人を決めます。その人が、あの人にはこれを書いてもらって、この人にはこのことをかいてもらってと言うように、役割を決めるのです。たとえば、一つのクラスのお友達み

んなにこう言うとしましょう。「何でも好きなもの、好きなことを書いてください。それを一冊にまとめます。」そして、次の日に 40 人のお友達がそれぞれ書いてきたものを学校に持ってきます。そうすると、どうなるでしょうか。あるお友達は、最近観ているテレビアニメの事を書いてくる人がいるかもしれません。あるお友達は、最近飼いはじめたペットのラブちゃんのことを書いてくる人がいるかもしれません。その他に、自分の趣味だとか、自分が将来やりたいものだとか、夢についてだとか、もういろいろバラバラで様々な事柄が書かれると思います。だから、誰かが「これこれについて書いてきてください！」と言わなければまとまった本にならないのです。

聖書を書いた 40 人ほどの人たちは色々なお仕事をしていました。その中には、王さまがいました。お医者さんもいました。学者さんもいます。お役人さんもいます。神さまの言葉を特別に語る預言者の人達も大勢いました。と思うと、羊飼いや、漁師さんたちもいます。本当にいろいろな人達が書いているのです。それこそバラバラです。それなら、よっぽどよく相談して「あなたはこのことを書いてください。わたしはこのこと、そしてあなたはそのこと」というようにしたのでしょうか。そうではありません。なぜなら、実は、この聖書は同じときに「いつせいのせつ」といって書いたものではないからです。およそ 1500 年ほど時間をかけて一冊の、66 巻の聖書は書かれたのです。そういう訳で、この 40 人は一つのところに集まって相談して書いたものではありません。

それなのに、聖書はばらばらでまとまりがない本ではなくて、一つの同じ内容が書かれているのです。どうして、そうなったのでしょうか。その理由はただ一つ、つまり、この聖書は人間が書いたものですが、聖書の本当の著者、書いた人は神さまだからです。神さまが神さまのことを伝えるために、聖書を 40 人ほどの人達に書かせなされたのです。神さま

はお一人ですから、その神さまが書かせられたので、書いてあることがバラバラではないのです。神さまは聖書を書くようにされた人たちに、聖霊なる神さまを注いで下さいました。神さまが語りたこと、伝えたいことを誤りなく、一つの間違ひもなく書かせられるためにです。こうして、聖書は人間の言葉で書かれているのですが、「神さまのみ言葉」なのです。

聖書には、神さまのみ言葉が記されています。神さまは、私たちをそして世界や宇宙をおつくりくださったお方です。そのような神さまですから、人間がどんなに努力しても、がんばっても分からないことを教えてくださることができるのです。ぼくたち私たちが一番聞きたいこと、そして知らなければならぬことが書かれてあるのです。たとえば、世界はどのようにして造られたのかとか、人間は死んだらどうなるのか、神さまは本当におられるのか、これから将来どんなことがおこるのか、です。学校の先生も、お父さんお母さんも分からないし、教

えてくださらないこともきちんと書かれているのです。

神さまの御言葉が記されているのはこの 66 巻の聖書だけです。ですから聖書は特別の本なのです。英語の辞書を開くと「本=ブック」と開いてみると、聖書と出てきます。つまり、聖書は本の中の本、本の王様なのです。世界中で一番読まれている本は、聖書です。他の本とは全く比べられないほどです。だから、みなさんはこの聖書を大切に大切にしてください。大切にするって言うのは、机や鞆のなかに大切にしまっておくことではありません。少しづつ読むということです。上級のお友達は、教会学校で開いた聖書の箇所は家でも読んでください。分からないところは先生に質問してください。聖書は分かりにくいところもありますが、教会で聖書のお話を聞いて読むと分かるようになります。先生も、皆さんにお話できるのは、大人の礼拝式で説教を聞いているからなのです。神さまは、今日も僕たち私たちに聖書を通して語りかけておられるのです。

今週の暗唱聖句

なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

ペトロの手紙 二 1章 21節

「花の日」について

日本では、5月5日が端午の節句に基づく「こどもの日」として国民の休日になっていますが、アメリカのキリスト教の文化の中では、6月第二日曜日を「こどもの日」と言います。アメリカでは、6月の半ばに学年が終わります。1868年、学年の終わりの日曜日に、アメリカのメソジスト・エピスコパル教会が「大人と子どもの合同礼拝」を行って、子どもが暗唱聖句などを発表し、歌をうたい、日曜学校のまとめを行いました。それが、「こどもの日」の起源とされます。場所によっては花が豊かな季節であり、花がたくさん飾られました。そのため、「花の日」として日本に輸入されたようです。

今では、「こどもの日」としてだけでなく、花を飾ることを通して創造主なる神を賛美し、隣人への愛をあらわす日として用いられています。公共施設や病院、老人ホームなどを訪問し、聖句カードを添えて花を贈ることがよく行われています。

日本では、この日は年度の終わりではなく、また春の花が終わったあとの時期になります。また、ペンテコステと重なることもありますから、この行事を行うには時期をずらすなどの工夫も必要になります。

〈こどもへの質問〉

Q1. 聖書は新約と旧約とあわせて何巻あるでしょうか？

そう、66巻でしたね。

1500年ほどかかって40人くらいの人たちによって書かれたんだよね。

Q2. それでは、聖書には誰の御言葉が書いてあるのでしょうか？

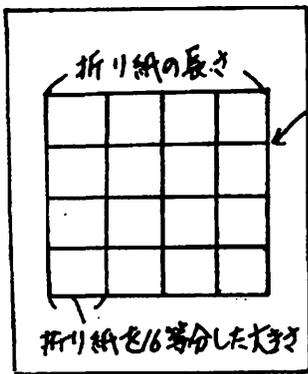
そう、神様の御言葉が書かれているんだよね。

私たちが知らなければならない大事なことが全部この聖書の中に書かれているんだよね。

〈お祈り〉

天の父なる神様、聖書は神様の御言葉であることを知りました。どうか私たちがこの聖書の御言葉を正しくわかるように助けてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

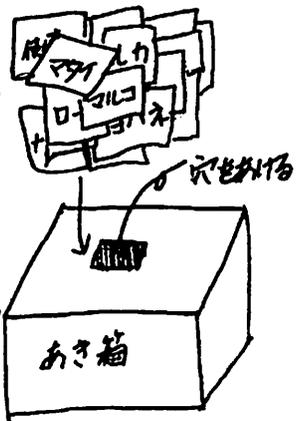
ゲーム **ビンゴ**



① 人数分の台紙を用意しそこに4マス×4マスのマス目を書いておく。

② 折り紙を16等分したものを16色分用意し色別にマタ・ミルコ・ルカヨハネ・使徒など聖書箇所を書いておく。

③ 16色を一まとめにし、フリップで止めておくといふ。



④ ③をそれぞれの子供に配り、マス目の好きなところに好きな色の紙を並べてもらう。

⑤ 箱の中に16色の紙を入れ、箱をひっくり返して出てきた色からうらがえしてもらふ。

⑥ たて、よこ、たがねにそろった人が勝ち

〈目標〉

聖書こそ私たちに与えられた神様の御言葉であることを教える。

〈指導上の心得〉

聖書が神の言葉であることの確信を新たにしつつ、それこそが、私たちの生活の規範であることを頭に置いておく。

〈展開例〉

ここに聖書があります。この中には何巻のお話が入っているって教わったわけ？そう 66 巻だよ。この聖書の中のお話は、全部関係のないことが書かれているのかな。違うよね。66 巻の聖書は沢山のお話が入っていて、沢山の人が何年にもわたって書いたのに一つのことを書かれてるんだよ。だから、聖書ってとっても不思議な本なんです。

でも、なんで、何年もかけて、一つのテーマでお話がかけたんだってわけ？ちゃんと覚えてる？…。そう、神様が聖書を書いた人に聖霊をお送り下さって、神様が語りたこと、伝えたいことを一つも間違いなく書かせてくださったんだよ。それじゃあ、

その神様が私たちに与えてくださった言葉は、何を教えてくださってるんだって？そう。イエス様が地上に来られるまでの神様のお約束とイエス様がお生まれになられたあとのことが書いてあるんだよ。そのことを、私たちに教えてくださるために、神様が人間を用いて書かせてくださったのです。だから、聖書は神様の言葉なんだよね。

聖書は、神様が書かせられた、神様の言葉だって教わったよね。でも、聖書って大昔に書かれたものだよ。そしたら、イエス様のこと以外は僕たちにとって何にも関係ないのかな？どう思う？

聖書は神様が与えてくださった、間違いのない神様の言葉だってお話で聞いたよね。それは、イエス様のことだけを教えているということではないんです。私たちの信仰と生活に必要なこと、もう少し言葉を交えて言うと私たちが神様を悲しませずに生活するために必要なことも教えられているのです。

聖書は神様が人間を用いて、私たち人間のために書かれた書物で、私たちが神様を信じて生きていくのにとっても大事な書物なんです。

〈目標〉

聖書は預言者や使徒たちが、聖霊によって書いた神の言葉であることを知る。

〈指導上の心得〉

以下の展開例は、聖書は聖霊によって導かれたゆえに神の権威があることに加え、聖書の中心がイエス・キリストであることに触れている点で、次週と内容がだぶった構成である。

〈展開例〉

【読む】聖書はイエス・キリストについて書かれているものです。イエス・キリストの預言は多くの人々に告げられました。アダムに創世 3:15、アブラハムに創世 17:1-8、モーセに申命 18:15、ダビデにサム下 7:12、イザヤにイザヤ 7:14、エレミヤにエレ 23:6、ミカにミカ 5:1、ゼカリヤにゼカ 6:12。このように 1500 年もの長い間、同じ預言が繰り返し告げられました。これらの預言は決して人間の意志によって語られたものではありません。これらの人々は、聖霊に導かれて神の言葉を語ったのです。だからこそ聖書に権威があるのです。

【暗唱聖句】ペトロニ 1:16-21。

【メッセージ】旧約の人々は、イエス・キリストをまだ見ないけど、信じて待ち望んでいました。私たちもイエスさまに直接お目にかかれなくても、信じて待ち望んでいます。旧約の人々も、私たちも、信じて救われるのです。聖書は神様の自己紹介です。神様はイエスさまを通して自己紹介されました。そのイエスさまについて、ますます教えられたいと願います。

【工作】〈系図づくり〉聖書を見ながら、紙に（ノートでも模造紙でもよい）アダムからイエス・キリストまでの簡単な系図をつくってみよう。事前にヒント（聖書箇所）が示してある、穴うめ方式の系図をつくっておいてもよい。旧約の長い歴史の流れをつかむとともに、旧約の歴史はイエスキリストへとつながっていることをおぼえよう。

〈祈り〉

聖書をとおして、イエスさまのことがますますわかりますように。

〈目標〉聖書は神様の導きによって書かれた神の言葉であって、けしてまちがいのない書物である。また、神様の言葉である聖書はけして自分勝手に解釈してはならない。

〈展開例〉先月、神様の御言葉は聖書を通して今も私達に語られているという事をお話ししたことがあります。覚えていますか？

○神様の霊の導きによって書かれた「聖書」

聖書は神様の言葉だというのですが、実際にはモーセやイザヤやヨハネやパウロといった人達が書いています。それでも、本当に神様の言葉なのでしょうか。聖書に書いてあることに間違いはないのでしょうか。聖書は神の霊の導きのもとに書かれました(テモテニ 3:16)。でも、それは聖書を書いた人達が全くのロボットかテープレコーダーのようにあやつられていて、自分の知らないうちに文章を書いていたということではありません。ルカは、イエス様のなさった事やお話しになったことを「ルカによる福音書」に書くにあたって、自分でいろいろと調べました(ルカ 1:3)。その調べたり書いたりしている時に、神様の霊が働いて、神様は聖書記者のいろいろなたまものを生かして用いて、神様の言葉が間違いなく書き残されるようにしたのです。そして、聖書はけっして「作り話」ではありません(ペトロニ 1:16)。聖書の記者たちは「キリストの威光」=キリストの素晴らしさを、神様の霊の導きによって目の当たりに見ることができたのです。聖書に間違いが無いのは、聖書は全く正しくて誤りのない神様によって書かれた物だからです。

○聖書が神様の霊によって書かれた証拠

では、聖書が神様の霊の導きによって書かれたのだという証拠はどこにあるのでしょうか。旧約聖書には、神様ご自身が直接命令されている箇所があります(出エジプト 17:14、エレミヤ 36:2)。神様ご自身がモーセやエレミヤに、「私の言葉を書き記しなさい」と言っておられるのですから、これほど確かな事はありません。新約聖書でも、ペトロニ 1:21に、預言(聖書)は、人の意志によってではなく神様の霊に導かれて書いたのだとあります。

また、聖書を読む今の私達にもわかることがあります。聖書は、旧約聖書の最初の創世記から新約聖書の最後のヨハネの黙示録まで、1600年程の長い

期間にわたって書かれた物で、書いた人も、医者や漁師や王様やいろいろな人がいるのですが、その内容には矛盾したところがなく、一貫して一つの事を語っているのです。その一つのこととは、先月お話ししたことですが、「イエス様こそが神様から与えられた救い主である」ということです。そんなにも長い期間に、たくさんの人達がかかわったにもかかわらず、一貫したことが書かれているのは、やはりそこにたった一人の神様の導きがあるからです。

○聖書を神様の御言葉として聞くために

では、私たちは、そのような聖書をどんなふうに見るべきなのでしょう。聖書は神様の御言葉なのだから「自分勝手に解釈」してはなりません(ペトロニ 1:20)。聖書を読んで、自分に都合の良い所だけを「なるほど、なるほど」と受け入れ、都合の悪い所は「ここはまあいいか」と飛ばしてしまうのは、正しい聖書の読み方ではありません。実際、聖書には私達にとって耳の痛いようなこともしばしば書かれています。私達にはもともと神様に従うよりは自分が神様みたいになって好きなようにしたいという「罪」がありますから、そんな私達の知恵と知識では「聖書」=神様の御言葉をすっかり素直に受け入れることは難しいのです。私達が自分の知識と知恵とだけに頼ろうとすると、私達は聖書を自分勝手に解釈してしまいがちなのです。

先程、聖書は神様の霊の導きによって書かれたのだということをお話ししました。神様の霊によって書かれた物は、神様の霊の導きがなければ本当に解釈できないのです。私達にすぐできることは、聖書を読む時に、神様に「あなたの御言葉がよくわかるように助けてください」とお祈りすることです。そしてまた、聖書は、教会の礼拝の時に牧師先生の口を通して、正しく解釈された神様の御言葉として語られます。礼拝のお話しは難しいこともありますが、どうか神様の言葉として静かに耳を傾けてください。

〈祈り〉天の父なる神様、今日は、聖書は神様の霊に導きによって書かれた、けっして間違いのない御言葉であることを学びました。どうか、私達がいつも祈りをもって聖書を読み、礼拝のお話を聞き、あなたの御言葉を正しく知ることができるようにしてください。

テキスト ルカによる福音書 24章 13～27節

エマオ途上を行くふたりの弟子たちに、復活の主イエスが現れて下さった出来事を記す箇所です。ここでは、私たちの霊の目を復活信仰へと開いて下さるのが、甦られた主イエスご自身であること、さらには主イエスが「聖書全体」(27)を御自ら説き明かして下さることによって「目が開け」(31)るのだということが示されています。

〈二人の目は遮られていて〉

主イエスの墓が空であったことを婦人たちが弟子たちに伝えた(24:1-12)「ちょうどこの日」(13)、二人の弟子たち(18)によれば、ひとりの名は「クレオパ」がエルサレムからエマオに向かって旅をしていました。二人は暗い顔を(17)していたとあります。それは、彼らが「行いにも言葉にも力のある預言者で」(19)あり、「イスラエルを解放してください」と信じていた主イエスが、こともあろうに祭司長たちや議員たちによって十字架につけられ、悲惨きわまりない死をとげたからです。このことによって、彼らは希望の土台を失ってしまったのです。

ただ、この時には彼らは主イエスを、政治的もしくは地上的な解放者と見なし、望みをかけていたのであって、このお方が人間を罪と死の縄目から解放して下さるまことの救い主であることを理解してはいませんでした。

けれども婦人たちが彼らに驚くべき知らせをもたらします。主イエスの墓が空である旨を報告し、「イエスは生きておられる」(23)と告げたのです。ふたりの弟子たちは暗い顔をしながらも、このことについて道々熱心に議論していたに違いありません。

その彼らのところに復活の主イエスご自身が近づいてこられ、一緒に歩き始められました(15)。彼らの側から主イエスを捜し当てたというのではなく、主イエスが彼らにおん自ら近づき、そして旅路をともにして下さったことは重要です。復活の主との出会いは、神の恵みによるのです。主イエスのほうから近づいて下さるからこそ、私たちは主イエスを信じることを許されるのです。信仰は賜物です。

ただ、それにもかかわらず、「二人の目は遮られ

ていて」(17)、傍におられるのが主イエスだとはわかりませんでした。ここでの目とはもちろん肉眼ではなく、霊の目、信仰の目のことです。主イエス御自身が目を開いて下さらなければ、そこに主イエスがおられるのにそのみ姿が見えないということがあるのです。それは、ガリラヤからエルサレムまで主イエスとともに旅をした十二人(今はイスカリオテのユダが欠けて十一人ですが)の弟子たちも同じでした。彼らは再三にわたって十字架の死と復活の予告のみ言葉を聞きながら、主を誤解し続けたのです。復活の主にお会いして、初めて「目が開け」たのです。

〈御自分について書かれていることを説明された〉

復活の主が彼らに、「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された」(27)後、食卓でパンを裂いてお渡しになった時に「二人の目が開け」(31)、主イエスであることがわかりました。

このことは私たち自身が復活信仰を与えられる道筋をも伝えるものです。主イエスがおん自ら、み父がご自分の受難と復活を通してなすとげようとなされた救いのご計画について、旧約の昔からさかのぼって説き明かされた時に、そのみ言葉の説き明かしが二人の目を開くこととなったのです。その時に彼らは、彼ら自身の罪のために苦しまれ死なれ、そして彼らに永遠の命を与えるために復活された、生けるまことの主を「見た」のです(このことについては、使徒言行録8:26以下も参照)。

同様に主イエスのみ霊は、私たちにもみ言葉を説き明かして下さいます。聖霊は聖書を用いて私たちの心に語りかけて下さることによって、復活の主を仰ぐ幸いを分け与えて下さるのです。主イエスのみ霊は主イエスのみ言葉とともに働きたもうことを、ここで私たちは確かめるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問6
ウェストミンスター小教理問答 問3

子どもカテキズム

問6 聖書に書かれていることは何ですか。

答 真の神さまが私たちのためにしてくださったことと、私たちに求めておられることです。

ウェストミンスター小教理問答

問3 聖書はおもに、何を教えていますか。

答 聖書はおもに、人が神について何を信じなければならないか、また、神が人に求めておられる義務は何であるかを教えています。

〈聖書の読み方〉

この問答は、聖書に何が書かれているのかと問うことによって、聖書から何を聴くべきなのかということ語ります。聖書は66巻から構成されていますが、そこには律法や歴史書があり、詩歌のような文学書があり、また福音書は主イエス・キリストの伝記のようであり、手紙もあり、中には私信のようなものまで含まれています。聖書はバラエティーに富んでおり、読み方次第で、歴史を学ぶことができ、文学書として読むこともでき、また人生訓、人間の知恵を汲み取ることもできます。ですから、さまざまなことが書かれているのです。しかし、聖書には、このことを学ばないならば聖書を読んだことにならないという中心的なメッセージがあります。ですから、ウ小教理にある「おもに」という言葉が大切です。聖書の中から何を聴きとるのか。すなわち、聖書全体を貫くメッセージを聴かなければなりません。この問答は、聖書の読み方を教えています。

〈聖書の目的〉

聖書の正しい読み方は、聖書が書かれた目的に従って読むことです。「この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます」(テモテニ 3:15)。「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである」(ヨハネ 20:31)。ですから、読む者がキリストを信じて、救いに入られることが、聖書が書かれた目的です。ここに読み方があります。聖霊の導きを求め、信仰が与えられるよう祈りながら読むのです。

〈信じることと聖書と知ることの一体性〉

信じることは、知ることには始まります。もちろん、知ることが信仰を生み出すものではありませんが、知ることなしに信仰はありません。信仰は神知識を求めます。そして、信仰に必要な事柄が聖書において与えられているのです。

〈神の愛を知り、感謝の筋道を学ぶ〉

第一に、聖書から、真の神が私たちのためにしてくださったことを学びます。キリストの十字架と復活の御業を知って、生ける主イエス・キリストと出会わせられます。そのことによって、自らの罪と悲惨を教えられ、救いの必要性を覚え、救い主キリストを通して救いが恵みとして与えられていることを知ります。「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」(ローマ 5:8)。この神の愛を知るのです。

そして、神の愛を知ったときに、私たちは神に感謝して、新しい生活、信仰の歩みを始めます。聖書から、第二に、神に感謝をあらわす筋道を学びます。それが、神が私たちに求めておられることです。

〈説教展開例との関わり〉

神が私たちにしてくださったことが私たちに求められていることに先行していることが大切です。ここにこそ、神の恵みがあります。私たちの目は覆われており、曇っています。しかし、神は私たちを愛して、忍耐強く私たちに語りかけてくださっています。その神の愛の言葉が聖書です。聖書を通して、私たちは、神の愛の御業を知るのです。信仰を祈り求めながら、聖書に聴きましよう。

聖書箇所 ルカによる福音書 24章 13～27節
カテキズム 子どもカテキズム 問6

「愛の手紙=聖書、聖書の目的」

おはようございます。今日も、みんなと元気に教会に集まって礼拝を捧げることができることを神さまに感謝します。今日も先週に続いて聖書について学びましょう。聖書は神さまの御言葉で、私たちが一番知りたいこと、知らなければならないことが書いてあると学びました。そして、聖書が分かるのは、僕たち私たちが教会の礼拝の中で説教、聖書からのお話を聴くことによって分かるようになって学びました。

このお話は、イエスさまが復活された時のことです。二人のお弟子さんがエマオと言う村に向かってとぼとぼ歩いていました。とても暗い顔つきをしています。歩きながら、ぼそぼそと小さな声で話合っています。何について話しているのでしょうか。それはイエスさまについてでした。イエスさまが十字架にはりつけられて、死んでしまったことについてです。二人は、イエスさまが十字架につけられることなどないはずだと考えていました。ですから、十字架で死んでしまわれたことがショックでショックでならなかったのです。そして悲しかったのです。けれども、一つだけ、とても気になることがありました。そのことについて二人はあてもないこうでもない論じあっていました。何かと言うと、仲間の女の人達がイエスさまがよみがえられたと言っていたからです。

そのように二人がとぼとぼ歩いていた時の事です。なんと復活されたイエスさまがその二人のところに近づいて来られたのです。そして、一緒に歩きはじめられたのです。ところが、とても不思議なことです。その二人には、それがイエスさまだと気づいていません。イエスさまは、二人のお弟子さんに質問されました。「何を話しているのですか。」クレオバと言う人が言いました。「あなたはエルサレムから帰ろうとしているのに、エルサレムで起こったあんな大きな事件の事を知らないのですか。」そして、クレオバはイエスさまとは知らないで、今までのことをその男の人に話し始めたのです。

するとどうでしょう。イエスさまは、お話を始められました。どんなお話だったのでしょうか。それは、今、僕たちわたしたちがこの教会のこの時間でいつも聞いているお話です。つまり、聖書のお話です。聖書からのお話です。それを説教と言います。今、イエスさまはこの二人のお弟子さんに聖書からのお話、説教を始められたのです。聖書の初めから終わりまで、旧約聖書の全体をお話されました。旧約聖書はイエスさまのお生まれになる前のお話でした。でも、イエスさまは旧約聖書からイエスさまご自身のことをお話なさったのです。ということは、旧約聖書のなかに、イエスというお名前は出てこないのですが、旧約聖書もイエスさまを中心にして書かれているって言うことですね。

この後、この二人は聖書のお話を聞きながら、心の中が暖かくなって来たことに気づいてきました。そして、その男の人に、つまりイエスさまにお願いして言いました。「もっともっと聖書のお話を聞かせてください。もう夕方です。私の家に泊まって下さい。」イエスさまはもっと先に行こうとしておられました。もう無理に引き止めようとしたほどです。そして、その後で、この二人はイエスさまと一緒にいてくださったこと、聖書のお話をしてくださったのが、イエスさまだったことに初めて気づくことになったのです。

聖書は旧約聖書、新約聖書に分かれてあって、その二つで聖書って言うことを学びました。それなら旧約、新約って何のことでしょうか。その「約」と言うのは約束の「約」の意味です。つまり神さまの「約束」が書かれている本。神さまが僕たち私たちに約束が書かれているのです。いったいどんな約束でしょうか。それは神さまの愛の約束です。神さまを信じれば救われるという約束です。イエスさまを信じれば救うという約束です。神さまは約束を破られません。聖書を読むと約束を破られない神さまのことが良く分かります。約束を受けていた人間のほうは何度も何度も約束を破っているのに、神さま

のほうは何度も何度も約束を新しくしてくださり、
なんとしても救ってあげよう。どうしても神さまの
愛の中に入れてあげようとしておられるのが分かります。

そのような神さまの救いの約束の本は誰のために
書かれたのですか。勿論、僕たち私たちの為です。
ですから、聖書は神さまから私たちに書かれたお手紙、
しかも愛のお手紙なのです。その愛のお手紙を
読むと、あのお弟子さんのように、心が暖かくなって
きます。嬉しくなってくるのです。神さまは聖書
を書く人に、神さまがどれほど私たちを愛しておら
れるかを書かせられたのです。神さまの愛はイエス
さまにおいて私たちに明らかになりました。だから
イエスさまのことが聖書の中心となるのです。神さ
まは私たちを愛して、私たちを神さまの子どもとし
て救ってあげようとお考えになり、実際にお救い
になるためにイエスさまをこの地上に生まれさせ、十
字架につけ、復活させられました。僕たち私たちは
聖書を読んで、このイエスさまがどんなに私たちを
愛しておられ、私たちのために救いのお働きをな
さっておられるのかを知ることができるのです。

ですから、聖書を読んでも、イエスさまを信じな
いのであれば、聖書は分かりません。神さまのこ
とも分かりません。でもイエスさまを信じれば、聖書
も神さまのこともわかって来ます。先生は聖書を読
んで神さまの約束を受けることができました。神さ
まの子どもにして頂きました。皆さんもどうぞ先生
のように聖書を読んで神さまの約束を与えてもら
って下さい。それこそ、一番大切なことです。

イエスさまを信じて救われて、神さまの子どもと
していただいたら、天のお父さまの仰つることを守
ることが嬉しくなってきます。天のお父さまは、イ
エスさまが何をしてくださったのかを教えるのと同
時に、神さまの子どもたちがこれからどのように生
きてゆけばよいのかを聖書、愛のお手紙の中に記し
ておられます。ですから、僕たち私たちは自分勝手
に「こうすることが神さまの子どもらしいぞ」いや、
「ああすることが、神さまの子どもらしいぞ」と決
めてはいけません。神さまの子どもとして神さまに
喜ばれるためには、天のお父さまがお決めになった
通り、聖書に書いてあるとおりにする事なのです。

今週の暗唱聖句

この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して
救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。

テモテへの手紙 二 3章 15節後半

「父の日」について

父の日は、母の日の普及にともなうて行われるようになった、キリスト教の文化
の中から生まれた行事です。

アメリカのジョン・ドットが、1909年に母の日について紹介する教会の説教を聴
いて、自分の父が母の死後6人の子どもを育ててくれたのを思い出し、教会に「父
の日」の行事を行うように提案したのが、「父の日」の起源とされています。教会
で「父の日」が行われたのが6月第三日曜日であり、カーネーションの代わりにバラ
が用いられたそうです。

6月にはペンテコステや花の日があるため、行事として行われることは少ないと
思われます。しかし、あらためて父への感謝をあらわし、また、父であることの意
味を見つめなおす機会としてこの日を用いることは大切でしょう。

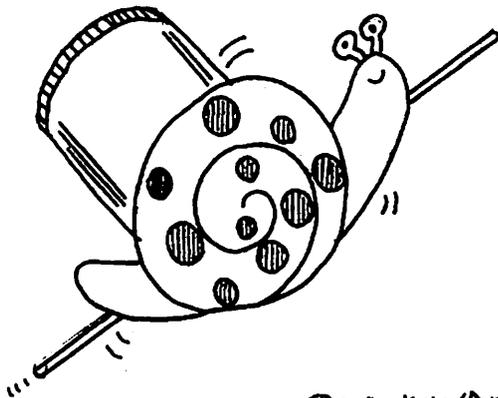
〈こどもへの質問〉

- Q1. 新約聖書、旧約聖書の「約」というのは約束の
いみでしたね。
それでは一体どんな約束だったかな？
そう、救い主イエス様を信じる人は救われます、
という約束でしたね。
- Q2. そのような救いの約束の本は誰のために書かれ
たのでしょうか？
それは、私たちのためだったよね。
聖書は神様から私たちに書かれたお手紙なんだ
よね。

〈お祈り〉

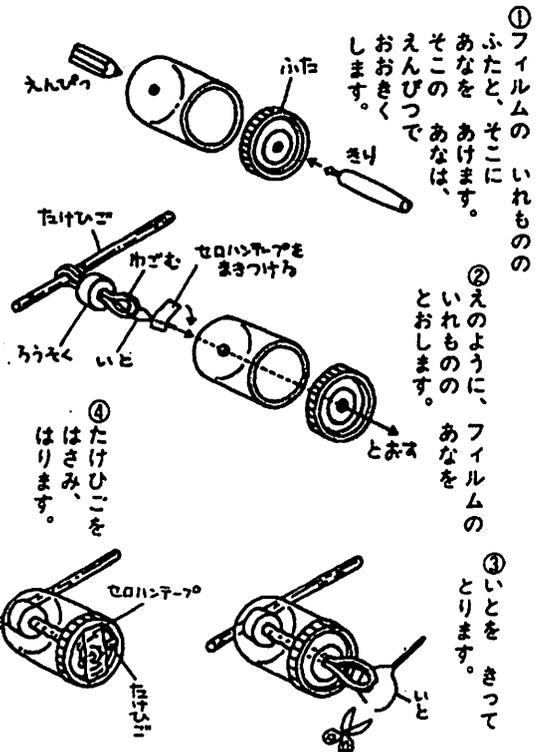
天の父なる神様、聖書は神様から私たちへのお手紙であることを知りました。どうか、私たちが救い主イエス様を信じて神様の御言葉である聖書をもっともつとわかるようにしてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 のろのろかたつむり



- よいにするもの
- ・フィルムケース・かみ
 - ・たけひご
 - ・わゴム
 - ・ろうそく
 - ・セロハンテープ
 - ・いと
 - ・きり

- ⑤かたつむりの絵をかいて、好きな色をぬり、切り取ったものをたけひごにはりつける。
- ⑥たけひごをぐるぐる回して平らなところに置くとかたつむりがのろのろと動く。



〈目標〉

神様はなぜ私たちに聖書をくださったのでしょうか。それは私たちが聖書を読んで救い主イエス様を信じ、救われるためです。聖書の中心は、この救い主であるイエス・キリストです。

〈展開例〉

1. 聖書の中心はイエス様

- ・聖書は旧約聖書と新約聖書に分けられます。
- ・旧約聖書にはイエス様の生まれる前のことが書かれてあります。新約聖書はイエス様が生まれてからのことが書かれています。
- ・でも旧約聖書にもイエス・キリストのことが書かれています。また新約でも同じように書かれています。

一緒にさがしてみましよう。

	旧約	新約
①	イザヤ書 7:14,15	マタイ 1:20,21
②	ミカ 5:2	マタイ 2:1,2
③	イザヤ 53章	マタイ 27章

- ①救い主の誕生
- ②救い主が生まれる場所
- ③十字架にかけられること

大きな紙にそれぞれの聖句を書き出してみるとよい

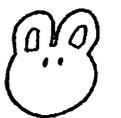
2. どんなふうに聖書をよめばよいか。

- ・よくわかるように神様に助けを祈りながら読む
- ・家で毎日、聖書を読む。
- ・聖書の御言葉を暗唱する。

2. 工作

「みことばカレンダー」

毎日、聖書を読めるように、カレンダーをつくりましょう。

みことばカレンダー		
月	火	水
 ペトロの手紙 2:10-21	 使徒行伝 11:1-11	 テモテへの手紙 3:1-15
木	金	土
 ヘブライ人の手紙 1:1-12	 コロサイ 1:6	 マルコによる福音書 13:1-11

(聖書に関する御言葉の箇所)

月曜日から土曜日まで、毎日聖書を読む。
読めた日のところにシールを貼る。次の日曜日に持つてくる。

- ・枠線と聖書の箇所は教師が書いて人数分、コピーしておく。
- ・生徒がシールを貼る部分の絵を描く。
- ・字が書ける子は曜日でも書いてもらう。
- ・シールを一週間分渡す。

〈祈り〉

天のお父さま、私たちが神様の助けを祈り求めながら聖書を読むことができますように。どうか聖書の中心であるイエス様を信じていることができるように導いてください。

〈目標〉

聖書は神様が私たちに与えてくださった救いの御業とそこにある愛を知るものであると確認する。

〈指導上の心得〉

聖書は私たちに与えられた手紙であることを自らのうちに再び刻みつける。

〈展開例〉

今日は、聖書が神様からの私たちへのお手紙だった事を聞きました。

聖書は旧約と新約が一つになって、聖書だということを知りました。そこには神様のお約束が書かれていますってお話で聞いたよね。神様のお約束は僕たちの約束みたいに忘れちゃったり、破っちゃったりされるんだっけ？…。違うよね。神様はお約束は絶対に破られない方なんだよね。その神様のお約束を書いて私たちに神様が下さったのが聖書なんです。

その神様のお約束って何だったっけ？…。そう、神様は御自身のたった一人の子であるイエス様を、私たちを罪から救うために与えてくださって、その

イエス様を私たちが信じれば救ってくださるという約束だよ。そのお約束を果たして下さるために、神様はイエス様を私たちと同じ人間の姿でこの世に送って下さって、十字架につけ、復活をさせてくださった事がこの中に書いてあるんだよ。これは、神様が神様に逆らっている私たち罪人のために与えてくださった愛の約束なんです。

でも、何でそんなことが私たちにわかるのだろうね？それは、この聖書にそのことが全部書いてあるからなんです。その愛の約束が書いてあるから、聖書は神様の愛の手紙なんです。

この神様の愛のお手紙は、私たちのために書かれた手紙なんだよね。つまり〇〇君や〇〇ちゃんのために書かれた手紙なんだよ。お手紙をもらったら、そのお手紙をみんなは読むよね。それと同じで、神様からのお手紙も読まないといけないんです。そして、神様のお約束とイエス様のことを聖書から知ってイエス様を信じるようになって下さい。そして、神様に喜ばれるように、神様のお言葉である聖書の御言葉に従っていきましょう。

〈目標〉救いは、聖書を通して主イエス・キリストを知ることによってのみ与えられることを覚える。

〈指導上の心得〉 暗唱聖句の「救い」という言葉がともに考えてみよう。父の日工作はたっぷり30分かかってしまうことに留意。子どもたちは自分のものも欲しがるので、一人2個作れるよう配慮してもよい。

〈展開例〉【メッセージ】テモテニ 3:15b を読んでみましょう。この言葉でわからないことがありますか。「救い」とは何ですか。一言で言うと罪からの救いです。でもこれだけじゃはっきりわからないでしょう。先生は小学校の頃、いつもカッコよくなりたと思っていました。自分がかっこいいと思うジャンパーや靴下やベルトを身につけるのが好きでした。お父さんがせっかく買ってくれた服でも、気に入らないと着ませんでした。友達がかっこいい服を着ているのを見ると欲しくなって、お父さんにねだって、同じものを買ってもらったこともありました。時々買ってもらえないことがあると、不機嫌になりました。みんなもそんなことはありませんか。

たかが服ですが、この服に自分の心がとらわれているのです。自分の心に自由がないのです。これは実は、服が悪いのではなく、自分の心にある「欲」というものにとらわれているのです。「欲」がふくらんで、罪（自分中心、不機嫌、ねたみ、盗み、殺し…）が生まれてしまうのです。私たちは毎日罪を犯しています。救いとは、まずそんな私が神様に救っていただくこと、次に自分の中に罪が生まれないよう、神様に助けていただくことなのです。そして救いは、イエス・キリストを信じることによってのみ、いただくことができるのです。

【父の日工作】〈ブラバンキーホルダー〉今日は父の日です。みんなのお父さんは、毎日会社で働き、家族を支え、守っているのです。そんなお父さんに感謝の気持ちを込めて、贈り物を作ってみましょう。ブラバンを王冠マークに切り、御言葉（例：「父の論しは優雅な冠。」箴言 1:9）を書いて、加熱成形したものに、キーホルダー金具をつける。

〈祈り〉イエスさまを信じて救いをいただくことができますように。

〈目標〉神様の言葉である聖書に書かれている事を心から受け入れるためには、何が必要か。

〈展開例〉礼拝のお話をふりかえってみましょう。

○弟子たちにイエス様がしてくださったこと

このお話は、イエス様がよみがえられた時のことです。イエス様がよみがえられた時というのは、イエス様が十字架にかけられてから三日後です。このお話に出てくる二人の弟子はエルサレムからエマオへ行こうとしていましたが、彼等は何をしに行こうとしていたのでしょうか。実は彼等は、エルサレムから逃げ出そうとしていたのです。イエス様が捕らえられた時、イエス様の一番弟子だと自認していたペトロがどんなことをしたか覚えていますか？（ルカ 22:54-62）。その時のエルサレムではイエス様の弟子だと言うことは非常に危険なことでした。そこで、この二人はエルサレムから逃げ出しました。しかし、その道のりの途中で、彼等はよみがえられたイエス様に出会います。イエス様は彼等に、聖書に書かれていた事を説明なさいました。聖書に一貫して書かれている事とは何だったのでしょうか。それは、「イエス様こそ約束された救い主」ということでしたね。

この二人の弟子たちもそのことを一応知ってはいました。しかし、救い主と思っていたイエス様が十字架にかけられてしまったことで彼等は不安になってしまったのです。イエス様はそんな弟子たちに、ご自分が救い主である事をあらためてお話ししてくださいました。私達はイエス様を信じていても、時々、この時のペトロや弟子たちのように、信仰が弱くなってしまう事があります。そんな時、イエス様は腹を立てて「お前たちなんか知らない」とおっしゃるような方ではありません。イエス様が捕えられる前にペトロにおっしゃったことを見ましょう（ルカ 22:31-32）。イエス様は私達が弱くなってしまった時でも、信仰がなくなってしまうまいように守ってくださいます。

さて、弱くなってしまった二人の弟子たちの所に来てくださったイエス様が聖書のお話しをしてくださった時、二人の心はどうなったのでしょうか。二人の心は「燃えていた」とあります（ルカ 24:32）。しょぼんとしていた二人の信仰は、イエス様のお話を聞いてまた熱く燃え上がり、危険が待っているかもしれないエルサレムに戻る決心をさせたのです。

弟子たちは、聖書に何が書かれているかを知識としては知っていましたが、イエス様から直接お話を聞いてはじめて心が燃え立たせられ、イエス様が約束された救い主である事を確信する事ができました。

○聖書のメッセージを正しく聞くために

さて、世界中で今までに書かれた本というのはいったい何種類くらいあるのでしょうか。数え切れない数だということは確かです。しかし、その中で一番よく読まれてきた本は何かといえば、それははっきりしています。「聖書」です。聖書が書かれてから今までの二千年程の間、聖書は変わることなく世界中で読み続けられてきたのです。しかし、聖書を読んだ人がみんな「イエス様こそ私の救い主」という事を信じるわけではありません。多くの人は聖書を昔話として、道徳として、あるいは歴史の資料として、「教養のため」に読んでいるのです。どうして、同じ聖書を読んでも、イエス様のことがわかる人とわからない人ができるのでしょうか。

エマオへ行こうとした二人の弟子たちに、イエス様がみずから聖書のお話をしてくださったことによって、彼等に「このイエス様こそ救い主だ」という確信が生まれ、心が燃やされたように、神様が読む私達に働きかけてくださってはじめて、私達は聖書に書かれていることの本質を知ることができ、心から受け入れることができるのです。コリント 2:3:14-16 を見ましょう。モーセの書というのは、創世記などの旧約聖書の一部の事ですが、聖書全体についても同じ事です。神様が私たちの心を導いて下さるから、私達は聖書から「イエス様こそ私の罪のために身代わりになってくださった救い主だ」ということがわかるのです。ですから、昔話や物語を読むように聖書を読んでも、そこに書かれている本当に大切な神様のメッセージはわかりません。「主の方に向き直って」、神様の霊の導きを求めて祈って読まなければ、神様からの恵みのメッセージは私達に届かないのです。

〈祈り〉天の父なる神様、今日は、聖書に書かれている大切な神様のメッセージを心から受け入れるためには、神様の導きが必要である事を学びました。どうか、私達が神様の導きをいつも祈りながら聖書を読み、神様の恵みのメッセージを受け入れることができるようにしてください。

テキスト ヨハネによる福音書4章23～24節

主イエスとサマリアの女との対話の一部分です。対話の深まりの中で、礼拝の問題が取り上げられます。

ウ小教理問1は、人間の本分が神礼拝にあることを明確に語り示しています。礼拝は、それがまことのものであるかどうかによって、私たちの人生が立ちもし倒れもするような、根本問題です。主イエスはサマリアの女を永遠の命の祝福へと招き入れる過程で、まことの礼拝とは何かというその問題に正しい答えを下さるのです。

〈偽りの礼拝からの解放〉

20にあるサマリアの女の言葉には、彼女がそれまで置かれていた礼拝の環境が集約されています。

ユダヤ人とサマリア人とは、すでに長いこと敵対関係にありました(6/3の箇所参照)。イスラエル王国が南北に分裂してユダヤとサマリアとの対立が生じ、サマリア人はユダヤ人に対抗して自分たちだけの聖書(「サマリア五書」)を編纂し、エルサレムの神殿とは別にゲリジム山(20に言われる「この山」)に神殿を築きました。そういう背景があって、20のような彼女の言葉が出てきたのです。彼女は主イエスに、互いに正当性を主張し、互いを非難し続けてきたユダヤ人の礼拝と、サマリア人の礼拝とは、いったいどちらがまことの礼拝なのかと尋ねているのです。

彼女はそのいずれの礼拝からも、主イエスのみ手によって助け出されねばならなかったのです。どちらの礼拝も、真に礼拝すべきお方をもはや見失っていたからです。ユダヤ人の礼拝もサマリア人の礼拝も、もはや自己正当化のための儀式になりかわってしまっていました。神のみ名を崇めるのではなく、自分を神とする宗教をつくり出す時、十字架の赦しと和解の祝福は遠ざけられます。このように、自身もまたサマリア人のひとりであったために偽りの礼拝の中に巻き込まれざるを得なかったことが、彼女のそれまでの罪の歩みに深くかかわっていたものと思われる(ある古代の神学者は、「五人の夫」(18)を五体の偶像と解釈しています。興味深い考えです)。

人は罪によって霊の目が曇らされているゆえに、みずからの力ではまことの神を信じることができず、まことの礼拝をささげることができない状態にあります。イエス・キリストの十字架と復活のみわざを通して罪の赦しと永遠の命の祝福にあずかることによって、また聖書と聖霊を与えられることによって、偽りの礼拝から解放され、まことの礼拝者として回復させられるのです。

〈霊と真理による礼拝〉

まことの礼拝とは霊と真理による礼拝(23、24)です。それは人間がつくりあげるものではなく、聖霊ご自身がつくって下さる礼拝です。

神が霊である(23)とは、神ご自身が霊であられる(ウ小教理問4)ということとともに、私たちの造り主であり贖い主であるみ霊が、私たちにも新しい霊を授け、まことの礼拝をなす者としてととのえて下さるということでもあるでしょう。そのみ霊のみわざの祝福にあずかる時、私たちは新しく生まれ変わります(ヨハネ3:3)。すなわち、それまでは自分自身のうちにある何らかのものに頼って、それを人生の基盤としていた私たちが、神のみ言葉をおのおのの存在の基盤に置くようになるのです。

サマリアの女は主イエスに、永遠の命の水を乞い求めました(15)。まことの礼拝とは、主イエスが下さる命の水にあずかり続けることであるとも言えます。主イエスこそ「言が肉となって、わたしたちの間に宿られた」(1:14)方であり、真理そのものの方であり(14:6)、終末を持たずともこのお方がこの世に来られ、私たちとともにおられる今この時に、まことの礼拝はすでに実現しているのです(23)。命の水は私たちが自力で汲み出すものではなく、主イエスが手ずから飲ませて下さいます。このお方のみ言葉にとどまり、このお方から求めるなら、流れのほとりに植えられた木のように、絶えず豊かに潤され、葉もおれることがない(詩編1:3)のです。心を聞いて、真に求めるべきお方から求めることが、まことの礼拝への備えです。

カテキズム 子どもカテキズム 問7
 ウェストミンスター小教理問答 問4

子どもカテキズム

問7 私たちの神さまはどのようなお方ですか。

答 神さまは霊なるお方です。

ですから、私たちを包み込んでくださり、永遠で、変わらないお方です。

ウェストミンスター小教理問答

問4 神は、どのようなお方ですか。

答 神は、霊であられ、

その存在、知恵、力、聖、義、善、真実において、無限、永遠、不変のお方です。

〈聖書から神を知る〉

古来多くの人が「神とは何か」、「霊とは何か」という問いに取り組んで、答えることができずに投げ出してきました。人間は有限の存在であり、人間の理性や経験に基づいて神について考えようとしても、それは無理なのです。真の神は、聖書を通して御自身をお示しくださる自己啓示の神です。私たちの神知識の源は聖書です。人間の言葉で語り尽くすことはできませんが、「神」について、「霊」について、聖書から教えられることが大切です。

〈生ける人格である神〉

この問答は、ヨハネ 4:24 を土台としています。出エジプト 3:14-15 を思い起こすことも大切です。

神が霊であるとは、第一に、神が人格的なお方であるということです。「人格的」という言葉に注目しましょう。さまざまなことを感じ、考え、行動し、他者に働きかけ、他者との交わりを持つ主体、「人格」を持っているということが人格的ということですが、これは本来神のご性質なのです。聖書を通して知ることができる神は、天地とそのすべてを造り、被造物との交わりを喜び、知恵と力、聖、義、善、真実などに満ちた生ける神です。神は、私たちを愛して私たちの罪を悲しみ、罪を憎みます。生き生きとした命にあふれており、人格であるということが、霊なるお方ということです。

〈自由なお方である神〉

神が霊であるとは、第二に、神が無限、永遠、不変のお方であるということです。これはすなわち、神の自由です。神は制限されないのです。神は、空

間をも時間をも超えておられ、制限されません。ですから、目には見えません。時間で捕らえることもできず、神は変わらないお方です。私たち被造物は有限の存在であり、空間や時間に左右されますから、移り変わりがあります。初めがあり、終わりがあることは、被造物の特徴です。永遠から永遠の存在である神は、完全であり、変わることがありません。霊が風にたとえられますが、風は思いのままに自由に吹きます。霊である神も、御自身の御心のよしとするままに、自由に働いてくださいます（ヨハネ 3:8）。御心のよしとするままに、御自身を示し、目に見えるかたちで私たちの世界に働きかけることもなさいます。私たち人間の願いに従って行動する奴隷の神ではありません。これが神の自由です。

〈霊なる神との交わりに生きる〉

神は、私たちに御自身の命の息を吹き込まれ（創世記 2:7）、それ故に、私たちは「霊的」な存在、「人格」を持つ存在とされました。私たちの人格は、神から与えられたのであり、神との交わりを基盤としています。神は、御自身の人格と自由に基づいて、私たちを造り、私たちとの交わりを喜びとなさいました。変わることはないお方が、私たちを愛して、御自身の交わりに招いてくださっています。「包み込む」とは、神との交わりに入れられていることです。ですから、私たちは神を信頼し、神に委ねます。私たちの墮落後も、キリストをお与えくださり、私たちを御自身との交わりの内に招いておられます。ですから、神を礼拝し、神との交わりの内に生きることこそが、私たちの人生であり、喜びなのです。

聖書箇所 ヨハネによる福音書4章23～24節
カテキズム 子どもカテキズム 問7

「霊なる神、三一の神」

おはようございます。今日も、みんなと元気に教会に集まって礼拝を捧げることができることを神さまに感謝します。

「神さまは霊なるお方です。」子どもカテキズムにはそう書いてあるけれど、これを読んで皆はどんなふう思ったでしょうか。あるお友達は、「霊」と言うと、幽霊のことを連想してしまった子もいるかもしれません。夏が近づいてくると、たいていテレビや映画で幽霊のお話が出てきます。不思議ですけど、冬にはそんなお話はしないのです。夏は、暑いから幽霊のお話をすると怖くなりますね。怖いお話は、ぞっとします、ぞっとすると肌が寒くなります。だから昔からそんなお話をするのもかもしれません。

幽霊やお化けが本当にいるのかどうか、先生はいいないと思っています。不思議だけれど、イエスさまを信じていない人が幽霊のお話を真剣にして面白がったり、怖がったりするのは、イエスさまを信じている人に、「おばけだぞー」って幽霊が出てくることは決して決してありません。何故、イエスさまを信じている人に、幽霊は出てこないのでしょうか。それは、イエスさまを信じている人の心の中に、父なる神さまが聖霊なる神さまを宿らせて下さっているからです。

真の神さまは、霊なる神さまで、それは私たちの目には見えないお方であるということです。ある人たちは目に見えない神さまを、「そんなの信じられない」と言います。「目に見えないものなんか、本当はいいないのさ」と言ったりします。けれども、私たちはそんなお話を信じません。何故なら、私たちの回りには、目に見えないものがいっぱいあるからです。このお部屋には空気がありますか。その空気は目に見えるのでしょうか。見えませんね。それなら、空気はないのでしょうか。勿論、空気があるから私たちは生きられるのです。このお部屋の中に、ラジオや携帯電話をおいたら、ラジオは音を出しますか。

勿論音が出ます。どうしてですか。それは、電波があるからです。私たちはテレビを見ますね。テレビは電波を受けて初めて映るのです。けれども、電波は見えません。空気が流れるのを風と言います。風を見たことのある人も本当はいません。でも、風が吹いているとほっぺたに風が当たったり、葉っぱが舞い上がっているのを見て風が吹いているのが分かります。電波も電話が鳴ったり、テレビが映ったりすると電波がそこにあるのが分かります。私たちの心も、目に見えませんが、でも私たちに心があるのです。それは、私たちが良く知っています。

目に見えない霊なる神さまは、私たちを包み込んでくださいます。私たちがどこにいてもこの目に見えない霊なる神さまから離れることはできません。遠い国のアメリカやアフリカ、北極や南極に行っても神さまから離れていません。月まで行っても霊なる神さまはいつも、一緒にいてくださいます。私たちがこの目に見えない霊なる神さまに包まれるようにして、守って頂いているのです。だから、幽霊やお化けが私たちに「悪さ」をすることはできないのです。いつでも、私たちを優しく包んで下さるのです。一人でおトイレに行くのが怖いときにも、神さまが包んでくださることを思い出して、勇気をもらって下さい。

目に見えない霊なる神さまは、永遠なるお方です。永遠と言うのは、はじまりも終わりもないと言うことです。目に見える物は永遠ではありません。はじまりがあります。この教会の礼拝堂は（ ）年前に建ちました。それ以前はこの建物はありませんでした。先生は、（ ）年前に生まれました。それ以前には先生の体はありませんでした。たぶん、この礼拝堂はあと100年後にはここにはないと思います。新しい礼拝堂が建っていると思います。たぶん先生はあと100年後にはここにはいません。天国に行っています。目に見える物には始まりがあり、終わりがあるのです。僕たち私たちの真の神さまは霊なる神さまですから、はじまりもおわりもなくおられるのです。ずっとずっとおられます。さつき先生は、死

んだら天国に行きますと言いました。天国では、この神さまとずっとずっつと一緒にいることができます。なぜなら、永遠におられる神さまが僕たち私たちを愛しておられるのなら、私たちが死んでそれつきりいなくなってしまうたら、神さまは悲しまれるでしょう。永遠の神さまが愛してくださる私たちだったら、私たちも霊なる神さまとずっつとずっつと生きる事ができるのです。

目に見えない霊なる神さまは、変わらないお方です。目に見える私たちは変わります。この間、昔の教会の写真を見ていたら、びっくりするくらい皆が大きく成長しているのに驚かされました。あるお友達は、幼稚園の頃とは別の人のようにしっかりとしたお顔になりました。知らない人が見たら別の子かなと思われるかもしれません。おかしなこと言うのですが、もしも、10年前の神さまと今の神さま、2000年前の神さまと今の神さまが、私たちのように変わっていたらどうですか。昔のイエスさまの優しい神さまだったけれど今は違うのであれば、私たちは本当に困ってしまいます。真の神さまは、イ

エスさまが教えてくださったままのいつまでも変わらない神さまです。

イエスさまはある所で、ある女の人にこう仰ったことがあります。「神さまは霊なるお方です。」その後こう仰っていました。「だから皆さんは、礼拝しなければなりません。」霊なる神さまは、私たちがどこにいても礼拝できます。今、この私たちの教会の中で皆で礼拝しているときに、私たちは霊なる神さまに包み込まれて守られているのです。心から真剣に礼拝する人には、この霊なる神さまが私たちに、神さまが本当におられることを教えて下さいます。心から真剣に礼拝すると言うのは、どんなことでしょうか。目に見えない神さまは、今日、先生を通して、神さまのことばを皆さんに語りかけておられます。ですから、そのお言葉を耳を大きくして聞くこと、信じて聞くことです。その時に、神さまが私たちに、神さまが本当におられることを信じさせて下さいます。

今週の暗唱聖句

神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。

ヨハネによる福音書 4章 24節

〈こどもへの質問〉

Q1. 本当の神様は私たちの目で見ることができるとはどうですか？

いいえ、神様は霊ですから、私たちの目で見ることができないんだよね。

でも確かに私たちと一緒にいてくださるんだよね。

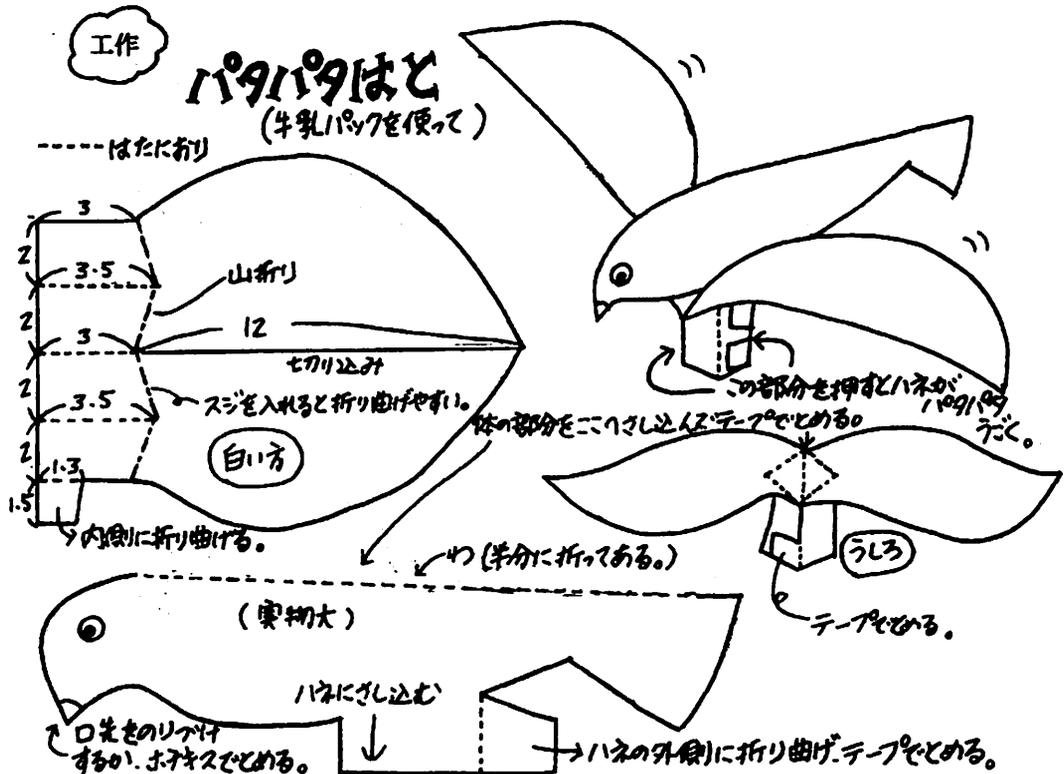
Q2. 本当の神様は私たちの様に10年後、20年後には変わっていくのでしょうか？

いいえ、本当の神様は、いつまでも決して変わりません。

私たちが死んで天国に行っても、ずっとずっと変わることなく私たちと一緒にいてくださるんだよね。

〈お祈り〉

天の父なる神様、霊であり、私たちの目には見えない神様がいつまでも変わることなく私たちと一緒にいてくださっていることをしりました。どうか私たちが神様を心から信じていつも喜んですごすことができますように導いてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。



〈目標〉

神は目に見えないが、私たちと共にいてくださる。場所や時間に支配されない御方である。また、決して変わらない御方である。

〈展開例〉

1. どんなものが目に見えない？

どうしてあるとわかるの

風	木がゆれる。寒い。
電気	テレビがつく。さわると感電する。
空気	息ができる。暖かい。風船。

2. 神は霊である。

神様がいらっしやることはどうしてわかるのか。



神の御言葉をとおして私たちに語りかけられる。
イエス様をとおして御自身をあらわされる。
聖霊なる神様が私たちに教えてくださる。

3. 工作

その1. 「しおり作り」

かみは
れいである。
(ヨハネ四章二四節)

上から粘着シールを貼って、余分な部分を切る。

(パッチウムしてもよい)

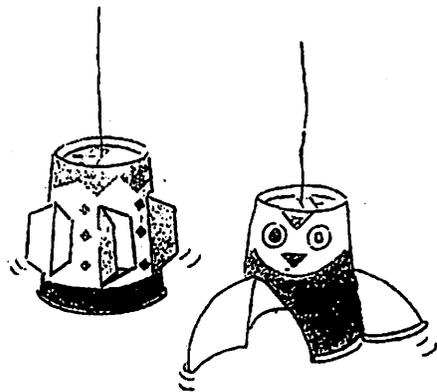
押し花を貼る。
(手芸店にある)

4. 工作

その2. 「風車をつくろう」

(用意するもの)

紙コップ、セロテープ・マジック、糸、はさみ、カッターナイフ



〈祈り〉

天のお父さま、あなたは、私たちがどこにいても私たちと共にいてくださる方であることを感謝いたします。私たちのささげる礼拝が、神様に喜ばれるものとなりますよう導いてください。

〈目標〉

神様はいつも私たちと共にいてくださる。

〈指導上の心得〉

神様が霊なる方として、いつも自分の側にいてくださることの確信を持って語る

〈展開例〉

今日は、神様が霊なる方であると聞きました。霊というよく分からないかも知れないけれども、霊はどのようなものだって先生は言っていたかな？霊というのは目に見えたっけ？それとも見えなかったっけ？…。目には見えないのが霊だよ。それじゃあ目に見えなかったらいいのか？…。そう、そんなことないよね。先生のお話で見えなくてもあるものは沢山あるって聞いたよね。そして、霊も同じで、見えないけどあるんだって聞いたね。それに霊はどこか一箇所にいるのではなく、いつもどこにでも居ることが出来るんです。だから、今、ここにもいるし同時に○○（すきな国名や場所なんかを入れて考えてください）にも居ることが出来るんだよ。それが、霊なんです。そして、神様はその、霊なる方な

んですよって、聖書は教えてくれているんです。

だから、僕たちがどこに行っても、どんなに誰からも見えないようなところに隠れても、神様はいつも側におられ、私たちを包んでくださって、僕たちのことを見ておられるのです。そして、どんなときも側にいて守ってくださるのです。

でも、神様は霊なる方だって頭で分かっても、目で見えないから、すぐに神様が一緒だって言うことを忘れちゃうし、それに、目に見えないから、本当に信じることは難しいよね。先生もなかなか出来ないです。

でもね、神様を信じることも、神様が一緒にいて下さるってことをいつも覚えておくのって、本当はそんなに難しいことじゃないんです。自分の力で信じよう！とか自分の力で神様が居てくださることを覚えておこうかって思うと出来ないです。でも、礼拝で神様の語ってくださる言葉を聞いて、神様の力をするのなら、神様を信じることも、神様が霊なる方で、私たちを包み込んでくださることをいつも覚えることも出来るのです。

〈目標〉

神は霊であることの意味を理解し、受け入れる。

〈指導上の心得〉

偶像とまことの神さまを比較することによって、まことの神さまのすばらしさをおぼえよう。「霊」を説明するのはむずかしい。しかし非常に重要な言葉なので正しく理解したい。カテキズムの「包み込む」という言葉は説明が必要かと思われる。

〈展開例〉【考える】(Q)(金の子牛の絵を用意する。)昔エジプトの人々は、金で子牛を作って、神さまにしました。昔のエジプトの神と聖書の神さまをくらべてみよう。えっ？聖書の神様を書いてって？困ったな。描けないのです。なぜって。聖書の神さまは見えないから。じゃあ比べられないって？別に見えなくても比べられるよ。この絵は生きているかい？もし本当の金で作ったら、生きるものとなるのかな？ちがうよね。金の像はあくまで像。生き物じゃない。では聖書の神様はどうか。生きているのです。見えないけど生きて働いておられるのです。見えないお方であり生きておられるお方であることを、「神は

霊である」といいます。大切なことばなのでおぼえてください。(Q)次に「霊」の反対語はなんだと思いますか。それは「肉」といいます。肉はやがて死にます。限りがあるのです。これに対して「霊」は無限です。限りがないのです。また「肉」は目に見えますが、「霊」は見えません。(Q)私たち人間は、「肉」でしょうか。「霊」でしょうか。私たちの体はもろろ肉です。でも人間は神さまの霊が与えられ手いるので「霊」でもあります。「霊」が与えられているということは、「霊」なる神様と愛の交わりに生きることができるといことです(カテキズム研究参照)。だから私たちは生きることができのです。【読む】問7を読みましよう。「私たちを包み込んでくださる」とは、品物をきれいな紙でつつむように、私たちを大事にしてくださいという意味です。【暗唱聖句】ヨハネ 4:23 と合わせて 4:24 も覚えてみましょう。

〈折り〉

神さまの霊によって、私たちは生きるものとされたことに感謝いたします。

〈目標〉神様は無限、永遠、不変の霊であって、人間はその神様に似せて造られた存在である。

〈展開例〉今日からしばらくの間、神様とはどんな方なのかということ、を考えていきたいと思います。

○「霊」とは

ヨハネ 4:7-26 を読みましょう。ここで、イエス様は、井戸の側で水を汲みにきたサマリヤの女にご自分が永遠の命にいたる道である事をお教えになりましたが、その中で、神様について(24)「神は霊である」とおっしゃっています。

「霊」とは何でしょうか。これは非常に難しい質問です。とにかく言える事は、「霊は物質ではない」ということです。物質というのは、この聖書や服や私達の身体のように、目に見え手に取る事ができるものです。この私達の周りにある空気は、目には見えませんが、ものすごい力で押さえつけて圧力をかけてやると、液体になって目に見える様になります。それに対して「霊」とは、どんなことをしてもこの目で見たり手で触れたりすることができません。神様は、私達の五感で知ることのできない方なのです。

○「ある」そして「生きて働かれる」方

神様はご自分の事をモーセに「わたしはある」というものだとおっしゃいました(出エジプト 3:14)。霊である神様はこの手で触れたり、この目で見たりすることはできませんが、たしかに「ある」のです。聖書には「神様が手を延べられる」とかまるで神様が身体を持っておられるかのように書かれている所があります。それは、いわゆる擬人的表現と言うものなのですが、同時にそのように表現される神様は、「ある」だけで何もしないのではなく、「生きて働いておられる方」でもあるのです。神様は目に見えない「霊」ですが、私達はこの目や手を使わずに、神様が「ある」ことを知ることができるのです。それは、神様がモーセに燃える柴の中から語りかけられたように、私達にも語りかけてくださるからです。その声は、この耳では聞こえません。私達の中にある「たましい」が神様の声を聞き取るのです。

○神様の性質

神様はどんな「霊」なのでしょう。神様の性質を、神様の言葉である聖書から調べてみましょう。

- ・はかりがたい知恵のある方(詩篇 147:5)
- ・なんでもできる力ある方(創世記 17:1)

- ・まったく聖い方(イザヤ 6:3)
 - ・まったく正しい方(出エジプト 34:7)
 - ・真実な方(テモテニ 2:13)
- そして、神様はこれらの性質において
- ・限りがなく(ヨブ 11:7-9)
 - ・永遠で(詩篇 90:2)
 - ・変わることが無い(ヤコブ 1:17)

方なのです。

神様はいつでも、どこにでもおられ、変わることのない方なのですから、私達は安心して神様にすべてをお任せして、従っていくことができます。神様に愛して頂いている私達にはすべてが益となるようにしてくださる方なのですから(ローマ 8:28)。

○神様にかたどって造られた人間

神様はご自分にかたどって人を創造されました(創世記 1:27)。しかし、先程お話したように、神様は目に見えない霊なのですから、「かたどった」と言っても、私達のこの目に見える身体が神様にかたどられたものではないのは確かです。人は神様の霊であるところをかたどられた、「霊的な存在」である、ということなのです。この物質としての身体があるのに、霊的な存在であるというのはどういうことでしょうか。それは、人間の存在と言うのは、この目に見える身体だけではなく、「霊」的な面からも成り立っているということです。私達はこの「身体」と、悲しいとか嬉しいとか思う「心」と、そして、目に見えない「霊」である神様を想う事のできる力を与えられているのです。それこそが、神様が人を創造された時に鼻に吹き込まれた「命の息」であり、さっきお話した「たましい」なのです。前にもお話ししましたが、この「たましい」は、神様から人間にだけ与えられた力です。そして、その力を育む場所がこの教会です。どうか、私達が神様から与えられたこの素晴らしい力を用いて神様のことを知り、神様に従って行く事ができますように。

〈祈り〉

天の父なる神様、今日は、あなたは霊であって私達の目では見えない方であることを学びました。しかし、あなたは私達に「たましい」を下さって、目に見えないあなたのことがわかるようにして下さいました。どうか、これからもあなたがこの「たましい」を成長させて下さいますように。

楽しく日曜学校していますか？ ちょっとつかれたりしていませんか？

つぎの日曜日もしっかり主の御用にあたるために。

子どもたちと御言葉の恵みをたくさんいただくために。

さあ、みんな集まろう！！

日曜学校フェスティバル

と き：4月30日（月曜日・振替休日） 10：30～15：00

ところ：四日市教会

内 容：教材・教案・アイデアの教えあい、教師同士の交流

お昼にはバーベキューを予定しています。

お子さんの参加も歓迎、みんなで楽しめる会にしたいと思います。

昼食代として、参加費 800 円（子ども：400 円）を予定しています。

参加者募集中

〈申し込みは四日市教会・伊藤(TEL/FAX：0593-51-1794)まで〉



主催：四日市教会日曜学校

協賛：中部中会教育委員会

日曜学校 2001年度カリキュラム (7～9月分)

2年サイクル第1年 (子どもカテキズム問1～36)

月日 教会暦	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単 元 の 目 標			
7月1日	お一人の神	問 8	ウ小教理 問 5
		使徒 17:22-34	申命 6:4-5
日本における子どもの救いと成長を阻害する多神教から決別する。			
8日	生ける神	問 9	ウ小教理 問 5
		出エジプト 32:1-6	申命 6:4-5
生きた愛の神を教える。愛を裏切らないように励ます。			
15日	救いの神	問 10	ウ小教理 問 6
		マタイ 28:19	マタイ 28:19
救いの神、愛の神の視点から三位一体の神を提示する。			
22日	神の交わりへの招き	問 10	ウ小教理 問 6
		ヨハネ 17章	ヨハネ 17:23
三位一体の神の交わりの中に入れられる救いとその喜び、安心を伝える。			
29日	主権者なる神	問 11	ウ小教理 問 7、8
		ダニエル 3:1-30	ダニエル 3:29c
主権者、全能者なる神への絶対的信頼を確信をもって証しする。			
8月5日	天地創造	問 12	ウ小教理 問 9
		創世 1章	ヨハネ 1:3
自然は神の作品。そこに置かれていることへの安心と感謝、責任を証しする。			
12日	サウロの回心	問 13	ウ小教理 問 11
		使徒 9:1-22	ローマ 8:28
神は今ここで一人一人に良き意思をもって働きかけている。安心と感謝、責任を。			
19日	生まれつきの盲人	問 14	ウ小教理 問 11
		ヨハネ 9:1-34	エレミヤ 31:3b
占いなどによって子どもたちの心が浸食されている。占いを拒否し伝道へ。			
26日	人間の創造	問 15	ウ小教理 問 10
		創世 2章	創世 2:7
人間の素晴らしさを証しする。			
9月2日	墮落(1)	問 16	ウ小教理 問 12、13、15
		創世 3:1-7	ローマ 5:12a
人間を創造し、愛された神の悲しみのまなざしの中で、人間の墮落を語る。			
9日	墮落(2)	問 17	ウ小教理 問 14
		創世 3:8-24	創世 3:8b
人生の目的、喜びを失わせる罪。混乱、破壊、悲惨の原因が罪である。			
16日	カインとアベル	問 18	ウ小教理 問 17、18
		創世 4:1-16	創世 4:13b
子どもたちにキリストを仰がせながら、自分自身の姿を内省させたい。			
23日	正しい者はいない	問 19	ウ小教理 問 15、16
		ローマ 3:9-20	ローマ 6:23
分級で、個別に幼子の魂と語り合い、祈ってほしい。悔い改めを新たにす。			
30日	ノアの箱舟	問 20	ウ小教理 問 19
		創世 6:5-7、7章	ローマ 6:23
正義の神が審き罰することの正当性を語る。問 21の光のもとで。			

編集後記

●小さく欠けある者を主はその御用のために用いて下さいます。この働きがすべて創り主なる神様の御栄光のためになされますように。(伊藤節子、四日市教会日曜学校教師) ●改革派教会の具体的な「教案誌」があればとずっと願っておりましたが、執筆する側のたいへんさを実感しました。(漆崎晴美、金沢伝道所日曜学校教師) ●30分の分級を念頭に、聴くだけでなく、一緒に考え、つくり、遊んだりしながら学べるように工夫しました。(山口英俊、豊明伝道所日曜学校教師) ●多くの日曜学校教師の願いが、みなさんのお祈りに支えられて、主のお導きの下にこうして形になることができました。この奉仕に参加させて頂いて感謝しております。(伊藤治郎、四日市教会日曜学校教師) ●表紙について・・・教会の中で子どもが神様の愛を手に入れて喜んでいる(乏しいことがない)というイメージで描

きました。(弓矢容子、名古屋教会日曜学校教師) ●刊行までわずか三ヶ月。恥は我がもの・・・今後の成長を目指します。皆様のご投稿、ご支援を心よりお待ちしております。どうかお育てください。(相馬伸郎、名古屋岩の上伝道所宣教師) ●この試みがこの後も守られますよう、ご加禱のほどよろしくお願いいたします。(木下裕也、豊明伝道所宣教師) ●教案誌作りを通してそれぞれの日曜学校に対する大きな思いを知りました。携わった方以外のその思いにも触れたいと感じます。(春名義行、津島伝道所宣教師) ●何とか完成にこぎつけました。子どもたちの霊的成長のために、信仰の養いのために用いられれば何よりです。関わってくださったお一人お一人に心から感謝いたします。しかし、これは始まりにすぎません。今後の継続をお祈りください。(望月信、高蔵寺伝道所協力牧師)。

執筆担当

聖書研究・・・木下裕也
カテキズム研究
4月1～15日・・・望月信
4月22日～6月3日
・・・相馬伸郎
6月10～24日・・・望月信
説教展開例・・・相馬伸郎

分級展開例
幼稚科・・・伊藤節子
小学科下級・・・漆崎晴美
小学科中級・・・春名義行
小学科上級・・・山口英俊
中学科・・・伊藤治郎
コラム・・・木下裕也、望月信
表紙イラスト・・・弓矢容子

編集部

相馬伸郎(長)
木下裕也
春名義行(会計、販売取り次ぎ)
望月信(書記、編集)

日本キリスト改革派教会 中部中会 『日曜学校教案誌』

2001年4・5・6月号(季刊)

第1号(創刊号)

2001年3月25日発行

発行

日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会

編集・発行所

日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校教案誌編集部

〒458-0008 愛知県名古屋市緑区平手北2-1701 協英ビル3F

Tel/Fax. 052-877-8962

印刷

株式会社あるむ

頒価

900円(本体価格)